

第8回

全国児童館・児童クラブ沖縄大会

報告誌

～まじゅん ^{すだ} 育ていら 未来の宝～
(みんなで 育てよう 未来の宝)



主催 沖縄県児童館連絡協議会
全国児童厚生員研究協議会
(財) 児童健全育成推進財団

共催 那覇市

第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会 要綱

～まじゅん ^{すだ}育ていら 未来の宝～
(みんなで 育てよう 未来の宝)

日 時

平成19年11月3日(土/祝)～4日(日)

開催場所

パレット市民劇場 (那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9階)
那覇市ぶんかテンプス館 (那覇市牧志3-2-10)
他、国際通り周辺施設

目 的

- 全国の児童館・児童クラブ関係者の研究協議と交流の場とする。
- 全国の児童館・児童クラブ職員の資質向上の場とする。
- 全国の児童館・児童クラブを広くアピールする場とする。
- 沖縄のユイマール(助け合い)の心を全国に発信、共感する。

テ ー マ

～まじゅん ^{すだ}育ていら 未来の宝～
(みんなで 育てよう 未来の宝)

主 催

沖縄県児童館連絡協議会
全国児童厚生員研究協議会
財団法人 児童健全育成推進財団

共 催

那覇市

主 管

第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会実行委員会

後 援

厚生労働省 沖縄県
糸満市 浦添市 うるま市 沖縄市 宜野湾市 豊見城市
名護市 南城市 宮古島市 北谷町 西原町 南風原町
八重瀬町 与那原町 北中城村
(財)こども未来財団 (社福)全国社会福祉協議会
(財)児童育成協会 (財)キリン福祉財団
全国地域活動連絡協議会 民間児童館ネットワーク
(社福)沖縄県社会福祉協議会 沖縄県地域活動連絡協議会
(社福)那覇市社会福祉協議会
沖縄タイムス 琉球新報 琉球放送 沖縄テレビ放送
NHK沖縄放送局 琉球朝日放送 ラジオ沖縄 FM沖縄
FMたまん

目次

大会要綱

歓迎セレモニー				1
開会式	開会挨拶	全国児童厚生員研究協議会 副会長	千葉 雅人	2
	挨拶	財団法人児童健全育成推進財団 常務理事・事務局長	鈴木 一光	3
	来賓祝辞	厚生労働省雇用均等・児童家庭局 育成環境課長	田中 誠	5
	来賓祝辞	沖縄県知事 (代読) 福祉保健部長	仲井眞 弘多 伊波 輝美	7
	来賓祝辞	那覇市市長 (代読) 那覇市副市長	翁 長 雄 志 與 儀 弘 子	8
開会式スナップ				9
記念講演会	『人づくりの種をまく』地域発 感動体験夢舞台			
	講師	南島詩人／脚本・演出家	平田 大 一	10
分科会報告				
第1分科会	目指せ!!五つ星☆☆☆☆☆			
	遊びの素材をキャッチした魅力ある厚生員になろう			24
第2分科会	児童館と地域の協働を図る情報発信			
	「あかぎくるくる町」を体験しよう!!			29
第3分科会	子育てネットをどう築くのか			
	～出前児童館をとおして～			33
第4分科会	いきいきとした放課後を支える児童クラブとは			38
第5分科会	みんなで語り合おう!!			42
第6分科会	“安全”の地域連携とリスクマネジメント			47
第7分科会	「館長・主管課・研究者の集い」放課後子どもプラン			52
第8分科会	「命 ^め どう宝 ^{たから} 」—いのちこそたから—			
	～ずっーとつなげたい大切な命 未来を担う子どもたちへ～			56
☆あそびに コンビニ☆				61
閉会式	閉会挨拶	沖縄県児童館連絡協議会 会長	新城 浩 一	63
		沖縄大会企画担当	大山 真 紀	64
		沖縄大会実行委員長	平 良 秀 子	65
		岩手県立児童館 いわて子どもの森 館長	吉 成 信 夫	66
スタッフ一同の活動スナップ集				67
交流会 in 沖縄				69
次回開催地よりリレーエッセイ おでんせ・いわてへ!				71
参加者の声				71
全国児童厚生員研究協議会(JWH)				72
資 料				73
広 告				78
あとがき				

歓迎セレモニー

沖縄市立あげだ児童館(あげだっ子と児童厚生員) & 安慶田青年会による“安慶田エイサー”



ちびっこも一緒になって、手踊りに参加しました！ 期待の星です☆☆



さあ～安慶田エイサーのはじまりだっ!!



将来は青年会会長を目指す子も、堂々と大太鼓を披露!!



男踊りもかっこいいぞっ☆☆ スリッサーサツ!



チョンダラーも、エイサーにはなくてはならない存在です!



全国のみなさん！
うちな～エイサーを楽しんでもらえましたか？





(抄 録)

全国児童厚生員研究協議会 副会長 千葉 雅人



皆さんこんにちは。とうとう沖縄まで来てしまいました。全国大会。全国からご参加の皆様、遠路はるばるようこそ全国大会に参加いただきましてありがとうございます。そして、現地沖縄の実行委員の皆さん、ついに今日の日を迎えることができました。今までのいろんな努力が実る時がやってきました。おめでとございます。

この日までの実行委員の皆さんのいろいろな活躍ぶりは、衝撃的なプロモーションビデオから始まって、

暖かいブログがずっと続いて「全国の皆さん沖縄に来てね」という気持ちがとてもよく伝わる取り組みだったなと思いました。ありがとうございました。

全国大会はこれで8回目を迎えるわけですが、そもそも平成7年に東京でスタートしました。それ以来、2年おきという原則で、開催都市をどんどん変えながら続いているわけですが、それぞれ地域を抱えている課題とか、歴史とかというものを、その地に足を運ぶことによつて実感できるといのが、開催地が変わる良さです。広島の思いとか、神戸の思いとかというのを実感しながら、全国大会に参加したことをいま懐かしく思いながら、今回この2日間、沖縄の方からどんなメッセージがくるかとても楽しみにしています。

を作っているということで作りましたのが、この全国児童厚生員研究協議会です。

そして、全国大会の開催を思いつき、東京で始まりました。

それ以来、現地で実行委員会を作つて、児童健全育成推進財団と、全国児童厚生員研究協議会が主催者として名前を並べて実行するという仕組みになっております。

さて、この間、児童館が置かれている状況は、目まぐるしく変化をしています。それと同時に、子どもを取り巻く危険、子どもが被害者になる事件、事故、それから、逆に子ども自身が加害者になっているような事故が増えていきます。

子どもたちと日々接している児童館、児童クラブの我々は、子どもたちを守っていく砦にならなければいけないんじゃないかなと思つていて、そのところを皆さんと確認していきたいなと思つています。

それから一方で、子どもたちが体力がないとか、すぐ怪我をするとか、社会性が身につかないとか、こうい

う問題もクローズアップされています。けれども、やはりここで児童館や児童クラブが果たしている遊びの大切な機能、小さい頃から体力をつける、体を動かす、仲間にもまれて遊ぶ。その中でルールを覚えたり、我慢を覚えたりというような、遊びが持っているすごく大切な、成長に欠かせない機能をもつと社会的にアピールして、子どもが本当に健やかに育つように、応援していきたい。

この2日間、短い時間ですけれども、そういうことも踏まえて、いろんな分科会で、それから交流会等でも、いろんな地域の方といろんな角度から議論を進めていただいて、私たちの仕事に肉付けできるように、ぜひ有効に使っていただきたいなと感じています。

最後になりますが、厚生労働省、それから沖縄県、那覇市をはじめとして、多くの機関に多大なるご支援をいただいております。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。



財団法人児童健全育成推進財団 常務理事・事務局長 鈴木 一 光



児童館にプライドを持っていて、皆さんが2年に1回お集まりで、心から歓迎をしたいと思います。沖縄の大会で、今エイサーで歓迎してもらいましたけれども、歓迎して下さる気持ちが肃々と伝わってきて良かったですね。これが某国集団演舞みた

踊っている。一生懸命に大人を接待してくださる気があつたと思うので、こういう文化がいま子どもの中から消えていますよね。テレビを見る、ゲームをする、それから大人に半ば強制的に野球やサッカーを教わる。やっぱり子ども自らが試行錯誤

するところを大事にしていきたいと、こういうふうに私は思っております。さて、今日はこの挨拶のために来ました。ですから、この挨拶を遺言だと思つて、私の持てるものすべてこの3分から5分に投入したいと思つていきます。3つのことを聞いていただきたいと思つています。

を褒めはやしてきた。美しくもなく、人を感動もさせないような、ああいう若い人を英雄扱いしてきた。こういうマスコミにも、我々児童館、児童クラブは挑戦していかなければならない。

いに揃つてなかつたから良かった。いかにも楽しそうに迎えて下さったのでホツとしました。
特に右手の2歳ぐらゐの女の子がすばらしくて、いわゆるみそっかすですね。あの子から見ると、まわりの子どもたちも完全なお兄さん、お姉さん、大人の人のを見て、見様見真似で文化を吸収していくというのが児童館の基本スタイルですよ。あの子の意識

の中で一人前には、母性の欠如した家庭の異常な結束力ですよ。子どもに責任はないかもしれないけれども、あの親父さんの成育歴を見てみると、一朝一夕にものを言つて直る雰囲気ではないですよ。子どもは家庭だけでは育たないということがあれば見るとよくわかる。

ここに集まりの方々は、児童館が好きで、児童館の指導的な立場の方々が集まつていてと思うので釈迦に説教でしょうが、地域の親御さんに世の中の難しいことは易しく言わなければならぬ。易しいことは深く説明しなければいけない。深いことを楽しく語らなければいけない。楽しいことをまじめに掘り下げなければいけない。この意識が私達になると、児童館はただの遊ばせ屋になつてしまふ。これを我々グループは、肝に銘じて、地域の親御さんと接触していきたいというふうに入っています。

放課後子ども教室です。このデータを見せていただと、横浜、川崎、大阪、名古屋、江戸川、品川を先導地として分析しようというような方向性があるようです。私たち児童館・児童クラブを長くやってきたものから見ると、子どもの健全育成が比較的ふるわなかったところでは、

それに対して私たちは言葉をもって説得していかねばいけない。児童館も、放課後児童クラブも、社会福祉事業に規定する第二種の事業として、思いつきでやってきた仕事ではない。今日は厚生省も来て下さっています。今日は法律的な枠組みを背景に、きちんと子どものために要件をそろえて、専門家を要してやってきた。それを放課後子どもプラン先進地だなんて言わせないで下さい。そのくらい自信を持っていきましようよ。

それと指定管理者制度もそうです。経済的な効率だけで計れないものがあります。しかし、指定管理者制度が導入されるほど、適当な働き方をしていた児童館もある。ここを反省しながら、指定管理何するものぞと。やはり地域の健全育成のために、子ども的一般論、子どもの研究をしていく児童館厚生員がいて、日々の実践と合わせて、更に子どもと親のケースに当てはめられる。そういう児童館厚生員がいて、はじめて児童館は成り立つんだと。これを広報しなければいけない。そのためにこの全児研はありますよね。

ほぼ20年前、一部の厚生員さんたちと語らって、何とかこれを広報しなければいけない。自分たちだけで集まって、「児童館頑張っているな」「制度が悪い」と言い合ってたって、誰も世間はわかってくれない。それではパブリシティ効果のあるような大会にして、これを全国に広めていこうというので、有志が5000円握って、東京都の児童会館に集まったのが事の起こりです。この時は50人しか来なかった。東京の児童館厚生員でもその50人は馬鹿にされた。「そんなことして世の中変わるかよ。日常の事業をサボってそんなところへ行かないでくれ」という意識の中で作り上げてきて、この大会までできた。

この状況を見ると私は嬉しくなりますが、まだまだ児童館はこれからです。放課後児童クラブもこれからです。私たちはプロだから、子どもの健全育成に結果責任を負う。子どもの今の現状を見たら、児童館・児童クラブは責任を果たしていない。アマチュアだったら、頑張ったけれども子どもがちつともよくならないですよ、で済むけど、プロは金銭の問題じゃない。自分達が考えた健全育成で、世の中に子どもであふれなければ、仕事をやりきったとは言えないんです。そのプロ意識をもう一度持つために、2年に1度集まっているんです。こういうプロ意識のある児童館厚生員がいるということを目指したい。そのために、あそび

にコンビニも始めた。そのプライドをぜひ示したいなと思っています。

それから一つ、最後になりますけれども、私達大人にも発達段階というものがありますね。今流行の五木寛之の『林住期』を読むと、50から75までは林に住めって。東洋の伝統的な発達段階論。この発達段階論だと、そろそろ自分のキャリアはもう置いておいて、一歩離れたところで社会のために貢献するのが林住期。その林住期に身を置くものとして、この全児研をぜひ若い世代に譲って、スタートを切った連中は後の方で林の中から広く声をかける程度にしようかなと思っております。

30代後半から40代の諸君、ぜひバトンタッチを受けて、頑張っていたいただきたいなというふうに思います。

今晚この場にいられないのがちよつと残念なんですけれども、ぜひ次、次、次と渡って、全国の子どもたちが本当に明るく、楽しく暮らせるような社会に少しでも貢献をする会であってほしいなと思っております。





厚生労働省雇用均等・児童家庭局 育成環境課長 田中 誠



まして感謝しております。本大会は先ほどからご紹介をされているように、行政主導ではなくて、児童館の職員の皆様方が自発的に集まられて、自己研鑽をするということ、児童健全育成推進財団が主催となって概ね2年ごとに全国各地で開催されているというふう聞いております。

これが必要ではないかと思えます。組織からの派遣ではなくて、当事者の皆様方が自発的に集まりまして、この事業を何とかしなくてはいけないという思いが、もっと一般の方々、福祉関係者だけではなく、教育関係者だけでなく、それ以外の方々にも大いに児童館とか、児童クラブの存在をアピールしていただきたいと思えます。

子どもを巻き込む犯罪や事件の増加によりまして、子どもたちが安心して過ごせる場所の確保が困難になってきております。ここは児童館の存在価値を示す絶好の機会ではないかと思っております。現在4、716か所の児童館がございますが、ここ数年は数的に横這いの状況になっております。昭和40年代から50年代にかけてまして、子どもの事故が多発や、いわゆる鍵っ子の増加により児童館が増しましたが、もう一度その流れが来ているんじゃないかというふうに出ております。我々もいろいろなところで声を上げていきます。一緒に児童館の必要性をアピールしていきたいと思えます。一緒に頑張りましょう。

子どもを巻き込む犯罪や事件の増加によりまして、子どもたちが安心して過ごせる場所の確保が困難になってきております。ここは児童館の存在価値を示す絶好の機会ではないかと思っております。現在4、716か所の児童館がございますが、ここ数年は数的に横這いの状況になっております。昭和40年代から50年代にかけてまして、子どもの事故が多発や、いわゆる鍵っ子の増加により児童館が増しましたが、もう一度その流れが来ているんじゃないかというふうに出ております。我々もいろいろなところで声を上げていきます。一緒に児童館の必要性をアピールしていきたいと思えます。一緒に頑張りましょう。

皆さまこんにちは。ただいまご紹介いただきました。厚生労働省雇用均等・児童家庭局の育成環境課長としております田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

日頃から子どもたちの居場所作りとか、活動の支援にご尽力いただき

この沖縄大会では400名という方々にご参加いただいていると聞いております。現場ですぐに役立つ実践技術から今後の事業のあり方についてなど様々な分科会で議論されるそうですが、第1分科会のテーマは「目指せ5つ星」と、いいですね。そういうことで頑張っていたきたい

私どもは児童健全育成をやっておりますが、一つは、放課後子どもプラン、先ほどもご紹介ありました放課後子どもプランということ、私どもの放課後児童クラブと文科省の放課後子ども教室を連携しながらやっているということ、

今までは子ども居場所作りについては児童館が一手に引き受けていましたが、子どもたちが巻き込まれる悲しい事件や事故を踏まえまして、子どもたちが安心して過ごせる場所を早急に増やさなくてははいけないということ、学校を今まで以上に活用できないかということ、その中で一緒にやってみようというものでございます。

本プランの推進やこれまでの取り組みはそのままにいたしまして、児童館は児童館でやってみようということで、できる場所を増やそうということ、学校と協力しながらやってみようということでございます。地域の中で、児童館は児童館の良さを、子ども教室は子ども教室の良さを出せるように、引き続き魅力ある取り組みをお願いしたいと思います。

もう一つでございますが、ご存知のことと思いますが、放課後児童クラブのガイドラインを作りました。先月の19日、国において初めてガイドラインを作成しました。先の7月にインターネットでパブリックコメントを募集しましたところ、1、500通を超えるようなご意見をいただきました。関心が非常に高かった証拠だと思います。

放課後児童クラブそのものは、もともと父母会が実施するなど、地域において様々な形態で実施されたことから、それぞれの取り組みに支障がないように、国において一律の基

準を示すということはおしておりませんでしたが、クラブの急増とか、実施箇所数が年々増加しております。クラブを生活の場としている子どもへの健全育成を図ることを目的として、クラブとして望ましい運営方法を目指すためのガイドラインを作成したものでございます。各クラブにおきましては、このガイドラインを参考に、定期的に自己点検をするなど、資質の向上に努めていただければと思います。

長くなつたのですが、今日はこの会場に特別ゲストで、児童福祉週間の今年度の標語に選ばれました地元沖繩の与那原小学校の5年生の松堂君がこの会場にお見えだそうです。標語の最優秀作品おめでとうございます。

我々大人も子どもたちの未来のために頑張りますので、君たちも頑張ってください。ありがとうございます。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。



▲松堂一成君と田中 誠様



▲今年度、児童福祉週間の標語の最優秀作品を受賞した与那原小学校5年生の松堂一成君



沖繩県知事 仲井眞弘多
(代読) 福祉保健部長 伊波輝美

皆さんのご活躍を祈念しております。

上げます。
本日、全国の児童館や放課後児童クラブでご活躍されている多くの方々のご参加をいただき、ここ沖縄県で全国大会が開催できますことを大変喜ばしく思っております。また、沖縄県庁前県民広場においてプレイベントを行って下さった県内外の児童厚生員の皆様方におかれましては、子どもたちに遊びの場を提供していただいております。ありがとうございます。

こうした中、児童館・児童クラブの関係者の皆様が、資質の向上と交流を目的として研究、協議を行うことは大変意義深いことと思います。

また、県内外からおこしの皆様には、この機会に本県の持つ亜熱帯特有の自然や独特の文化に触れていただき、県民との交流を深めていただければ幸いに存じます。

結びに、全国及び各都道府県の児童館と放課後児童クラブの活動の今後のご発展とご来場の皆様のみますますのご健勝並びに本大会の成功を祈念しまして挨拶いたします。平成19年11月3日。沖縄県知事 仲井眞弘多。

さて、近年、少子高齢化が進行する中、児童虐待、引きこもりなど、児童を取り巻く環境は一層深刻化の度合いを増しており、これら諸問題の対応が、国や地方公共団体においても重要な課題となっております。また、核家族化や夫婦共働きの世帯

皆さんこんにちは。仲井眞知事が別用務のため出席できません。私は福祉保健部長をしております伊波と申します。ご挨拶を代読させていただきます。
第8回全国児童館・児童クラブ沖繩大会の開催にあたりご挨拶を申し



皆さんこんにちは。那覇市副市長の與儀でございます。本日は、全国各地から沖縄県、この那覇市によるこそお越し下さいました。心から歓迎申し上げます。大会日程が終わりましましたら、ぜひ那覇市内の散策もお勧めいたします。首里城をはじめと

開催に当たりご尽力賜りました沖縄県児童館連絡協議会及び実行委員会のも皆様には深く敬意を表します。本大会には全国から多くの児童館、児童クラブの関係者の皆様にご参集いただきましたが、「まじゅん育ていら未来の宝」をテーマに、子

する世界文化遺産、そして中心市街地には公設市場があつて、いろんな色のお魚が売られております。ぜひ伝統長寿食も味わっていたければなどご案内いたします。

それでは、翁長雄志那覇市長が別公務でございますので、私が市長の祝辞を代読させていただきます。

第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会の開催を心よりお喜び申し上げます。

育て環境における様々な課題について分科会が開かれ、報告、意見交換等が行われると伺っております。

近年、核家族化の進行や都市化による人間関係の希薄化などにより、地域の教育力は低下していると言われており、少子高齢化の進む中で、子どもたちの健全育成の推進は各市町村にとりましても重要な課題となっております。

このような中、那覇市では、次代を担う子どもたちの健全育成と子どもに関する施策の効果的、効率的実施のため、子ども未来部を立ち上げたところでございます。子どもたちの健全育成、子育て支援の一端を担う児童館、児童クラブの皆様の全国大会が今回那覇市で開催されることは大変意義深く、また、時宜を得たものと考えております。

ご参集の皆様におかれましては、社会全体で子どもを見守り、育てるという地域づくりの中心となつて、子どもたちの健全育成に取り組まれることを期待申し上げます。

また、他府県からご参集いただき

那覇市市長 翁長雄志
(代読) 那覇市副市長 與儀弘子

ました皆様には、短い期間ではございますが、この機会にぜひ沖縄独特の自然、歴史、文化等に触れていただき、子どもたちの健全育成のため見聞を広めていただきたいと思います。

結びに、第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会のご成功と関係機関のご発展、並びにご参加いただきました皆様は今後ますますのご健勝を心から祈念申し上げます。ご挨拶いたします。平成19年11月3日。那覇市長 翁長雄志。

代読でした。ありがとうございます。

開会式スナップ





記念講演会

『人づくりの種をまく』

地域発 感動体験夢舞台

講師

南島詩人／脚本・演出家

ひら たい だい いち
平 田 大 一





『人づくりの種をまぐ』 地域発 感動体験夢舞台

講師 南島詩人／脚本・演出家

平田大 ひら たい だい いち



★(笛の演奏)

皆さん、こんにちは。司会の方からご紹介いただきました。那覇市の芸術監督3年目を迎えております。そして、南島詩人という名前で、学校公演も800校を超える学校を

回ってまいりました。地域にまつわるエピソードや物語、伝説、伝承、神話、そういったものを題材にして、そのテーマソングと台本を書いて、その子どもたちが、自分達の地域の物語を演じ、子どもたちが変わっていく姿を見て大人たちも変わり、ついには、町が変わるといふ子どもが先頭に立つてやる地域おこしの渦のど真ん中で、一緒に舞台活動をさせてもらっております。南島詩人の平田大一と申します。今日は一生懸命このいただいた時間を使いまして、全国の皆さんに沖縄の元気が届くように、話をしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

もともとの生まれは、「ちゅらさ

ん」で有名なあの小浜島というのが僕の生まれでございます。周囲が16キロしかなくて、人口は500名の島です。軒数が220軒ぐらい。ほんとに村の端から端まで歩いて3分47秒というような、小さな小さな島で生まれました。同級生が4名です。ほんとに、島全体児童館みたいな感じの、そういう感じの中で僕は生まれ育ちました。

そしてそれから、小学校、中学校を小浜島で出まして、八重山高校という高校は石垣島にありますが、15歳から下宿を始めて、親元を離れ、石垣島の八重山高校に通い出すんです。同級生を言えば皆さんすぐわかります。B E G I Nという3人組。

「ああ」って反応がよろしいですけども、そのB E G I Nが僕ら同級生で、歌が好き、音楽が大好きという世代でございます。その結果と言いますか、なんと言いますか、非常にそういったことが大好きなお陰で、国公立の大学に進学する率が一番悪い年だったということもありまして、変な話ですけども、私の卒業した

4年後、私の妹の代からは進学コースというのができたというように、いいのか悪いのかわかりませんが、そういうようなひとつの大きな時代の転換期を僕は過しました。

でも振り返ってみますと不思議なものです。今、八重山に、沖縄に帰ってきて、地域おこしや島にまつわる活動をやっているメンバーのほとんどは、申、酉、43年生の生まれ、僕らの年代が多いんです。B I G I Nもわかり、そして一つ上に新良幸人さんという人がいます。そういうふうに、僕らは、歌や音楽、芸能や文化を通して、この地域に生まれた誇りや根っこを感じてまいりました。大学は東京に進学しました。東京生活4年間の中でわかったことが一つあります。それは、生まれた自分の島の音楽や芸能や文化というものは、島の人からすれば当たり前で古臭くて、何かダサいものだけれども、世界の人から見たらすごく新しく、刺激的だということに気づきました。古いものが新しいという感覚を、今、沖縄の人は忘れてるんじゃない

いだろうか。特に僕ら若い世代が忘れていんじゃないだろうかというところで、島に戻って、僕はいわゆる地域の伝統芸能や文化をもとにして、新しい光を当ててアプローチしました。子どもたちを、その伝統までの、島の入り口まで連れてくる。そこから入るかどうかはその子たちそれぞれが決めますが、そのきっかけづくりをしていきたいなということ、今から18年前、大学4年生の頃です。

卒業間近の僕に、亀井日出克さんという人からいただいた曲がありました。その曲に歌って踊れるような詩をつけてほしいということで、島にまつわる「口説(クドウチ)」という、ラップみたいなものがあるんですが、それをつけたのが「ミルクムナリ」という曲になりました。18年前、この世に島の歌が新しい形でデビューをしたわけでございます。僕は、まだ21歳でございました。その頃の僕の思いからいけば、今、沖縄で、ましてや世界中で、この間もハワイに行ったらハワイでも踊ってくれましたけれども、その「ミルクムナリ」という曲をみんなが踊っている姿を見ながら、沖縄を取り巻く環境も随分変わってきたなというふうに思います。

僕は、大学卒業と同時に島に帰りました。島に帰って言われた言葉、「なぜ帰ってきたか」と。島に帰るということ、ちよつと言葉が悪いんですが、ずばり、はつきり言うな

らば、失業、挫折、バツイチと、これしかない。お前が帰って来る理由がわからないということ、こっぴどく怒られました。仏壇の前に一人座らされ、親族縁者が40名余り、対峙した状態で、「何で帰ってきたか。お前には期待をしていたんだ」と。確かに大学で東京まで行って、「戻って来て農業をするつもりか。お前は」というようなことを言っているわけです。

そういう自分達の生まれた島のことをもつとしっかりと見つめていて、評価していかなければ、本当の意味でのこの島の未来はないんじゃないかなと、ぼんやりと僕は思いましたので、「俺は帰って来るんじゃない、上京して来るんだ」というような屁理屈をこねました。なんだそれはと。僕だって中央志向だと。花の都東京に向かって、自分の同級生のBIGINがいたりして頑張っている。「恋しくて」という曲でメジャーデビューを果たしていた時期です。

「僕だって同じだ。自分の夢に向かって飛んでいきたい。ただ、僕は気がついた。自分が生まれた島が僕の中央だと。だから僕は帰って来るんじゃない、上京して来るんだ」と言いもしたら、奇跡が起きました。仏壇から風がポーッと吹いて、親父も、お袋も、嵐にあったような顔になって、目が点々、口がツンツンと、口がポカーンと開いた状態で一言、初めて親父がポツリと言ったんです。

「好きにしたらいいさ」と。これが唯一僕がうちの両親に歯向かった出来事です。

僕はいろんな出会いがありました。今日は時間が限られているので、僕の体験したお話、そして今行っている活動のお話をさせてもらって、それをもって、どこまでお話できるかわかりませんが、精一杯話をしていきたいなと思っています。

僕はいろんな出会いがある中で、二つだけ皆さんに紹介したい話があります。一つは大学を卒業する時の話です。島に帰る時に、ゼミでお世話になった杉山先生に「先生、僕は島に帰ります」と言ったら、先生が僕に言うんです。「平田君、アメリカでは三流の学生が大体一流企業なんていうやつに入るんだよ」と言うんです。僕は何を言い出だすんだ、この先生はと思ったんですが、「先生、一流の学生はどうするんですか」と聞いたら、間髪をいれずにこう言ったんです。「自分で興すんだよ」と。

非常にその言葉が胸に残って、「いいか平田君。この大学に入ったということがいいことだったか、悪いことだったか、大学を出た後にわかる。名前なんかじゃない。君が一流の学生か、三流の学生かは、君の島での活動、行動がすべてそれを物語っているんだ。頑張れよ」ということで、エールをいただきました。僕はその時にひとつのある決意をしました。それは、自分の生まれた

島を知ることがどれだけ大事ななことかというのを、次の世代の子どもたちに伝えていきたいと思いましたが、島に生まれたことは、鎖んのかじゃないんだ。島に生まれたことは鎖んかじゃなくて根つこなんだということを見んなに知ってもらおうという活動をしていきたい思いました。島に帰って、全国からキビ刈りをやりたいたいというボランティアのメンバーを募り、サトウキビ畑を教室にした「キビ刈り援農塾」をスタートして今年で13年目。当時は10名ぐらいだったのが、今では2,000名余りのお客さんが来るようになりました。

そしてもう一つ、小浜島でしか手に入らないという本を作りました。買いたいやつはこの島に来いという、何とも強気な本でございましたが、7,000冊余りが島から出て行きました。今のうちに「ちゆらさん」で有名になった頃だったらわかりませんが、そうじゃない頃にやったかから意味があると思っています。そして、その活動を通して、大学時代に書きためた詩を本にしたわけですが、その詩の朗読のステージ、それを舞台に演出して、一人舞台として見てもらう。そして、島の言葉をふんだんに使った朗読舞台を展開しました。そういうことがきっかけで、「平田君、舞台の演出をやってみないか」ということで、子どもたちの舞台演出に関わるようになりました。

99年の3月4日「沖縄サンシンの日」と非常に盛り上がったときに、家族を連れて、この沖縄本島に引越しをしたのは30歳。島に帰って8年目の出来事でございます。

今日これから話をしたいことは、8年前、30歳で沖縄本島にやってきてから今日までの中で起こった出来事をお話したいと思います。せっかくでございませうので、一曲そろそろ皆さんお尻が痛くなってきたころ、歌いたいと思います。拍手で応援よろしくお願いします。

誰から教わることもなく、島の子どもたちは、笛や三線、太鼓、踊り、歌、そういったものを教わります。先ほどどなたか先生がおっしゃっていましたが、そういう地域の文化を近くで見ている、それを子どもたちが憧れにして、そうやって地域に根ざした生き方をしていくという、ほんとに安慶田のエイサーにも見られるように、僕もやっぱりあったわけでございます。

オリジナルの歌で、島の歌。

★(歌・三線)

さて、実は9年前からやっている活動というのが、5つの地域の子どもたちと作っている舞台です。勝連という町があります。うるま市勝連、その「肝高の阿麻和利」という舞台、浦添の「太陽(ティータ)の王子」、浦添市の英祖王の物語。八重山の「オヤケアカハチ」という豪族の物語。そして、金武町の「海外移

民の父 当山久三物語。当山久三という、知る人は知っています、ハワイ移民、海外移民の沖縄の父と言われている人でございます。そして最後に、この那覇市の「燃ゆる首里城」、そしてつい先週10月25日に終わりました、「那覇センセーション」という舞台を作っております。すべて地域にまつわる物語、そういうものを新しく再構築し直して、子どもたちに演じてもらうわけです。テーマソング、脚本、何でもやります。いないところは僕が全部やらなければいけない。そうやってまいりました。

ここに、ある子どもたちからの感想文があります。芸術監督というのは、那覇市内の学校から要請があれば教えるに行くわけです。専門家講師派遣授業、スペシャリスト派遣授業というのがありまして、学芸会や運動会に行きます。先生方は専門的な演出論とか分からないままに一生懸命やっている。この間もすごい運動会がありました、子どもたちが裸足で運動会をやっているんです。すごいなとびっくりして、子どもたちに「いつも裸足のな」と聞くと、「うん、今日から」と子どもたちは言ってます。先生は「走れー！」とか言っているんです。走れないでしょうと思いつつながら、そういうような中に入つて、「じゃあ、走るのが難しかったら踊りながら行ったらどうかな？」と、そういう提案をしてあげたりして、何とか子どもたちと先生の間に入つて、その距離感を縮めるという、こんな仕事でございます。

ある学校、もうずばり言っているですね。古蔵小学校という学校があります。その子どもたちの学芸会に行きました。「走れメロス」という作品をやるといふことで、「走れメロス」と沖縄をどうやってつなげようかなと思つたんですが、見事でございます。走れメロスの中にエイサーが入っていました。びっくりしましたけれども、そういうことの演出を含めて、ちよつとお手伝いをするわけです。子どもたちの感想文を通して、僕の仕事というのを少し皆さんにご紹介したいと思っております。

「平田大一人さんへ。僕は平田大一人さんのことをすごいなと思つた。なぜなら、平田大一人さんは有名人だからと先生から聞いていたからです。それで平田大一人さんが体育館に来てから、有名人なのに見たことないなと思つた」、「正直です。でも、平田大一人さんがみんなに話をしたら、平田大一人さんもおもしろい人だなと思つた。平田大一人さんがこんなにおもしろいと気づかなかつたので、びっくりしました。そして、平田大一人さんが歌を歌つた時、とてもいい声で、いい歌でした。平田大一人さんが劇を教えてくれてとてもうれしかったです、これは石川君という少年でございます。そしてさらに、僕は一生懸命子どもたちを指導するわけですが、「ありがとう、平田大一人さん」これは夕

イトルが全部ついています。「僕は町の人の役だけけど、希望した役じゃないのがっかりしていました。でも、平田大一人さんが、この役は最初の雰囲気を作る役なので頑張つてほしいと言つたので、ああそうなんだ。だったら頑張ろうと思つた。それで前まではちよつと恥かしいと思つてやっていたけど、今は自信を持って演じています。平田大一人さんがいたお陰です。ありがとうございました」、「久手堅君です。

この子はタイトルが素敵なので選んでしまいました。「真剣一筋平田大一人」と。僕は、最初平田さんが古蔵小に来た時、すごいオーラがある人だなと感じました。先生が、平田さんはとても怖い人と言つていたので、ふざけずにやりました。でも平田さんはとても優しくなりました。でも教える時はとても真剣で、教え方もさすがプロと思つました。平田さんはこの5日間で、僕たちを完璧にしてくれました。僕は平田さんをとっても尊敬しています。この5日間、僕たちに劇を教えてくれて、本当に感謝しております。また時間があれば、ぜひ僕の学校に来て下さい。「大城君。こういう感じですね。

最後に一つだけ、これはちよつと感動的だったので皆さんに紹介したいと思います。「平田大一人さんたちへ」、「僕を含めて踊りを教える人、大體4名1チームで行きます。なので「平田大一人さんたちへ」と。「私は5年生の時、不登校になった時があり、

家族の人とじゃないと、人がいつばいいる所に行けなくなったり、一人では何もできないぐらい友達にいつもくっついていました。でも、これじゃあダメだと思つて、6年生になつて必死になつて学校に通いました。そして、運動会やいろいろなことを乗り越えて、平田大一さんたちに出会いました。平田大一さんの歌を聞いた時は鳥肌がたつて、すごい、かっこいいと思えました。スタツプさんのエイサー、空手、琉舞を見ると、何でこんなに堂々と人の前に立つて、みんなと触れ合うことができるのだろう。自分もこんなふうになりたいと思つていました。平田大一さんたちに出会えたから、メロスのオーディションにも頑張つて受けることができました。」主人公だつたんです、彼女は。

「平田大一さんたちに出会えたから、メロスを演じることができて、心配していた家族やいとこの人たちにも、自分はまだ大丈夫だよと表すことができ、自分にも自信を持つことができました。本当に学校に来てくれてありがとうございました。これからも頑張つてください。私も頑張ります。」友利ちゃん。

先生にこの感想文をもらつて、講演会でこういうふうにお話をしてもいいですかということの許可をもらいつつ、今日はお話させてもらいましたけれども、子どもたちの生の声、一枚一枚、一つ一つが、ほんとに涙なくしては読めないような文章だら

けでございます。そして一つ僕は気づきました。先生はこう言つたんです、僕に。「平田さん、僕たちは今までなんて無駄に怒つていたんでしょか」ということを言つたんです。よくわかりませんが、そのコメントの意味が。どうやら僕も厳しいことを言つたなと思う時もあったんです。でも、子どもたちはそれを「真剣に話してくれてありがとうございました。一生懸命でありがとうございました。」と言つてくれるんです。

そうか、気持ちを入れて、きつちり話をすれば届くんかということ、僕はこの子たちから改めて教えてもらいました。一番大事なのはやっぱり、何を伝えたいのかということをはつきりと、きつちりと伝えてあげることなんじゃないかなと思つてました。

先生方が「走れ」と言つても子どもは走らない。なぜか。実は、太鼓のドンが合図だつたんです。ドン、パーッと行くんです。ドンを忘れていくだけで、子どもたちは約束が違う、ドンがないと俺たちは走れないといつて待っているんです。「何をやっていくんだ、走れ。」先生のドンがないからと言つていますよ」ドン、パーッと行くんです。大人と子どもとの距離感、意外に本当は近いはずなんです、ちょっとしたこといふことで実はボタンのほめ違い、そういうことがいっばいあるわけなんです。

さて、今日お話ししたいことは、あ

る町のお話でございます。これは沖縄本島内では、小学校、中学校、高校、それからPTAや子ども会、地域会なんかでお話させてもらつておりますが、今日は全国からお集まりだということなので、改めてもう一回この場でお話させてもらいたいというふうに思つております。勝連の「肝高の阿麻和利」のお話をさせてもらいたいと思つています。

実は9年目になりました。99年の12月24日に最初のオリエンテーションというのがありまして、勝連町の教育委員会がこの取り組みを始めるということ、僕は舞台の演出家と呼ばれました。ところが稽古場がありますシビックセンターという300人ぐらい入るフロアに行きましたら、席は80席ぐらい用意してあるんですが、来ている子どもは7名しかいないんです。それで教育委員会の職員を含めまして僕ら教えるメンバーが前に5名。5対7で何かお見合い状態でその稽古が始まりました。

隣から社会教育主事の先生が僕を引っ張つてこう言うわけです。「平田先生、申し訳ありません。うちの子どもたちはみんな田舎者なものですから、恥かしがりやさんなんですよ」と。「何言っているんですか」と僕はちょっといなしました。「確かにそうかもしれないけれども、田舎者の子どもが全部大人しいというんだつたら、僕は当てはまりませんよ」と。だつて僕の同級生は4名ですよ。田舎勝負なら僕が勝ちますと、

訳のわからない変な自慢をしました。大人がそういうふうな思っているだけで、子どもたちは誰一人として本当は思っていないはずですから。まず、大人の意識から変えていきましようという話をしたんです。

でも、ほんとに不思議です。7名しか来ない。僕もおかしいと思つたんです。なぜならば、遡ること約2週間ほど前に、この12月24日に集まる2週間前に、4つの勝連地域の中学校全部を回つたんです。与勝中学校、第二中学校、浜中学校、津堅中学校と回つて、朝礼の時間30分間をもらつて、舞台、エイサーもあるぞ、あれもあるぞ、やってみないかと言つたら、「ワーツ」と反応はすごく良かったんです。これはいけるということ、戻つて蓋を開けたら7名だつた。

実は子どもたちのやる気、盛り上げるのも、盛り下げるのもこの二つです、親と学校。この二つが一番ネックになっていました。まず、学校にお願いに行きました。7時以降は私達は立ち会えないから、教育委員会でお願いますと、まずこういう話をした。これも納得できる。そうだな、7時以降はさすがに先生たちもちょっと時間はなと。ところが今度は、教育委員会に電話がかかってくる、親御さんから。うちの子どもは学校に行つて、部活動や塾に行つて忙しいんだと。これ以上うちの子どもに、教育委員会、お前ら何をさせるつもりなんだと、抗議の電

話がかかってくるわけです。

あげくの果てにこう言いました。

教育委員会がバスを出すなら、送迎するなら行かせてもいいよというわけです。「エーツ」という話ですけれども。じゃあ、車を出しましょうと僕が提案しました。社会福祉協議会の「フクフク号」とか何かありますでしょう、そういうバスが。30名ぐらいのバスが。「あれを使っていいいんですか」と言ったら、「いいけど、平田さん、あれは大型の免許が必要なんだよ」というわけです。僕は小浜島で何と10年間、島内観光案内、バスの運転手をしていたんです、仕事で。つまり、大型の2種の免許を持っています。僕は大型2種を持っていきますと言ったら、そんな演出家初めて見たと言われまして、それもそうだなと思いつながら、バスを運転して自ら学校を回って、子どもたちここで集まってねということを集めてくるわけです。

それで6時半に集合です。7時に会場に着きます。お腹が空いている子どもたち。まず、お食事から始まります。7時から7時半まで食事タイム。教育委員会が用意したおにぎりをほお張りながら、学校の先生いろいろな話を聞きます。そして、いよいよ7時半から稽古が始まるわけです。

ところがですね、皆さん、わかりません。学芸会、学習発表会を見てわかるとおり、子どもたちで演劇が、好きなんだけど声を出せ

ないんです。恥かしがりやさんが多いんです。じゃあ、何で来ているのと聞きたい。先生に行けと言われたからとか、お母さんが無理やりとか、子どもたちもいろいろなんです。

やるぞーと言ったら、隣の学校ほど仲が悪いんです。端っこで端っこにみんな固まって、3名、4名でこちよこちよこちよとなっているんです。真ん中に一人ぼっちで僕はポツンといて、「やろう」と言っても、「やつてー、平田さん、やつてー、いいよ」とこんな感じなんです。

しょうがないので、まずゲームをやろうということで、7時半から8時半まで1時間、もう舞台の練習をしない、遊ぶということ徹底してやりました。イニシアティブゲームという、グルーブを作つては、崩しては、作つては、崩してはという、よくキャンプなんかでやるゲームです。そういうゲームを繰り返して、繰り返しやっていくうちに、新しいグルーブを作っていくわけです。

だんだん端っこにいた子どもたちが真ん中に集まってくる、声を出して歌を歌う、笑う。8時半になりました。実は稽古は9時までなんです。ほとんどやってないです。子どもたちから意見が出るんです。「平田さん、舞台の稽古はしないの」と言うんです。「あら、やりたいの？」と言ったら、「だから来ているし」と言うんです。「それもそうか。ごめん早く言つて、そういうことを」と僕が言つたんです。「じゃあ、やろう」と

いって、それで台本を開くわけなんです。

ところが、脚本家の書いた台本の字が難しく、漢字が読めないんです、子どもたち。「されど衆寡敵せず」とかですね。言葉が難しいので、台本を直す作業をしなければいけません。「誰だ、お前は」というのを「誰だ、お前だ」と話が終わりたりですね。「違う、それ。物語が変つていよ」とか言いながら、「へーバラ、首尾はどうだ」というのを間違えて、「へーバラ、趣味はなんだ」と。

一つ一つやるたびにドーッとみんな笑うわけです。「ワハハハ、これは趣味じゃない、首尾だ、首尾」「意味は何」「ウーン、まあいいやシユビと書いておいて」「みたいな、平仮名をふるみたいなの。

そういうふうなやり方をしながら、ほんとに25分間、ひたすら台本の読み合わせをするわけです。ところがみんなやりたい役は決まっています。主人公です。恥ずかしがりやさんのくせに目立つ役をやりたいんです。阿麻和利、阿麻和利という。阿麻和利という王様の物語で、みんな阿麻和利をやりたいんです。あと残り24人分僕が全部やりました。一人ずつ阿麻和利の台詞を交代でやつてもらつてね。そのうち、この役おもしろいという、じゃあ君に分けてあげようよとだんだん返していく。そういうことの繰り返しをやっていく中で、25分間はあつという間に過ぎます。

さて、8時55分から9時までの5分間、この5分間に僕はほんとに思いを込めて、命をかけてやりました。何をやったかという、今日の一芸というコーナーを設けたんです。

「平田大一人さん、南島詩人の今日の一芸のコーナー」、ヤーツ、一人でパチパチパチとしながら、子どもたちを座らせて、笛、三線、太鼓、歌、踊り、詩の朗読、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ついに物まねで、自分が持てる芸を1個ずつ小出しにして、50回の稽古をやるわけです。

子どもたちは、僕がダウンと踊つたら、ワーツと盛り上がる。盛り上がった子どもたちに「どうだった」と聞くと、「うん、うん、おもしろかった」と言っています。「オーケー、次も来る?」「来る、来る、来る」と言うんです。「よしわかった。じゃあ今度来る時は、友達を一人連れてきてね」ということで、「うん、わかった」と言う彼女、彼を見送りながら、次にまた学校へ迎えに行く、確かにお友達が増えていくわけです。バスに乗せて、ご飯を食べて、そして7時半から稽古が始まります。「オーパレアレ」と声出しが始まる。昨日やった友達はずぐに仲良くなりません。でも、今日来たお友達は壁にへばりついてみんな言います。「うわつ、キモ。テンション高すぎやし、この大人」とか言っているんです。その声を聞きながら、「はい、キモイです。キモタカのア麻和利」とか笑いながら、自虐ギャグにはしりな

がら、何かやりながら、「子どもたちにゲームで人数が合わないから入らない？」と言って、ゲームで奇数の人数7名をわざわざ12名にしたりして入れて、それで半分にわけてやるということをやったり、最後のいわゆる日本の読み合わせも付き合ってもらい、僕の一芸まで見てもらう。ワーツと盛り上がる。

その子に聞きます。「どうだった、今日。初めて来てどうだった」、彼言います。「意外におもしろかった」と言っています。「ああそう。じゃあ、今度も来る」と聞いたなら、「来てあげてもいいよ」と言っています。生気です、今、聞けば。でも、その頃の僕は必死でした。学校と違って、この学びの場所は、子どもたちが来たくないと思えば来なくていい場所なんです。来させるために、僕は一芸をやっていたわけです。つまり、びっくり箱を1個用意したということとです。おまけです、グリコの。明日のおまけは何かなどみんな来るわけです。だから僕はこう言いました。「ありがとう、そうだよ。僕のために来てあげてくれ」と言ったら、「わかった」「あー、友達一人連れて来てね」というのを忘れません。

彼は気のない返事で「ああ、わかった」と行くんですけど、翌日、友達はいらんです。彼も恥ずかしがりながら、最初は後乗りで入ってきて、やっぱりみんな壁にへばりついていきます。最初に来た友達は「ワーツ、キモ。何であんなのできるわ

け」みたいな感じになっていて、またゲームで、一芸で盛り上げて、「どうだった?」「また来ます」みたいな感じで、50回の稽古をやりました。3月21日の本番まで、ほぼ2日に1回そういうことをやっていたわけです。

さて、いよいよ本番の朝です。ふたを開けました。グスクでやりました。お城の跡でやりました、勝連城の。その日の舞台は野外ステージを組んでいるわけです。何と出演者の数が、その日の朝数えたら150名に増えていました。そして、見に来たお客さんは、2日間で4、200名来ました。(拍手)ありがとうございます。2、000名をこえると拍手はこういうパラパラ拍手ではありませぬ。拍手は、グワーツと、地響き、地鳴りです。子どもたちはビビビビビーツと電気が走るんです。「やばい、今日しなされる」と言っているんです。すみません、本土から来た方々、沖縄の子どもたちはこういう言葉を使います。「やばい、きようは絶対生きて帰れない」みたいな感じですね。

指笛がなると、ピーツと音が震えるんです。電気が走っている。初めてその日の朝、彼らは真剣に台本を読み始めました。本番の朝です。間に合うはずがありません。間違いはあるは、タイミングは合わないは。でも、一つ一つやるたんびにお客さんがバーツと拍手するんです。やって、「できたんだー、できてるぞー」

と言うわけです。反対していたお父さん、お母さんも来ているわけです。親父やわら立ち上がったって、「あれはうちの息子だ」と言ったら、みんながパチパチパチパチ、ピーツ、カンパイツって、こちら辺から乾杯が始まったらしいです。誰かの息子が出るたんびに、「あれはうちの息子だー」、ワーツと盛り上がる。

昔あつた村芝居のような雰囲気、ピュピュピュピュピュ、ワーツ、ワハハハ、間違えてもゲラゲラ笑いながら、ワーツと拍手するんです。子どもたちは支えられたんです。最後までやりきりました。最後はハッハヒヤサツサー、唯一練習していた踊り、テーマソングだけ、そこをパーンとやった瞬間に、ウワーツという歓声が起こって、自分の子どもがああ舞台に立っているだけで奇跡なのに、歌って踊っているというこの大きな奇跡に、大人がダーツと涙を流したんです。「すごい、ウワーツ」と立ち上がった、泣きながら。それを見て子どもたちバーツと涙を流したんです。自分の親の涙って、子どもは最近なかなか見ないでしようね。ウワーツと泣いている姿を見て子どもも泣いて、大人も泣いている姿を見て、教育委員会のメンバーも、俺たちもいい仕事をしたと、ってダーツと泣いていました、みんな。

みんな泣いているんです。僕だけ、どうやってこのお城から帰そうかなと、変に冷静に考えているんですけど、教育長が走ってきまして僕に言いました。「平田先生、ありがとうございました。これが本当の教育ですよ」と彼が言うんです。「道徳とは、感動体験の異名ですね。この感動体験、涙を流すという感動体験が、一番大事な最後の教育なんじゃないでしょうか」と彼が言うんです。70を越えたおじいちゃんやんが切々と僕に言うわけです。肩を抱いて、「平田センセイ」と言われるたびに首がガクガクガクしながら、必死で僕も答えながら、そうだなと。

7名で始まったのを夜思い出しました。子どもたちは最初は阿麻和利も知らない。カッチングスク、勝連城なんておぼけが出る場所とみんな思っていました。「だって、あつちは骨が落ちているもん」と言うんで



す。戦争の跡の骨がまだあると言う。怖い場所だった、グスクは。だから僕は、舞台の中に、あえて脚本家の先生にお願いして、この台詞を入れました。「グスクは今も残っている。グスクが残っているから、昔あった出来事は嘘じゃないはずだ。だから、自分の町を知るといふことをあのグスクは僕らに教えてくれていたんだよ」といふことをメッセージとして伝えました。

自分の生まれた町を知る。この活動を通してそう感じた子どもたちは、自分自身がなぜこの町にいるのかと考える。最終的には、自分についていたい何なんだ。小さな自分の故郷である家族のこと、地域のこと、そしてお父さん、お母さんのことを子どもたちは感じ、最後は、じゃあ、自分はいったい何者なんだといふことを子どもながらに小さく考える。自分の根っこ探しが始まったわけです。その夜思い出しながら、僕はとつてもとつても大事なことがこの活動の中に取り組みつつあるんじゃないかなと感じました。これが第一回目の舞台の本番だったんです。

実は前後しますが、教育長から三つ僕に条件を出されていました。一つは、この地域の伝統芸能をいっばい入れた舞台にしてほしいといふこと。二つ目は、民草の英雄として、逆心阿麻和利を英雄阿麻和利にしてほしいといふこと。阿麻和利という王様は、逆賊、逆心、謀反人と550年余り言われ続けてきたわ

けです。首里城にたてついた悪者だと。歴史の真実は検証することはできないけれども、せめてこの町の子どもたちだけは、我が町の民草の英雄としてやっぱり残してあげたいといふ教育長の思いがあった。三つ目、演じるのは全員中学生。ですから、中学生だけでやった舞台だったんです。

この舞台が大成功に終わって、そしてそれから奇跡が始まる大きなきっかけになりました。次の年は、子どもたちに呼ばれた僕が教育長に直談判をして、第2回目が行われ、そして、第3回目からは、念願だった「きむたかホール」という500人収容の小さな小さな町民会館ホールができて、その館長に32歳で僕が就任し、子どもたちと一緒に舞台づくりをするといふことをテーマにして、大人と子どもでつくる町おこしの法則といふのを実践しようといふ活動が始まったんです。

子どもと大人が一つのテーブルについて、自分たちの町をどうするべきかと、喧々諤々話し合いました。そうやって「肝高の阿麻和利」といふ舞台は毎年公演される舞台になり、予算が切れた4年目からは自主公演を行うようになり、そして、今年9年目、2月に100回公演を達成しました。1年に大体平均で16回から20回公演をするわけです。皆さんわかりますか。それも一切補助金なしです。自主財源を作りだすシステムを考えました。そうやって100人

余りの子どもたちが週に3回ホールに集まって、自主的に稽古をして、そしてその子どもたちの活動を見守り、サポートする浪漫の会を作り、浪漫の会がサポートしていくといふような活動をしているわけです。

さて、長く話してきましたが、今日はビデオを用意してあります。本来、この子どもたちの舞台は、中学生、高校生が演じる舞台です。チラシに写っている写真も、高校2年生の登川コウ君の写真でございまして、これが高校生という「エーッ」とびっくりします。何か大人みたいな顔をしていますけど。

実は、中学生、高校生が演じる舞台が本来の舞台なんです。今日皆さんにご紹介するのは、小学生が演じた4年前の舞台があります。これ一回きりです。中学生、高校生のリーダー性を育てようといふことで、自分達が演じているものを小学校の子どもたちに教えるといふことで、そういうふうなやり方でリーダー育成をしたときに撮ったビデオです。ですから、今、行われている本番の舞台とはちよつと違いますけれども、子どもたちの目の力がどういふふうに映るのか、それをぜひ見てもらいたいと思います。

ちなみに、場所は私が館長をしていただきむたかホールという会場でございます。500席のホールが満席でございます。そして、バンドピットが前にありまして、生演奏で子どもたちが演奏しています。生演奏で

演奏をして、舞台ではダンスチーム、役者チーム、男性アンサンブル、女性アンサンブルが踊っています。この時は約130名の舞台ですけれども、5分間だけ皆さんにその最後のワンシーンを見てもらって、そして締めのお話をしていきたいと思ひます。

★(ビデオ)

終わつたんですが、実はまだ終わってなくて、挨拶のところまでちよつと見てもらいたいと思ひます。いかにも子どもたちだなとわかるシーンがありますので。

「本日は、最後までありがとうございます。ありがとうございました。(全員で)ありがとうございます。僕達は今まで、中高生の先輩の指導の中、みんな力で力を合せて頑張ってきました。この舞台の台本を書いてくれた。」

ここで彼が脚本家の先生の名前を忘れまして、気まずい空気が流れるんですけれども、そしたら拍手がぎました。

「儀間先生をはじめ、演出家の平田大一人さんや数多くのスタッフの方々に支えられて演じることができました。何よりも食事や着付をしてくれたお父さん、お母さん、どうもお世話になりました。この場を借りて、改めてお礼を言いたいと思ひます。本当にありがとうございます。(全員)ありがとうございます。」

では、この舞台の演出をしてください。平田大一人先生をお呼びします。平田大一人先生どうぞ。」

数えたら5年前です。小学校6年

生です、この中心になつていゝるメンバーが。今、このメンバーが高校2年生の中心メンバーでやっています。つまり、今、写真に写つていゝる子たちなんです。小学生だったこの子たちが、声も出なかつたこの子たちが、今、一生懸命、何と雅楽の東儀秀樹さんとタイムマンはるべく頑張つていゝるわけです。

この舞台は、本当に、本当に地域の力があつて、竹中大臣が大臣時代に6回見に来たという。そういうふうないろんな大きな大きな出来事を巻き起こしてきました。

地域の子どもたちが、本当に頑張つて演じる舞台、一番感動するシーンは、実は最後の子どもたちの挨拶です。そして、この子たちは言います。「お父さん、お母さん、ありがとうございます」と言つた瞬間、お父さん、お母さんは「ウワーツ」と泣いていゝるんです。でも僕思うんですけど、「ありがとう」と言われていゝる方よりも、言つていゝる方がエネルギーをいゝつぱいもらつていゝるんです。

僕は、子どもたちにいゝるんなハードルをドンドン置きます。ハードルを一生懸命ピョンピョン越えてくるわけです。越えられないハードルは置きませんけども、そのハードルをどんだん越えてくる中で、一生懸命に自分の役とか、人間関係を乗り越えて、一つの目的に向かつて頑張るわけです。やりきつた。拍手がバツとくる。受けて、本気で「あ

りがどうございました」と言えるんです。ですから、全力をまず出す。全力を出し切つたところにしか新しいプラス1は見えないわけでございます。そして、その全力を出すナビゲーターがいゝわゆる演出家の僕の仕事なんじゃないかなと思ひます。

今日は全国の児童館、児童クラブの皆さんが集まつていゝますけれども、みなさんと僕の役割は同じだと本気で思つていゝます。これは学校でもなければ、塾でもありません。子どもたちが来たいから来る場所なんです。だから子どもたちに言ひます。「君たちが一生懸命やつていゝるから、ホールを使わせてもらつていゝるんだ」と。ただし、本番で使うときは、ちゃんとホールの使用料は払ひます、浪漫の会で、3回稽古に關してはホールを全額免除してもらひます。そういう流れの中で、いゝわゆる創造的な学びの場所でありながら、実践的な社会貢献の場所として、僕はこのホールを位置づけたわけです。

ある面で言うならば、このホールの居場所もそういゝつた大きな大きな可能性のある場所なんじゃないかと思ひます。今日は、行政の皆さんもいゝつぱいいらつしやいますので、どうか考えてもらひたいんですが、子どもが居場所作りを始めたことで、子どもが集まつてくると、今度はそこを子どもがたまり場というふうに呼ぶんです。変な話だと僕は思ひます。子どもの居場所を作ろうといゝつ

て、子どもが集まつてくると、何でここはたまり場になつていゝるんだと言つて、そこをまたなくそうとする力が働きます。でも、これが大人の社会です。僕らは負けません、そういうものには。

子どもたちが一生懸命頑張つて、居場所を確保していゝく。そして、それを子どもたちにもしつかりとわかつてもらう。そういうことをしなければ、本当の意味でのこれからの時代の子どもたち、タフな子どもは育たないような気がしゝます。ですから僕は、この子たちと一緒にどんどん町づくりに参加していゝこうと思ひます。

今、那覇でやつていゝる那覇青少年舞台ワークショップ、これもすごいんです。毎週月曜日に子どもたちは集まつてきます。そして、つい先週本番が終わりましたけれども、その本番にさしかかつてくると、「平田さん、稽古をやりたいんだ」と言ひます。わかつたということ、稽古場をおさえます。朝9時から夜9時まで押さえておいて、「じゃあ、何時から使うか」と聞くと、「フルに使ひたい」と言ひます。「無理だよ、体を休めよう。僕が立ち会わない稽古は絶対に踊らないこと。みんな踊り過ぎ、踊らないこと」と言ひると、「エーツ」と言ひます。

でも考えてみると、みんな踊るな、お前等踊らなくでもいゝぞというよくな、そういう練習の場所、稽古の場所つて、学校の現場でこれができ

たら素晴らしいことじゃないかなと思ひます。学校や家庭からもちよつと浮いてしまつた存在の子どもたちが、プカプカと浮いて、それで流れてきます。その流れた種がコツンと当つたところ、それが児童館であり、児童クラブであり、こゝいうワークショップの場所だと思ひていゝます。

マンダローブの法則というのがあります。僕が考えた法則です。マンダローブはこゝやつてぶら下がつて、ペンのようにだんだん伸びてきます。重石があまりにも重いとポトンと落ちて、干潮時に浜辺にプツツと刺さります。そこから芽生えてくるといゝうマンダローブ。海水と淡水と混ざり合ふところに生えていゝる木です。

ところが、時々満潮時に間違えて落ちるマンダローブの種があるんです。これは突き刺さりませんから、海にプカプカ浮いたまま。これは人間で言へば落ちこぼれと言ひます。ところが、マンダローブの世界では落ちこぼれがいゝません。なぜか。石や隣の根つこにカツンと当つたら、そこから根つこが生えてくる。僕は、こゝいう石や木根、そういゝつたものになりたいたいと思ひました。

マンダローブが海水よりも強いその秘密、その訳、簡単でございゝます。異なる水、淡水と海水という異なる水の中に彼は育つたから、たくましい木になるわけです。そして不思議なことに、大嶺先生という学者から流れていゝつた、旅をした種ほど根付

いたときに大きなマンダローブに育つというのを聞きました。子どもたちの可能性をどこまでも信じてあげられるような、そういうような張りがあったなと思います。

ある子どもから手紙をもらいました。本番の前です。ミナミちゃんという女の子、情緒不安定で、いつもモソモソしているの、僕にも注意されていたんです。動くな、ダメダメ、もつとしっかり、僕はいつもそれを言った後に自己嫌悪に陥って、ああ今日もまたやっちゃったなと思っていたんです。きつとミナミは僕のことを嫌っているんだろなと思っていました。そしたら手紙です。本番の朝にもらった。中を開けてみると、4行の文字です。「平田さん、いつもニコニコ笑っているから好き」と書いてあるんです。もう涙がポロっと出ました。

ほんとにあれを読んだ時に、何も教えることっていらなんだなと思っただけです。子どもたちは、ワーツとやった時に、フツと必ず振り向くんです。向いた時に僕が「ワツハハハ」と笑っているのか、「何やってんだ」と言っているのか、どっちにしても、見ていてくれるというこの感覚、それだけでその子は頑張れる。ああそうか、じゃあ僕は笑っていればいいんだなと、変な話思いました。笑った後に、おもしろすぎるからもうちょっと変えようとか、とにかく見てくれているというその一つ。そういうことを大

事にしていきたいなというふうに思いました。

阿麻和利の舞台に限らず、金武、そして八重山含めて、いろんな地域がこういう活動に取り組み始めています。もちろん、全国的にも児童演劇という活発な活動があると思うんですが、僕はぜひとも、子どもたちのこの可能性を信じた活動をこれからも広げていきたいと思っています。そのために館長を3年前に辞めました。ホールの館長を辞めて、タオファクトリーという有限責任中間法人というNPOといわゆる有限会社の子みみたいな、そういう社会団体を作り、その代表理事として、地域の子どもたちと大人たちの間に、ジョイント役リーダーをつくるという、そういうチームづくりを始めて3年目になります。

結果成果はこれからでございますけれども、ある面と言うならば、那覇市で行っている那覇青少年ワークショップの活動もその一環でございます。どうぞこれからもまた皆さん応援よろしくお願ひしたいと思ひます。

一曲太鼓で歌います。大きな拍手でよろしくお願ひします。

子どもたちに思いをこめて作った歌で、「旅立ちの明日」という曲があります。この旅の終わりは新しき道の始まり。「大航海レキオス」という僕の作品です。宮本亜門さんに監修をしてもらって、そして僕が台本、テーマソングを作りました。この舞

台のテーマ、「海を渡る情熱」を昔のウチナンチュ、沖縄の人はみんな持っていたわけなんです。それと同じような情熱が、隣の新しい友達に声をかけるタイミングだったり、思いや勇気も海を渡ることと同じぐらいの情熱が必要なわけです。

今、僕らは簡単に冒険がでない時代になりましたけれども、常に僕らの身の回りには冒険が待っているということを子どもたちに伝えたくてこの曲を作りました。「旅立ちの明日」という曲です。ではよろしくお願ひします。

★(歌と太鼓演奏)

最後の話というのは、毎回恒例である弁論大会のお話とお話して終わりにしたいと思ひます。

弁論大会というのが各学校で、秋に行われて、そこで選ばれたメンバーが県代表、全国大会へとくわけです。僕は高校3年生の時に、沖縄県の代表で全国大会に行きました。長崎県の島原で行われた大会では、何も賞をもらわずに帰ってきた。僕の夏の甲子園も終わったなみたいな、これから後はもう受験勉強だけだな、大学入試頑張らなければなと思っていたら、僕の隣に国士館高校の生徒が座っていました、かなり怖い顔をした生徒でございまし



て、眉毛がない、ヒゲが生えている、もみ上げはここまであつて、いわゆる硬派な感じですね、かつこよく言う。

それは佐藤君というんですけど、その佐藤君が僕に聞こえる声で言うんです。隣に座っていて。「こんなの弁論大会じゃねーよ」と言うんです。僕は彼と友達になれないなと思っていたのであつちを向いていたんですけど、「こんなの弁論大会じゃねーよ」と言われた瞬間、

「ハッ」と顔を見てしまつて、彼に聞いたんです。「佐藤君、何て言ったの」と言つたら、彼はまた言うんです。「こんなの弁論大会じゃねー」と言うんです。

「佐藤君の知つてゐる弁論大会ってどんな弁論大会なの」と聞いたたら、彼はこう言いました。「野次が飛ぶ大会があるんだ」と言うんです。誰かが話をするとなつて飛ぶ。邪魔をするという大会があるんだと言うんです。生まれて初めてです。学校でも、お家でも、人の話は黙つて聞きなさいと教えられてきたのに、人の話を野次りなさいなんて言われたことはないから、つい僕の興味の虫がブンと出てきました。「それに僕も出れるの」と聞いたんです。「興味あるの」と言うから、「ある」と。

「じゃあ君のお家に、開催の募集要項を送つてあげる」と彼は言つたんです。「わかつた」と言つて、長崎県から帰りました。

そして、高校3年生の2学期、夏休みが終わつて学校が始まつた9月の頭に彼から手紙が届く。中を読みました。彼の文字でこう書いてあります。「50名エントリーできる中で、49席まで決まつてゐる。あと1席どうやら空いてゐるらしいけど、平田君、出てみないか」という内容なんです。これは僕が出るしかないでしょうと思つて、学校へ持つていきました。弁論担当の先生に、「先生、僕これに出たいんです」と言つたら、先生の目がキリキリと上がつて

きて、「平田君、あんた何馬鹿なこと言つてゐるのよ」と僕に叫んで迫るわけです。先生が怒つたとびっくりしました。

「公式大会はもう終わつてゐるのよ。いまさらこの大会に出る必要はありません」「でも先生、野次の飛ぶ大会に出たいんだ」と粘りました。「ご覧なさい」と、見たら、窓から必死になつて勉強してゐる姿が映るわけなんです。先生は言うんです。「あんた大学に行きたくないの?」

「いや、先生僕は大学にも行きます」「じゃあ今何をすべきかわかるよね」と言う。「先生の言つてゐることもわかるけど、僕はその大会に出たいんです」とまた言つたら、先生が、「わかりました。校長先生に聞いてきます」と言つて、ツカツカツカと校長室に行きました。多分、校長先生にはちゃんと聞いてないはずなんです。なぜかというところ、すぐに帰つてきましたからね。

戻つてきて、「平田君、ちよつと」と僕を呼ぶんです。授業中ですよ。廊下に出て、誰もいないシーンとじている廊下で、「校長先生に聞いてきたら、三つの条件を出されました。それをクリアするならば行つてもいいですよ」という話しなんです。「一つ目の条件、休んだ日は欠席扱いにするけどいいわよね。二つ目、旅費は一切自己負担。三つ目、この時期に引率で私はついていけないから、行くんだつたら一人で行つてきてね」と。場所は群馬県だつたんです。

僕は先生にそれを言われて、行くのを正直やめようかなと、ちよつと腰が引けたんです。そしたら先生が僕に、言つてはいけない一言を言いました。何と言つたか、「平田君、余計なことをしないでよ」と言つたんです。その瞬間、僕のスイッチが入りました。何かわからないけど、パチッ、ポイラーです。頭から熱風がパフと出た瞬間、口からは「絶対行つてやる」と言つたんです。先生の怒りは大変です。手紙を廊下にバーンと投げて、「好きにしまさい」と言うので、「好きにします」と言つて、手紙を取つて、その足で教室に戻らず、そのまま職員室の隣にある公衆電話に走つたんです。

小浜島の実家の親父に電話しました。「一生に一度のお願いがある」という、多分皆さん経験があたりでしょう。生きてゐるうちに3回くらいやる一生に一度のお願い、その3枚のお札の1枚を僕はここで使いました。「何か」と、「これこれしかじかで群馬県まで行かなければならぬ」「何、どこ?」「群馬県」「はー、群馬?」「うん、群馬」、シーンとして、「どこか、それは」と。すみません、群馬の皆さん。うちの親父からすれば、千葉県も、埼玉県も、神奈川県も全部東京なんです。そしてなんと、外人さんは全部アメリカ人です。「フランスの友達?」「ああ、アメリカ人」「いや、フランスの友達?」「アメリカだろう?」みたいな、大ざつぱなんです。ですから、東京

のちよつと上のあたりと言つたら、「行つて来い」という話になつたんです。

それでお金を出してくれて、飛行機のチケットを自分で買いました。石垣島から那覇空港で乗り換えて、東京国際空港へお入りで、多分ですけど、浅草線という電車に乗つて、群馬県館林という所に行きました。そして会場に着いたわけです。着いてすぐに後悔しました。みんな佐藤君みたいでした。目の丸がドーンとあつたりしてね。弁論の武士だから弁士なんだと、こういう感じなんです。「沖繩から来ました平田と言います」、「早く座れ」。

僕は50人中の26番目です。弁士番号26番。つまり、午後のトップバッターだつたんです。午前中の25名を見れるんです。見ていましたら、ある女の子が福祉の話をしました。「私はその時福祉の精神、ボランティアの思いに気がつきました」と言つた瞬間、奥の方から、「おせいんだよ」と言うんです。「気がつくのが遅すぎる」と言うところ、「オメーがトロトロだ、そうだと。」「オメーがトロトロしてゐるから日本ダメになるんだ」「そうだ」「ひつこめ」「やめろー」「おりろー」と言う。汚いんです、言葉が。罵声です。罵倒されてゐるわけです。

最初の「おせいんだよ」と言われた瞬間に、女の子はしゃべれなくなつてゐるわけです。涙がツツと出て、1分黙つたまま。すると、ゴ

ングが鳴る。ガンガンガンガン、弁士中斷。この弁士は自分の弁論を中斷しましたとみなされて、引きずり降ろされるみたいにして自分の席に帰されるわけです。怖いでしょう、皆さん。

僕は生まれて初めて、座ったまま立ちくらみというのを経験しました。歯がカチカチカチカチ、紫色になっっているのが見なくてもわかるんです、自分の唇が。極度の緊張感です。彼女に続くすべての弁士に対して罵声が浴びせられるんです。野次じゃないんです。それに答えなければいけないんです。何と過酷な弁論大会。

1時間のお昼休憩、何を食べたか覚えていません。気づいたらトイレにいました。トイレにいて、便器を抱いて泣いていました。そしたら奇跡が起きました。皆さんわかりますか。魔法のランプのジニーって知っていますか。アラジン、キュッキュツとやったら、「ハイイ。ご主人様」と出ますのがいますでしょう。あの先生の顔が便器の中からニョーツと出てきて、僕に言うんです。「平田君、だから余計なことしないで言つたでしょう」とフツと消える。僕は便器にヘタヘタと寄りかかり、今のは幻かと。ついに幻聴、幻覚まで見えるぐらい、僕の緊張感はピークに達したんです。

ところが座って思い出した。そうだ、余計なことだった。やわら今度は、自分のお金で来て、休み覚悟で

頑張つて来たのに弱気になっっている自分に腹が立ってきたんです。何をやってるんだ、僕は。どうせ沖繩の人は一人もいないんだ、ここは。やるだけやったらいいんじゃないかと自分に言つて、空手部だったので、便器をまたいで、丹田に入れる呼吸法をやつたんです。そしたらガチャツと誰かが開けるわけです。「ハーツ」とやっているから、みんな「すみません」、キーツと戻っていません。

ほんとに申し訳ない、僕は僕のとて精一杯だみたいな感じで、頑張れ僕、ドンマイ僕みたいな感じで、自分で一生懸命「ハーツ」とやつて、それをひたすらやつて、午後のトツプッターを務めました。5分間。目の前の一人を見つめて、いや、ずつと睨んで言いました。終わった時、最後に演台を叩いたんです。ヨッシャー、バーンと叩いて、ドンドンドンと下りて、初めて気づいたんです。僕の時には、野次が一個も飛ばなかった。飛ばないどころか、国士館高校の佐藤君の後輩で名前なんかわかりませんが、しっかりとDNAを受け継いだ後輩は、眉毛がない、ヒゲが生えている、もみ上げ、そして頭がもじゃもじゃと、パパイヤ鈴木みたいな頭をして、ガツチャガツチャと来て、僕に手を出すんです。僕も手を出したら、彼はキュツと握つて、「平田さん、感動をありがとうございました」と言つたんです。彼が続けて言いました。「平田さん、

僕は今日まで無気力、無感動、無関心、三無主義でした。でも今日僕は、あなたのお陰で感動を1つ取り返すことができました。僕は今日からジャン、2無主義です。ハハハハッ」と笑つて帰つて行く彼の後ろ姿を見ながら、初めて来て良かったなと思えました。

最後の審査の発表だけ皆さんにお知らせして終わります。10人審査員がいたんです。1人20点で200点満点なんです。今でも忘れません、198点、第2位、早稲田実業高等学校の森木リョウタ君という、早稲田の雄弁会の部長さん、海部俊樹さんとかを出したという弁論部です。その部長さんが第2位198点だった。第1位、199点、八重山高校

平田大一君と言われて、そうなんです、その大会で全国優勝をしちゃったんです。1点差です、2位と。

お家に電話しました、うちのお袋に、「お袋、優賞したよ」と言つたら、うちのお袋はいわゆる天然さんでございませう。天然島ンチュでございまして、「優秀賞だったよ」と聞こえたと。「ハイハイハイハイ、あんたは頑張つたさ。いつ帰る？早く帰つて来いよ」ガチャ、プープーみたいな、ちびまる子ちゃんに出てくるおじいちゃんみたいに「オフクロー」と言いながらですね。

初めてお相撲さんがもらうようなでっかいトロフィーと、額縁2枚、文部大臣奨励賞というのと、個人の

部優勝と2枚の額をもらつて島に帰ってきたと大騒ぎです。校長先生に呼ばれたんです。コンコン、「失礼します」ガチャと入つたら、校長先生が「おお平田君、ここに座つて、ここに座つて」と言うんです。フカフカする校長室のイスに座つたら、僕がトロフィーを持って、隣に校長先生がいて、その先生が額縁を持って、その隣りに額縁を持ってなぜか「余計な」と言つた先生が賞状を持って座つていて、記念撮影をしました。翌日の新聞に出来ました。「平田大一君、快拳成し遂げる、全国制覇達成、八重山高校に金字塔を打ち立てた」とか。

さて、この優賞で一体何が変わったか。まず、一つ目、欠席扱いがもちろん出席扱いになりました。二つ目、沖繩県から初出場、初優勝という快拳を成し遂げたということ、僕は何と旅費が半額主催者から返ってきました。そして三つ目、全国日本一を看板にして、僕は希望する大学に11月の段階で見事推薦で合格が決定したんです。

校長室から出たら、その先生がキツと立っているんです。「私は何度でも止める」と言つたんです。カッコイイと思えました。ここまですつたら、でも僕も、カチンときたので、こう言い返しました。「先生、僕も何度でも行く」と言つたら、先生が初めてニッコリ笑つて、「そうだね、私はあなたのことを思うと真剣に止めた。止める私を振り切つて



あなたは自分の意志で行った。そして優賞を勝ち取った。これはあなたの実力です。私は先生でああなたは生徒だけど、今日は平田君、あなたのことを心の底から尊敬します」と言って、「本当におめでとうございました」と頭を下げて、握手してくれました。あんまりかわいそうだったので、「先生のこと恨んでないよ」と言いました。

あそこで先生が真剣に止めてくれて、トイレまで出てくるぐらいの特別出演もあり、やってくれたから僕は頑張れた。みんなが応援していいばいということでもないんです、皆さん。大事なのは、あの先生は僕に真剣だったわけです、基本的に。一生懸命僕を止めたんです。でも残念ながら、僕の真剣が勝っただけなんです。一生懸命を貰った僕、僕は自分で自分を後でゆっくり褒めまし

た。そうだ、良かったと。

同時に、止めてくれた先生にも感謝しました。行かしてくれた親にも感謝しました。これが17歳の僕の体験談です。学校公演でこの話をする時に、子どもたちは一番目をキラキラさせて、そして、先生たちも目をキラキラさせて聞か話はこれです。大人も子どもも一生懸命ぶつかり合って、それでいいんだということ

です。先生に言います。子どもたちが間違っていることは間違いだとはつきり言っていると思う。子どもたちにも言います。自分がやりたいことがあつて、正しいと思つた時には、親だろうが、先生だろうが、貫かなければいけない時もある。自分が頑張らなければいけない時もあるんだ。そういう真剣な勝負じゃないと、実は自分の道は開けない。そして、僕はその日の夜の自分の詩のノートにこう書きました。「始まりも終わりも自分で決める。そうすれば、僕の歩くこの道に絶対に行き止まりはない」と書いたんです。これが17歳の僕の体験。

今39歳になりました。2倍も生きてしまいました。未だに僕は子どもたちと同じような目線で頑張る子どもたちと格闘しつつ、今こういう舞台活動をやっていきます。そして、全国にいる、おそらく児童館、児童クラブの先生方も、葛藤しつつ、悩みつつ、でもやっぱり現実に直面しな

がらも、自分たちの理想、夢、夢を諦めないということ頑張っていると思うんです。そういう皆さんの頑張りが子どもたちにだけ大きな力となっているかということ、ぜひ皆さんにわかってもらいたいなと、エールを送る意味で今日こういう話をさせてもらいました。

子どもたちは見えています。今は何も言わない子どもでも、2年たつて、3年たつて、4年たつて、大人になつて新しい出会いがあつた時に思い出すんです。あの先生が僕のことを育ててくれたなと。今すぐ出る結果じゃないんです。でも、絶対に、必ず子どもたちのその根っこに、人づくりの種があるんだということをどうか覚えておいてもらいたいなと思います。

最後の曲は、最初にお話した「ミルクムナリ」を踊って歌って終わりにしたいと思います。

この曲は沖縄でエイサーで踊られている曲です。必ず沖縄の子ならば聞いたことがあるという曲でございますが、この元歌であります「クンドウキのハヤシ」という曲を新しくアレンジしたのがこの曲です。18年前の作品ですが、いまだに歌って踊っております。演歌のような曲でございます。「ミルクムナリ」最後の曲、皆さん大きな拍手でよろしくお願ひします。

★(踊り)

■プロフィール

1968年沖縄県竹富町小浜(こはま)島生まれ
有限責任中間法人T A O Factory 代表
著者「平田大一詩集 南島詩人」「歩く詩」(富多喜創刊)
アーティストへの楽曲や詩を手がけるかたわら、実家の民宿を拠点に「キビ刈り援農塾」をスタートさせるなど、地域・文化に根ざした幅広い活動を行う。

2000年から演出、脚本を手がけている与勝(よかつ)地域の子どもたちによる「現代版組踊・肝高の阿麻和利(きむたかのみあわり)」は公演100回を超え、周囲の大人や地域を変えていく力となっている。行動する詩人、若き演出家として沖縄で絶大な支持を集めている。



分科会報告

第1分科会 目指せ!!五つ星☆☆☆☆☆ 遊びの素材を
キャッチした魅力ある厚生員になろう

第2分科会 児童館と地域の協働を図る情報発信
「あかぎくるくる町」を体験しよう!!

第3分科会 子育てネットをどう築くのか
～出前児童館をとおして～

第4分科会 いきいきとした放課後を支える児童クラブとは

第5分科会 みんなで語り合おう!!

第6分科会 “安全”の地域連携とリスクマネジメント

第7分科会 「館長・主管課・研究者の集い」
放課後子どもプラン

第8分科会 「命^{ぬち}どう宝^{たから}」—いのちこそたから—
～ずっ—とつなげたい大切な命
未来を担う子どもたちへ～

目指せ!!五つ星☆☆☆☆☆ 遊びの素材を キャッチした魅力ある厚生員になろう

遊びこめる環境を提供する為に、ちゃたん星にタイムスリップし本気で遊んでみませんか？

1 進行の概要

★1日目
1 遊びの実践
(ちゃたん星へテレポート)

★2日目

- (1) ウォーミングアップ
- (2) 北谷町3児童館の取り組み紹介
- (3) グループ情報交換
- (4) 助言者 阿南 健太郎氏の講評
- (5) ふりかえり

2 内容

★1日目 遊びの実践

子ども達にとって魅力のある「五つ星☆厚生員」になるためにはどうすればいいのだろうか？遊びをとおして子ども達へ伝えられることは何か？

その答えは、自分自身が本気で遊んでみることで気づくはず・・・地球から「ちゃたん星」に移動して色々な指令（遊び）に挑戦してみよう！

選ばれしメンバーが、地球からちゃたん星へテレポート！

■緊張しながら会場に入ると、そこは異次元の空間！

ちゃたん星へ行くための切符（旗）をもらい、わくわくしながら中へ入ってみると、配られた旗の色でグループ分けが行われた。



ペットボトルで作られた入門門とチャレンジャー人形がお出迎え☆

■そこに現れたのがちゃたん星の案内人「テレポートガール」！すべての進行を務め参加者をちゃたん星へと瞬間移動させた。すっかりテレポートガールに魅せられて、子ども達の気持ちになった参加者は、地球とお別れをしたあと、無事ちゃたん星へと到着！



迫真の演技に女優？と言われたテレポートガール☆自己表現・役になりきることの楽しさを伝えた

■ちゃたん星では、児童健全育成推進財団の阿南健太郎氏こと「アーナン大王様」がみんなを歓迎し、五つ星厚生員になれるよう激励した。



テレポートガールよ！チャレンジャーを呼んで、ここにいる選ばれし勇者にパワーを与えなさい。

■そこで、ちゃたん星のヒーロー！チャレンジャーが登場し、みんなが厚生員の証を手に入れよう！と決意した途端、悪魔の声が・・・！



僕達チャレンジャーと五つ星厚生員の証しを手に入れよう！！

■5つのグループに分かれ、コーナーごとで指令に挑戦していく。1グループ12名程度で構成し、1コーナーの所用時間は10分とする。
 ≪ゲームの説明1分30秒・体験7分・次のコーナーへ瞬間移動1分30秒≫
 ■限られた時間の中、それぞれのグループで協力することが、難題を達成する決め手となる！1コーナーを達成することに☆(星型)がもらえる。

5つの指令(チャレンジコーナー)スタート!!



「五つ星厚生員の証だと？それを奪いおまえ達の邪魔をしてやる！」

■「ダーウィン」こと悪魔が邪魔をするためにやってきて、大事な厚生員の証が奪われてしまうが、取り返すためにチャレンジャーと力を合わせ5つの指令に挑戦することにした。
 【証を取り戻すという目的意識を持つことで仲間とのつながりや、本気で遊ぶ楽しさを感じることができる】

赤

コーナー

灼熱ジェンガ
~巨大ジェンガ~



巨大ジェンガを順々に1人1回ずつ引き抜き、グループ全員が倒さずにできたらクリアー

黄

コーナー

10万光年への挑戦
~大縄跳び~



6~7名を1チームとし、大縄跳びに挑戦する。全員が連続10回以上跳べたらクリアー

青

コーナー

宇宙空間大作戦
~フリスビーゲーム~



6つのパネルをめがけて1人1回ずつフリスビーを投げる。グループ全員で3個以上のパネルを落とせばクリアー

緑

コーナー

秘密基地のなぞ?
~缶とりゲーム~



4名で1チームを作り、スズランテープと輪ゴムで作られた紐を四方に引っ張って缶を取る。グループ全員で12本取れるとクリアー

チャレンジコーナーの
◆ねらい◆

- ☆グループで挑戦することによって、仲間を思いやり協力しながら達成する喜びを味わう。
- ☆簡単な遊びも時間制限をすることでより高度な遊びへと発展する。
- ☆好奇心や、探求心を向上させ情操を豊かにする
- ☆身近にあるリサイクル品を使った遊びを展開することですぐに現場で実践できる
- ☆創造力を培う

ピンク

コーナー

絶体絶命! 驚異の世界
~スーパーボールすくい~



1人1回ずつで、30秒間スーパーボールをすくう。グループ全員で合計100個以上取れるとクリアー

悪魔VSチャレンジャー!!

★はたして、五つ星厚生員になれたのか?

■全員が5つの指令(遊び)を見事にクリアした厚生員。グループのリーダーが、チャレンジコーナーでもらった☆(星型)をパネルにはめこむと、悪魔を倒す言葉「シヤーマン」が隠されていた・・・。「シヤーマン」の合い言葉とどめのポーズがあればきつとダーウインを倒せるに違いないとテレポートガールが、チャレンジャーに出動の合図を出した。「チャレンジャー」出動よ!!



光り輝く五つ星!あとは厚生員の証を取り戻すこと!

■最後の戦いで、チャレンジャーとみんながとどめのポーズをして、悪魔を倒し、会場は拍手喝采。みんなの気持ちがひとつになることで結束力が深まることを再確認したあと、チャレンジャーより五つ星厚生

員の証が配られた。最後にチャレンジダンスを踊ったり、大歓声の中、1日目を終えた。



ダーウイン覚悟しろ! とどめのポーズだ!!

★2日目

(1)ウォーミングアップ

遊びながらグループを作ること目的に、猛獣狩りゲーム(リーダーが歌って踊りながら言ったキーワード



われらが今ブレイク中の猛獣隊!!

の数でグループになる。ゴリラ↓3人グループ)をした。場の雰囲気盛り上げるため猛獣隊に扮した厚生員の姿に、圧倒される参加者もいたが、大きな笑いに包まれた。

(2)北谷町3児童館取り組み紹介

北谷町の職員が事業を展開する中で、大事にしている3つのキーワードを紹介した。

- 自分達が楽しみながら夢を持ち、事業に関わること
- イベント(児童館まつり・巨大迷路等)活動は、町内の児童館職員が協力し実施していく
- エコの面を重視し、物の再利用に取り組み

また、子ども達に夢を与えるには、どうしたらいいか?を考えて作り上げたストーリー性のある巨大迷路を映像と合わせて紹介。

(3)グループ情報交換

遊びのプログラムを体験して、感じたこと・得たことを伝える。また、普段の児童館でやっている活動を報告し合った。

参加者の感想

♣遊びの中にストーリー性があり、厚生員がなりきっていたので私もちゃたん星という空間へ入り込むことができてとても楽しかった。

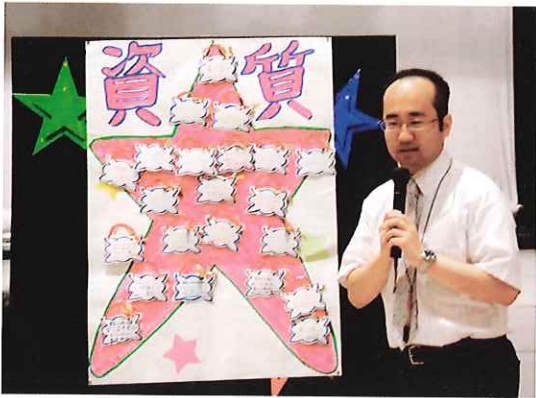
♣缶や段ボール等、身近な物を再利用しているのがよかった。

♣普段の遊びも視点を変えることで違う遊びになることを学んだ。ゲームをクリアすると言う目的が、お互いのコミュニケーションを図る要素となり、自然に協力し楽しむことができた。

次に、「魅力ある厚生員になるために、今やるべきこと・出来ることは何か」をテーマとし、それぞれの思いをお土産カードに記入してもらった。



グループ情報交換は、みんなの表情が見えるよう輪になった。



助言者 阿南 健太郎 氏

(4) 助言者 阿南健太郎氏の講評

●「遊び」って何だろう?ということ
を改めて考えてみた。

★遊びをとおして、健全育成の5
要素をバランスよくとろう!

- ①心の健康増進
- ②体の健康増進
- ③社会的適応力
- ④知的適応力
- ⑤情操を豊かにする

私達の楽しむ姿を見て、子どもも一緒に楽しむ。そして現場から社会へ「子どもに大切なのは遊びである」と伝えていかななくてはならない

●自分達の子どもの巻き込んでいく。子どもたちを主体に。
●影や光どちらも居る中で、裏方でも充実感・達成感を与えられたらいいのではないだろうか。

●この遊びにはどういう意味があるのだろうか?を職員同士で話し合いながら遊びにも意味があることを社会にも繋げていかななくてはならない

●プログラムをオズボーンのチェックリストなどでアレンジしていく一つひとつの遊びから遊びの力を信じて、考えて、意味を見出して、子どもに伝えていくことが大切である

最後に、職員も子どもたちも遊びを通して夢を持ってもらいたいとお話しされた。職員が夢を描き、未来を信じ、人に伝えていくことが、まずできることかもしれない。

(5)ふりかえり

最後は、分科会でたくさん仲間と知り合った気持ちを含めて「ベストフレンド」の曲とともに1日目に行った遊びの実践を画像として流した。それぞれの表情をみながら本気で遊ぶことの大切さを実感した。

3 分科会を終えて

「私達の元気で笑顔を伝えていこう!」ことをコンセプトに取り組んだ第1分科会!

動くプログラムともあって、楽しいことがいっぱいだろうと想像していたが、計画をしていく中で、魅力のある厚生員とチャレンジャーの結びつきや、「遊びこめる環境作り」を

どう伝えるか!など課題がいっぱいで作業は難航した。参加者の満足度を高めるために何度も会議を持ち、会場のレイアウトや、遊びのプログラム、ふりかえりの内容など細かい内容を検討した。夢のある遊びを提供するため小物作りにも時間をかけた。

また、映像処理など、北谷町情報政策課の多大なバックアップもあり、本番に向けての準備が進められた。

より良い分科会をするために、町内の企業団体に支援を求めたところ、快く協力して下さったおかげで、実行委員会と調整しリハーサルをお願いすることができた。

たくさんの人に支えられて、当日は万全な態勢で取り組むことができ、分科会を担当したすべての職員の気持ちを伝えることができた。参加者から参加してよかった。との声が多数聞かれたので、やり遂げた瞬間、達成した喜びと充実感で感極まった。この経験を糧に今後の児童館活動を広げていきたい。この分科会に協力していただいた皆様に本当に感謝致します。ありがとうございました。

4 分科会運営スタッフ

【幹事・受付】

田仲 康亨(北谷町ハッピー児童館)

【発表者・レポートガール】

比嘉 智子(北谷町わんぱく児童館)

【司会・受付】

安里 信美(北中城村島袋児童館)

【タイムキーパー・悪魔】

与儀 司(北中城村仲順児童館)

【記録・チャレンジャーブルー】

大嶺 静香(北谷町ハッピー児童館)

【記録・チャレンジャーグリーン】

比嘉 明日美

【受付】

友寄 礼子(北中城村仲順児童館)

【受付・シヨッカー】

金城 綾子

【チャレンジャーレッド】

德里 珠代

【チャレンジャーイエロー】

新垣 梓

【チャレンジャーピンク】

東恩納 はるか

【悪魔】

宮城 亜矢(北谷町ハッピー児童館)

【フロアーリーダー】

松堂 美華(北谷町わんぱく児童館)

【進行・補助】

稲嶺さおり(北谷町わくわく児童館)

桑江 みか(北谷町わくわく児童館)

照屋あけみ(北谷町わくわく児童館)

【荷物・救護】

大道 義光(北谷町わんぱく児童館)

玉城 松寛(北谷町わくわく児童館)

【助言者・大王様】

阿南 健太郎 (児童健全育成推進財団)

第1分科会 記念撮影



～素敵な仲間達と過ごした2日間で、
子ども達の笑顔へとつながりますように…～

No	都道府県	参加者氏名
1	沖縄県	東江 万喜子
2	沖縄県	伊計 里美
3	沖縄県	伊計 淳子
4	沖縄県	池田 千鶴
5	沖縄県	伊志嶺 幸代
6	沖縄県	伊波 智恵子
7	沖縄県	伊良波 由貴
8	沖縄県	嘉手納 麻須美
9	沖縄県	鎌田 達郎
10	沖縄県	神元 愛
11	沖縄県	狩俣 弘子
12	沖縄県	喜屋武 徳
13	沖縄県	金城 孝子
14	沖縄県	具志堅 元
15	沖縄県	幸地 絵梨子
16	沖縄県	佐久川 和美
17	沖縄県	新里 明美
18	沖縄県	砂川 啓子

No	都道府県	参加者氏名
19	沖縄県	玉寄 紗貴
20	沖縄県	當山 直美
21	沖縄県	徳森 彩乃
22	沖縄県	富村 賢治
23	沖縄県	名嘉真 昭之助
24	沖縄県	仲眞 夕貴
25	沖縄県	仲嶺 啓子
26	沖縄県	長嶺 友子
27	沖縄県	仲村 紋野
28	沖縄県	新田 まゆみ
29	沖縄県	比嘉 博子
30	沖縄県	藤山 章子
31	沖縄県	前里 美香子
32	沖縄県	松島 由紀子
33	沖縄県	宮城 広美
34	沖縄県	宮城 寛之
35	沖縄県	宮城 美智子
36	沖縄県	安田 龍生

No	都道府県	参加者氏名
37	沖縄県	與儀 千智
38	沖縄県	吉田 奈緒
39	岩手県	長崎 由紀
40	岐阜県	白井 こずえ
41	京都府	下門 奈越美
42	京都府	山村 陽子
43	埼玉県	中村 葉子
44	埼玉県	牧野 彩子
45	滋賀県	太田 弘子
46	青森県	水野 洋子
47	石川県	上坂 ゆかり
48	大分県	清家 まき子
49	長崎県	安永 瑠理子
50	東京都	金子 秀光
51	東京都	竹内 大輔
52	徳島県	葉田 貴明
53	奈良県	龍 美晴

5 参加者名簿

児童館と地域の協働を図る情報発信 「あかぎくるくる町」を体験しよう!!

子ども達（こどもエコクラブ）主導で参加者をまきこみ、遊びを通して社会のしくみを体験する活動



1 進行の概要

- ① 「あかぎくるくる町」の実践
- ② ふりかえりシート記入
- ③ 実践報告
- ④ アイスブレーキング
- ⑤ グループ討議
- ⑥ 助言者のまとめ
- ⑦ ふりかえりシート記入

◎第2分科会の1日目は

「あかぎくるくる町」は、役場・銀行・手作り工房・エコマーケット・ハローワークなどを設けた循環型模擬社会。働くことで収入を得る、得た収入で物を買ったり遊んだりする。

お金が必要になったらハローワークで仕事を探し就職する。楽しみながら社会のしくみを体験し、環境についても考えることができた。

2 内容

① 「あかぎくるくる町」実践

役場

住民登録をする

銀行

住民登録をすませたら、銀行で5エコマネーもらう

手作り工房

- ・ぬち花ストラップ
- ・ブーブーチキン
- ・はぶのたまご
- ・シーサーちゃん
- ・グリーンガーデン

ゲームランド

- ・的あて
- ・びんたて

エコマーケット

- ・手作り工房で作った小物販売
- ・エコ作品

喫茶店

- ・くるま麩を使ったお菓子
- ・さんびん茶

ハローワーク

- ・エコマネーがなくなったら仕事を紹介してもらう。
- ・就職先で仕事を終えたら銀行で賃金をもらう。



参加者の声

（ふりかえりシート抜粋）

- ・大人も童心に返り喜々として遊ぶ姿がみられた。
- ・人が人として育つ環境を児童館は担っています。その役割の大きさを再認識しました。



- 子ども達が生き生きと活動している。
- 参加者も働き手になれるので楽しかった。
- 子どもから大人まで楽しめる内容である。
- 子ども達が中心になって動いている。
- あかぎくるくる町を通してリサイクルの大切さが自然に身につくんだなあと感じた。
- 働く意欲を育て社会のしくみに触れることができて、とても素晴らしい。

実践報告

〔2010〕

「あかぎくるくる町」ができるまで

■エコクラブ活動をはじめるときっかけ

- いじめやマナーの指導に空回りを感ずる日々
- 心を育てるには?
- 感動体験の不足、館内活動の限界

なんでもクラブを立ち上げる
(なんでも経験させてあげたいという気持ちから)

第1回児童館活動実践報告会で環境庁エコクラブを知り登録をする
(なんでもクラブ⇄こどもエコクラブへ名称変更)

段々とエコクラブの活動が広がっていく

- アイマスク体験を通して地域に児童館をPR
- 単発でキャンプ、おとまり会を実施
- 「児童館ジャンボリーIN沖繩」へ参加

● 「児童館ジャンボリーIN北海道」へ参加

● 宮古島ツアード(保護者がすべてコーディネート)

● エコクラブ5年目でエコまつり開催

● 「くるくる町」を企画
今年こどもエコクラブは8年目になる

■子どもの変化

- 自己肯定感
- エコクラブという誇り
- エコ活動に積極的になった

■サポーター(親)の変化

- 行事へ積極的に参加するようになった
- 地域に関心を持つようになった

■地域の変化

- 児童館の行事に興味、関心をもってくれるようになった
- リサイクルに協力してくれるようになった

■厚生員の変化

- 子ども達の力を信じられるようになった



■エコクラブと地域との関係図





■グループ討議

【テーマ】

I 今、児童館で取り組んでいる地域との協働活動。又は悩んでいること。

II その他

- ◆ 児童館の行事への参加（スポーツ大会やピクニック、スポーツなど）
- ◆ 世代間交流や公民館、シニアクラブとの交流事業。
- ◆ プルタブを集めて車椅子に換え、動物園などに寄贈している。
- ◆ 地域の児童委員を中心に、親子で参加の行事を土・日に実施している。
- ◆ 地域の方に三線など伝統文化を習い、発表している。



- ◆ 大学生のボランティアサークルと一緒に活動している。
- ◆ 母親ボランティアクラブ
- ◆ 一人暮らしのお年寄りとの交流
- ◆ エコクラブ活動2年目だが、活動をもっと充実させたい。（活動内容やエコリーダーをどうやって選ぶか悩んでいる）
- ◆ 単発的な行事に終わってしまう。
- ◆ 子どもたちの親や家庭が見えない楽しい事には積極的に参加するが、

◆ 地道な活動には消極的になる。地域の中でも違う意見があり合意形成が難しい。

■グループ討議まとめ

- 子どもを主体とした活動を目指したい
- 子どもたちの好奇心や意欲から、地域を巻き込んだ取り組みなど活動の輪を広げていき、子どもたちの健全育成につなげていきたい。

2日目は事例報告とグループ討議が行われました。グループ討議は、遠路より参加された方との情報交換で盛り上がり、気候風土の違いや各館の行事内容などに驚き、感心し、共感し、抱える悩みが共通することも分かった。

テーマについてももっとと深めて討議することができた。と反省する点もあるが、参加された皆さんのおかげで予定していた内容を無事終了することができた。

3 助言者より

★子どもたちに色々な体験をさせるのは大切なことである。（実践は大事）

★組織の一員であることを知ってもらうには、自分ができるものを見つけていくことである。

★地域活動するには、常に自分も楽しみながらやる。

★地域は違うが、悩みは同じである。地域性を知ることによって悩み解決へつながる。

4 分科会を終えて

昨年のプレ大会から継続して、この大会の事例報告に向けて日々研鑽を重ね、着実にエコ活動を実践してきた、あかぎ児童館の子ども達とその関係者の皆さまの熱意と努力、実践力に敬意を表し感謝の思いでいっぱいです。また、くるくる町の実践で、貝殻を再利用し生産した小物を大事そうに抱え、持ち帰る参加者の姿から「エコ意識」の種まきができるように思えます。

その小さな種は、徐々に各地で芽吹き環境に関心を持ち行動できる「人育ち」のきつかけづくりになるものと期待しています。参加、協力してくださいました皆さん2日間お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

5 分科会運営スタッフ

【幹事】

比嘉 啓子

(豊見城市真嘉部コミュニティセンター)

【発表者】

屋比久 純子、上原 律子

(与那原町あかぎ児童館)

【司会者】

新垣 ちとせ

(南風原町北丘児童館)

【会場責任者】

金城 栄子

(南城市児童家庭課)

【受付】

玉城 恵美子、宮城 純子

(南城市大里北児童館)

【記録】

新垣 久江

(南城市大里南児童館)

西銘 恵美子

(南城市ひまわり児童館)

【タイムキーパー】

内村 利江子

(八重瀬町具志頭児童館)

金城 智代美

(八重瀬町友寄児童館)

【カメラ】

金城 和美

(八重瀬町具志頭児童館)

【ビデオ】

城間 津也子

(南城市大里南児童館)

【助言者】

照屋 隆治

(那覇市子どもエコクラブ)

コーディネーター



第2分科会 記念撮影

No	都道府県	参加者氏名
1	石川県	香田 純子
2	沖縄県	新垣 佳乃
3	沖縄県	上原 純子
4	沖縄県	高島 美治
5	北海道	木村 聡子
6	沖縄県	山入端 裕子
7	沖縄県	佐久本 久江
8	沖縄県	喜名 秀子
9	沖縄県	瀬長 末美
10	京都府	森岡 亜矢
11	沖縄県	嶺井 千春

No	都道府県	参加者氏名
12	沖縄県	渡名喜 庸一
13	沖縄県	砂川 順子
14	兵庫県	佐辺 由美
15	沖縄県	中本 和代
16	沖縄県	仲宗根 梢
17	沖縄県	豊永 栄子
18	沖縄県	新垣 奈々子
19	北海道	佐々木 司
20	兵庫県	岩本 直子
21	沖縄県	長嶺 聖桂
22	沖縄県	金城 えみ

No	都道府県	参加者氏名
23	沖縄県	渡久地 美恵子
24	沖縄県	金城 ちかこ
25	沖縄県	島袋 真由美
26	沖縄県	喜久山 加代子
27	沖縄県	渡嘉敷 トモ子
28	沖縄県	兼島 千恵子
29	京都府	内田 克明
30	滋賀県	山本 松太郎
31	滋賀県	田中 守
32	大分県	渡辺 結香
33	沖縄県	天願 香奈

6 参加者名簿

子育てネットをどう築くのか

～出前児童館をとおして～

児童館は子どもの居場所のみでなく親の居場所でもある。
子育て支援をどのように支援していけるか、関係機関との連携をいかに構築できるのか。

1 進行の概要

《1日目》

- 三線によるアイスブレーキング
- ビデオレターによる事例報告
- 質疑応答
- 助言者のまとめ

《2日目》

- 三線によるアイスブレーキング
- 前日の質疑応答の継続
- 全体討議（他県との情報交換）
- 助言者のまとめ

2 名護市児童センターの特徴

沖縄県の北部に位置していて、北部12市町村の内、名護市の国道沿いに唯一の児童センターである。

学校や地域からとても離れた所にあり、子どもだけの国道横断が厳しい場所なのだが、1日平均200名の利用がある。土日は親子での来館が多い（月曜閉館）。

平日は子ども達の来館が遅いので、こちらから出かけていく出前児童館を始めた。

3 内容

《1日目》

国や県から色々な施策が出ている中、日常的に児童館で行っている活動で子育て支援は充実しているのか？出前児童館にスポットをあてた。

① 出前児童館とは

◆ 日頃来館できない子どもや地域の人を対象に、地域に出かけて行き情報面における向上や遊び等の活動と指導を行う事をねらいとしている。

② 出前児童館の背景

- ◆ 児童センターに行きたくても行かない子どもが多い。
- ◆ 地域の子育て支援が充実していない。
- ◆ 子ども達を巻き込む事件、事故が増えている。
- ◆ 保育団体から行事への出し物等の支援要請があった。

③ 出前児童館を行うようになった理由

◆ 児童センターの利用促進や、児童センターへ来館できない子ども達の為。

④ 出前児童館の目的

◆ 児童館に来館できない子ども達や、センターの利用促進の為だったが、親や地域にとって楽しく親しみやすい子育て支援を行っていくうちに、子育てネットワークも構築していくという目的へ変わっていった。

⑤ 出前児童館の実施状況

◆ 昭和58年、59年は16ミリ映写機を持って地域に出かけていく回数が多かった。それ以降は、人事異動や職場体制等の為、停滞してしまふ。平成13年度頃から、地域からの出前の要望が増えてきた。内容については、『はらべこあおむし』の人形劇が1番人気で、大型絵本読み聞かせ、メルヘンシアター、民謡や童謡の歌の出前も行う。小学校、幼稚園、保育園、病院等へ行く。現在市内の1小学校へ週1回の出前児童館を行っている。





⑥ 出前児童館アンケート
 (対象：現在行っている小学校1・2年生と父母・職員)
 子ども、父母たちの反応やこれからの参考とする為、出前児童館に対するアンケートを行う。
 ◆ 絵本、紙芝居読み聞かせ・じゃんけんゲーム・集団遊びゲーム等が楽しいという結果だった。



⑦ 出前児童館を通して何が変わってきたのか？
 ◆ 出前児童館が待ち遠しい。
 ◆ 子ども達が楽しかった遊びを周りに広げていく。
 ◆ 地域の大人達が、一緒に参加していく。
 ⑧ 出前児童館と子育て支援の関わり
 ◆ 出前児童館は、児童館に来る子ども達だけではなく、地域に居る子ども達へ平等に遊びを提供できる。また、子育て支援者へのサポート、協力を行うようになり、平成13年度に「子どもの家」が地域に2ヶ所できた。さらに、その実績が実を結び平成19年度までには、17ヶ所に増えた。

- 4 児童センターにおける地域とのネットワーク
- ◆ 適応指導教室・ファミリーサポートセンター・保健事業所・高校生(就業体験)、ボランティア(事業への協力)・地域子どもの家(行事への協力)・観光協会・交番・地域公民館・シルバークラス・市民会館・小・中・高・専大等がある。

5 今後の課題
 ◆ 遊びを通じた支援のあり方をさらに工夫し、そして充実した内容で、出前児童館ができるよう「子どもの家」ネットワークの支援や、子育て支援グループのサポートなどを行い、さらに育児に対する思い等にも耳を傾けながら、楽しい出前児童館ができるようにして行きたい。子ども達の要求を察知して職員も一緒になって、勉強していきたい。子どもも大人も安心して過ごせる環境作りとして名護市全域に児童館、あるいは子どもの家が増えていく事を願っている。子ども達が心豊かに育ち愛する故郷が持てるよう、大人の務めとして、これからも出前児童館を続けていきたい。



6 内容

《2日目》

質疑

◆ 「子どもの家」とは

◆ 名護市にはこれ以上児童館を作れないという事で、児童館に代わるものとして、地域で地域の子どもを育てる事を基本とし、地域公民館や集会所などを使って、放課後の児童生徒の受け入れを行い、遊びや活動の場としているもの。(名護市55字のうち、17ヶ所ある)
 ● 子どもの家Ⅱこどもの居場所作り、拠点。

◆「子どもの家」の特徴

● 地域公民館・集会所等に設置されている。

● 場所によって異なるが、スタッフは、公民館の方・幼・小学校を退職した方、地域のおばあちゃん等。

● 時間帯は、毎週月・金、週2～3回、土日のところ等各地域によって異なる。(1日3時間以内)

● 行事等は、各自治会を通して区長が中心になり、全ての子どもの家を教育委員会が取りまとめてクリスマス会、バーベキュー、遠足等を行い、全体交流会は名護市児童センターを利用して子どもの家との関わりを持っている。

● 子どもが抱えている問題に対しては、専門機関が対応している(家庭児童相談室・教育相談室・人権相談室等)。スタッフの研修会は頻繁に行っている。

7 全体討議 (情報交換)

■ 児童館職員は3～5年で違う地域に異動してしまうので、地域の中にネットワークは築きにくい。中高生を育てるパシリーターを地域の大人にやっってもらうことによって児童館がどんな形になって

もずくと地域にその事業が続けられる、場所は児童館で、やるのは地域の大人。それが子育て支援ネットになるのかな。

(東京都)

■ 1つの市(45万)に31の児童館がある。出前に行かなくても、その中でという感覚がある。児童クラブの子どもが多く、中にはネグレクトの子もいる。一年半かけてやっとその子の目が違って来た。相談事業もしていかないと児童館は残って行けないのでは?専門分野は各機関と連携し、そういう意味のネットワークではないかと思う。

(石川県)

■ 専門分野は各機関にお任せしているので、ネットワークは必要だと思う。

■ 在宅の乳幼児の親子に視点をおいた子育て支援にネットを組もうと、地域の子育てグループの方々と意見交換をして今何を求めているのかを出してもらっている。急な用事ができたときの「一時預かり」が出た。そういうことを子育て支援ネットといっている。

(大分県)

■ 地域の方が子育ての応援団として、手助けしてくれる様なネットワーク作りをしている。又中学校の中に(空き教室)学童保育クラブが

開設されていて、昼休み時間には、乳幼児との触れ合い交流の場にもなっている。地域の婦人会の皆さんが読み聞かせ等を行う。

(兵庫県)

■ みなさんと違う部分は、大規模児童館ということ。子育てサークルは、いっばい出来ているが、縦・横の関係の結びつきが無い。そのような部分の接着剤としての役割を大規模児童館がない、県内13市町村をまわり子育て支援団体や行政との情報交換を行っている。

(岩手県)

■ 高齢者が子育てに積極的に協力している。地域見守りたい、少年輔導、登下校を見守ったり、キャンプ等の活動をしている。児童館を知らない地域や児童館が遠い所には出前をしていかなければいけないのかなと考えさせられた。

(京都府)

■ 今年から指定管理になり、地域を知らうと自治会や学校を回った。ファミリーサポートセンターが児



童センターの中にあるため、親子の来館者から、地域を知ることが出来た。

(県内)

■ 児童館が持っている情報はすごく多い。お母さん方がお客さんではなく、児童館でお母さん達が自分



の能力を発揮できる場である事が望ましいと思う。

遊びを楽しむだけでなく、そこから何が発達するのか、ケンカから何が学べるのか、職員としてどういう声掛けをした方がいいのかを意識するといいいのかな。

究極は地域から児童館がなくなる事。おばあがいたり（お年寄り）、ガキ大将がいたり、そういう力を地域の人たち、お母さん方が子どもに社会力をつけさせていく。

大人も子どもも社会力がなくなってきたら、それを意識して児童館も活動していくと良いのかなと思った。

（東京都）

8 まとめ～講師からの助言～

◆児童館というのは地域にあつてしかるべき、自分の地域がどんな地域なのか、何を必要としているのか、同じ市でも、地域によつて支援の仕方は変わるもので、児童館は地域にあつたものを提供していくことが大事。本来ネットワークは要らない、地域が担うものである。地域の人たちが子どもを見つめて地域を育てていく。その地域を育てていくのが児童館。

◆児童館は子育て支援の拠点である。親、子ども育て、その子どもたちが良いように育つて初めて大人になつていい街づくりが出来る、ただの遊び屋になつてはならない。その為に、遊びの中で何が育ち、基盤は何かを考え、社会性、まさに健全育成とは何なのか5つの要素（1、身体健康増進をはかる 2、心の健康増進をはかる 3、知的な能力を高める 4、社会的適応能力を高める 5、情操を豊かにする）を常に考えながら、厚生員としてプロ意識を持つて活動して欲しい。

◆出前児童館で子ども達に何が育つて欲しいのか、ただ子ども達と遊ぶだけでなく、その遊びの中で、子ども何が発達するのか、成長していくのかを捕らえて欲しい。

◆児童厚生員はどこへ行つても素敵なお話がこれからも頑張つて下さい。

9 分科会を終えて…感想

名護市児童センター

北部に1館ある名護市児童センターは、大会のサポートに回ることも大変だろうから、何か一つ分科会の発表でもしたら？と言われ、引き受けたのが第3分科会。テーマは、「子育て支援ネットをどう築くのか」

不安よりも職員で学ぶ場が出来ることに期待し、私たちは助言者の池間先生へ協力を求め勉強会が始まりました。昭和56年設立からのあゆみをたどつて見ると、出前児童館の活動が広域にまたがついていたのには、あらためてすごいなと感じ、児童センターの機能・役割も広域に通じるものでなくてはならないとセンターの重要性を知つたものです。

全国大会参加者の皆さんは、テーマの内容と発表に疑問を感じた方もいたと思いますが、沖縄それぞれの地域性を知り、特に名護市の子育て支援の実態を知つて、児童センターが地域にどの様に関わり協力しているのか、助言者のわかりやすい解説を聞き納得されたのではないかと思います。参加者の皆さんの地域に今回の発表が少しでも手助けとなることを願ひ、また、全国の多くの仲

間の話を聞き、頑張っている姿に力強さ感じる二日間でした。

硬くならずみんなが和気あいあいと話せる分科会を心がけ、沖縄の民謡や手遊び等も取り入れ、少しの間ではありましたが沖縄の文化に触れることが出来たと思います。山原のみかん（たるがよ）やパインカステラはいかがでしたか？実は発表はもとより、皆さんへのおもてなしに気を使った二日間でもありました（これが楽しいのよね）。

これからも、地域の要望に答え出前児童館を充実させて、地域に児童館が出来るよう支援していくつもりです。県内、県外からいろいろな意見をいただき感謝しています。ありがとうございました。



10 分科会運営スタッフ

【発表者】

比嘉 美佐江
(名護市名護児童センター)

【司会】

比嘉 享子
(名護市名護児童センター)

仲栄眞 絹子
(名護市名護児童センター)

比嘉 麻衣子
(名護市名護児童センター)

【幹事】

玉城 律子
(糸満市糸満保育所)

【受付】

伊波 ゆみ子
(うるま市いしかわ児童館)

山城 由紀美
(うるま市いしかわ児童館)

【事務局】

赤嶺 りつ子
(那覇市若狭児童館)

【記録】

仲村 希絵
(那覇市壺屋児童館)

嘉手川 文野
(那覇市壺屋児童館)

【助言者】

池間 多美子
(沖縄女子短期大学非常勤講師)

11 参加者名簿

No	都道府県	参加者氏名
1	岩手県	高橋 功
2	石川県	森下 あけみ
3	長崎県	本多 理沙
4	大分県	尾崎 紀美子
5	兵庫県	中村 美保
6	兵庫県	多田 陽子
7	愛知県	杉田 貴美子
8	京都府	富田 康行
9	東京都	島田 聖子
10	東京都	国松 秀樹
11	東京都	野沢 秀之
12	東京都	米内山 昌孝
13	鹿児島県	平田 暁音
14	沖縄県	上地 久子
15	沖縄県	當銘 尚美
16	沖縄県	宮平 るみ子
17	沖縄県	仲元 智枝

No	都道府県	参加者氏名
18	沖縄県	宮城 勝子
19	沖縄県	金城 夏代
20	沖縄県	仲真 直子
21	沖縄県	與儀 悦子
22	沖縄県	安里 春美
23	沖縄県	山城 静加
24	沖縄県	石原 直子
25	沖縄県	宮城 光子
26	沖縄県	大城 典子
27	沖縄県	崎山 明美
28	沖縄県	宮里 匠
29	沖縄県	末吉 業立
30	沖縄県	照屋 勝枝
31	沖縄県	宇根 真利子
32	沖縄県	仲村渠 美智代
33	沖縄県	伊是名 愛

いきいきとした放課後を支える児童クラブとは

遊びと生活の場である児童クラブ（学童）は今大きな変化の時を迎えています。第4分科会では子ども達がいきいきとした放課後を過ごせる運営活動のあり方を探ります。

1 進行の概要

「1日目」

①「沖縄の児童クラブ（学童）の現状」

発表者 知花 聡氏

（沖縄県学童連絡協議会会長）

進行方法

様々な形態で運営されている児童クラブであるが、沖縄県の児童クラブ（学童）の現状や課題を知ってもらいました。

②フロアからの意見

参加者と意見交換、情報交換を通して児童クラブのあり方を探り、2日目のグループ討議へつなげます。

③助言者からのコメント

助言者 上野 ひとみ氏

（金沢市立三和児童館副館長 文科厚生員）

助言者 植木 信一氏

（新潟県立新潟女子短期大学）

「2日目」

④「複合施設での学童」

発表者 安里 國浩氏

（金城学童クラブ）

児童館併設の施設内における、父母の共同運営学童クラブの事例発表から、問題提起、意見交換へとつなぎ、参加者同士でのディスカッション内容を深めます。

⑤助言者からのコメント

助言者 上野 ひとみ氏

（金沢市立三和児童館副館長 文科厚生員）

助言者 植木 信一氏

（新潟県立新潟女子短期大学）

⑥グループディスカッション

2 内容

「1日目」

①「沖縄の児童クラブ（学童）の現状」

発表者 知花 聡氏

（沖縄県学童連絡協議会会長）

沖縄県外では幼稚園児は学童保育の対象外となっているが、沖縄県では、5歳児になると幼稚園に入園するのが風潮となっており、両親共働き家庭の子の放課後保育を学童で補うという点でも学童保育の必要性が大きいのです。

学童保育の設置・運営主体の比較

	全国	沖縄
公立公営	45.1%	3.9%
公立民営	40.7%	0.5%
民立民営	14.2%	95.6%



▲知花 聡さん



▲パワーポイントによる報告

学童保育の実施場所

	全国	沖縄
学校の余裕教室使用	28%	4.88%
学校敷地内の専用施設	18%	0%
児童館・児童センター	16.4%	5.36%
公共施設利用	9.6%	3.9%
民家・アパート	6.7%	27.8%
保育所	6.2%	18.55%

沖縄県の抱える問題点は、小学校の余裕教室の借用ができないことや、71人以上の学童クラブが20ヶ所あり、2年以内に分離・増設を行わなければ、補助の打ち切りにより経営が成り立たなくなるといふ事です。そのため、父母会での資金収集活動もみられています。

②フロアからの意見

○沖 縄

国のガイドライン案の内容は高く評価できるが、年々学童への財源が減っている中、市町村での取り組みに違いがある等、実態とガイドライン案との格差を感じています。

○沖 縄（民立民営）

学童在籍数の増加に伴い第二学童を作る予定であるが、市からの補助金は下りず、市は市運営の学童を立ち上げています。

○九州（公立）

児童クラブで保育料を徴収していない所は、おやつ代の工面に困っています。

○北海道（公立）

児童館は無料で定員制限が無く、乳児から高校生まで誰でも利用できます。その中に1年生から3年生対象の児童クラブがあります。



▲フロアからの意見

○沖 縄（民立）

国頭村では幼稚園児にも補助金が支給されているが、小学校内の空き教室利用は学校側から許可が下りません。



▲第4分科会参加者の様子

④「複合施設での学童」

発表者 安里 國浩氏

（金城学童クラブ）

複合施設において、また近くに公園があるという恵まれた環境のなかで、子ども達の放課後を見守り・支えています。異年齢集団の中で、子ども同士が成長し合っていることの大切さ、地域の中学生・高校生・学童のOBの人と遊ぶことによって、地域、人とのつながりが生まれます。

「2日目」

いろいろな人が利用する施設にすることで、学童の持つ機能と児童館・児童センターの持つ機能、お互いに相乗効果を得る事ができています。この環境、体制を維持できるように取り組んでいます。また、幼稚園生から小学校6年生まで預かっている中で、長い期間子ども達の成長に関わっている、見守っているという点が指導員として面白いと感じています。



▲安里先生の発表へのフロアからの質疑応答

⑥グループディスカッション

内容

それぞれの児童クラブの現状、子どものいきいきとした姿について

● 中学生になって児童センターに遊びに来て厚生員補助として遊びの指導をするなど、人とのつながりをもつ場となっています。



▲グループ討議の様子

● 障がいを持つ児童と一緒に通園することで他の子ども達の心構えや精神面での変化・ゆとりが現れています。

● 曜日によって学年で当番を決め、週に1回高学年が「駄菓子屋さん」をし、低学年がチケットを持っておやつを受け取りをしています。

● 4月の時点でリーダーをつくり、3年生がリーダー、2年生がサブリーダーとなります。高学年が自ら司会などリーダーをやることによって他学年も影響されています。先生よりも子ども達が進めることの方が環境として好ましく、リーダーを育てることが指導員の役割だと考えられます。

● それぞれの心の悩みを見つけ真剣に対応し、一人ひとりと向き合うことが大切です。

● 複合施設であればあるほど、子ども達にとって過ごす環境が良いです。



▲グループ討議の結果発表



▲グループ討議の様子

●児童館と隣接している学童では、児童館で行う行事を楽しく取り組めるようにしています。
●何をすることも指導員が楽しみ、子ども達を遊びに引き込むことが大切です。



▲上野先生のお話

金沢市では児童館内にある児童クラブが20箇所あり、その他にも教会・公民館・専門学校などの空き教室を利用した児童クラブがあります。児童クラブに帰ってくる楽しみとして、おやつに力入れるという工夫をしています。児童館は、遊ぶだけでなくクラブ（習い事）などでも子ども達の居場所となっています。遊びに来た中学生や高校生が子ども達の遊び相手になったり、ケンカの仲裁をしてくれたり、異年齢の子が関わり合う中で、消極的だった子が積極的になることもありました。障がいのある児童との関わりでは、最初は

3 助言より・まとめ

★助言者

（石川県金沢市立三和児童館）

上野 ひとみ氏

周りの子ども達が暴言を吐いたりすることがありました。しかし、子ども達が担任に協力し一緒に障がいのある子を助けてくれるようになり児童クラブにまとまりができました。

★助言者

（新潟県立新潟女子短期大学）

植木 信一氏



▲植木先生のお話

学童は、場所・子ども・指導員が揃っているだけではなく、遊びや生活の場を利用しながら、指導員や地域と関わるのが大事だと感じます。地域によって学童・子どもの様子は様々ですが、異年齢の子ども達の関わり、子ども達の発達を願い、放課後に何が出来るかという指導員の思いは同じです。指導員としてできる重要な事としては、大人に真剣に向き合ってもらった経験が少ない子ども達に対し、第三者である児童センターの職員が子どもと向き合うことでもあります。また、子ども達のいきいきとした姿を引き出すために、子ども達が知恵を出し合い共に過ごす事で、様々な価値観を見つつけ出していく環境を大人が意識的に作っていくことが大切です。最後に、児童クラブは家庭機能を支援する場所であり、指導員が保護者へ子どもの様子を伝えることで親子で密度のある時間を過ごすことができます。長時間保育を受けても児童の発達リスクは関係ないことが照明されています。

4 分科会を終えて

1日目、「むすんでひらいて」の沖縄パージョンの手遊びを紹介し和やかな雰囲気の中、第四分科会が始まりました。

はじめに、沖縄県の児童クラブの現状を沖縄県学童保育連絡協議会会長の知花 聡さんにより沖縄の幼稚園問題・学童の予算面等の実態をパワーポイントで丁寧に説明をしていただき、他府県の児童クラブの現状をフロアから思い思いに出していただきました。それぞれ違う、運営・形態なので意見がさまざまであったが、お互いの現状の違いを知ることができました。

また、休憩タイムには、スタッフで用意した手作りサーターアンドギーと沖縄県に咲く花の押し花をあしらったコースターとしおりのプレ



▲お土産の沖縄県に咲く花のコースター、ストラップ

ゼントを用意し、県内外の参加者に喜んでいただきました。

2日目の分科会では、金城学童クラブ指導員の安里 國浩さんから「放課後子どもプランについて」実践に基づいて、それぞれの施設（社会福祉センター・児童館・デイケア施設）をうまく活用した子どもの育成を考えた保育の様子を発表しました。その後のグループ討議では、日々の業務での悩みや思いを分かち合い、互いに良いアイデアやアドバイスを聞く事ができました。

2日間を振り返り、分科会に参加した人の目的・意図が、児童クラブの実践事例を聞く中で、子ども達の育成をどのように行えばよいか等を模索していくことであったように思います。

2日目のグループ討議では、伝えたい事、聞きたい事が尽きず時間が足りないとの声が多いほどでした。

5 分科会運営スタッフ

【分科会責任者】

松本 美恵子

(新城児童センター)

【司会】

伊元 義明

(うるま市なかきす児童センター)

【発表者】

知花 聡

(浦西学童)

【助言者】

安里 國浩

(金城学童クラブ)

上野 ひとみ

(金沢市立三和児童館副館長 文科厚生員)

【記録者】

植木 信一

(新潟県立新潟女子短期大学)

仲宗根 亜里沙

(大山児童センター)

【受付】

眞喜志 真由美

(新城児童センター)

前里 奈美

(大山児童センター)

仲本 香澄

(新城児童センター)

亀川 スミ子

(大謝名児童センター)

【タイムキーパー】

呉屋 恵美子

(大山児童センター)

6 参加者名簿

No	都道府県	参加者氏名	No	都道府県	参加者氏名	No	都道府県	参加者氏名
1	佐賀県	田中 幸子	16	沖縄県	兼本 絹枝	31	沖縄県	垣花 道朗
2	滋賀県	梶谷 明美	17	沖縄県	岩木 桃子	32	沖縄県	謝花 博一
3	大分県	江藤 幸代	18	沖縄県	島袋 智夏	33	沖縄県	儀保 美佐子
4	北海道	水谷 千佳	19	沖縄県	金城 幸司	34	沖縄県	仲順 国子
5	長崎県	山口 千佳子	20	沖縄県	仲間 照美	35	沖縄県	新里 里美
6	埼玉県	澤田 幸江	21	沖縄県	喜屋武 享介	36	滋賀県	柿木 雅子
7	沖縄県	伊禮 久美子	22	沖縄県	小島 美恵子	37	沖縄県	宮元 万梨子
8	沖縄県	佐久田 すが子	23	沖縄県	玉城 直子	38	沖縄県	照屋 清子
9	沖縄県	吉村 優子	24	沖縄県	新里 まり	39	沖縄県	宮国 勝江
10	沖縄県	新垣 尚子	25	沖縄県	金城 博子	40	沖縄県	比嘉 昌哉
11	沖縄県	森山 美智子	26	沖縄県	浜川 久美子	41	沖縄県	志喜屋 徳子
12	沖縄県	比屋根 知愛紀	27	沖縄県	仲村 広美	42	沖縄県	田村 美輪
13	沖縄県	浦崎 典子	28	沖縄県	城間 博子	43	沖縄県	新垣 園子
14	沖縄県	山城 恵	29	沖縄県	桃原 優子	44	沖縄県	日高 英子
15	沖縄県	大城 琴紀	30	沖縄県	山城 恵	45	沖縄県	伊江 幸子

みんなで語り合おう!!

児童館に来る中高生ってどんな子？プログラムの工夫ってどんな風に行っているのか？成功例・失敗例何でもあり！グループに分かれて、じっくり話し合ってみませんか!?

1 進行の概要

1日目

- ① 日程オリエンテーション
- ② アイスブレイキング!
- ③ GAMEサイン★コレクター

2日目

- ④ あげだ児童館 横田 美和
- ⑤ 課題提起
- ⑥ コーディネーター敷村 一元氏
- ⑦ グループディスカッション (3グループ編成)

2 内容

問題提起

沖縄市立あげだ児童館

横田 美和

- ① 思春期になって自分の置かれている状況から精神面や行動面に敏感に反応し、子ども達は様々な形でSOSを、児童厚生員に送っている。
- ② 中高生の問題行動

喫煙、飲酒、性問題、不登校、携帯電話サイト問題等、様々な問題を抱えている。

(ア) 中学2年生女子児童
Iさんの場合

中学に入学して半年後、不登校になり、家族関係や友達関係が悪化し悩む。非行行為はないが、リストカットなどの自傷行為が見られる。中学2年後半から進路の相談が児童厚生員にあり、学校に通うようになるが、自傷行為の深さもあり、家族には「お前バカか。」と言われ、苦しい胸のうちを理解してもらえない。学校や関係機関に報告するが、抱えている問題に温度差を感じる。何を第1に考え、対応すべきなのか？

(イ) 非行に走る女子中学生

Rさんの場合
生活のみだれや自傷行為が見られ、関係機関に連絡を取るが、「親の意識が高いから大丈夫」という反応。子どものおおげさな言動表現もSOSではないのか？

子どもたちは、児童厚生員に何を求めているのか。再認識したい。

課題提起

コーディネーター

敷村 一元氏

この問題は命に関わることで、大変危機感を感じるものもあれば、リ

ストカットで自分の弱さを見せることによって、かまってほしい子どももおり、求める提言は一人ひとり違い、対応も違う。私たちも弱い人間で、共有する知識もない。突っ込みすぎることもあるので、距離感を持つことも大事である。



グループディスカッション

Aグループ

「問題行動などが目立つ中高生について」

ファシリテーター

高橋 雅裕氏

① 中高生のイメージとは？

「甘えん坊」「寂しがりや」「手にお

えない」「かまってるほしい」「かわい
い」「さめている」「感動が少ない」
「見た目は強そうだけどガラスのよ
うにもろい」

②悩みや課題

- 複雑な思いを抱えている子どもや
気になる行動（飲酒や喫煙など）
に対しての関わり方
- 過食・拒食・リストカット等を抱
えている子どもへの関わり方
- 事業への参加の継続や達成感、感
動などを味わうにはどうすればよ
いか
- 恋愛問題
- 中高生が児童厚生員に求めている
こと
- ケンカや館内での盗難（警察・パ
トカーの巡回をしてもらう）
- 対応ひとつで傷つく心を持つ子ど
も達への関わり方

ピックアップ!

喫煙や飲酒の対応について

● 「やめなさい!」と直球に言うの
は、ナンセンス。ただ成長期なので、
身体的・精神的にも影響されやすい
ことを配慮し、やめる・やめないに
しても、大人として伝えるべき事は
伝える。なぜ子どもたちは、喫煙や
飲酒に手をのばすのか、心理状況を
把握することで、児童厚生員の対応
や言葉かけも変わってくるのではな
いか

「ファシリテーターより」

喫煙や飲酒などの問題は、今も昔
も変わらないと思う。変わったのは、
注意できない周りの大人であり、子
どもは「なんで親じゃないのに注意
されないといけないの」と思ってい
る。まずは、信頼関係を持ち、自分
を大事にすることを伝え、いつかは
気づいてくれるという長い目で見る
こと。「自分のやっていることに気
がつく」それが最大の目的。児童厚
生員の役割とは、子ども達の育成の
部分。行政や関係機関と連携をとり、
法に触れる部分は、警察へ任せる。
児童厚生員も一人ひとり、見方や関
わり方が違うのでこの機会に共有す
ることである。



③問題解決のためには・・・

- 中高生は、体力的にも力がある。
その力をどう活かすか
- チームとしての統率
- 関係機関との連携
- 一人の大人として、そして児童厚
生員としての意識
- 親に理解してもらうのは厳しいの
で、母親クラブ、乳幼児サークル
を通して親育てに関わること
- 子どもの良い所を探して、親へ伝
えることも大切
- 児童厚生員は、『心の体力』を備え
なければならぬ

④実際に行っている活動

- 児童館にオムツ袋配布を実施
- 地域の親子の顔が見える。
(京都市)
- 学校、行政、民生委員などで結成
された児童館運営委員会がある。
(石川児童館)
- ファミリークラブ「絆」設立
(あげだ児童館)

● 親のみならず、地域の方、健全
育成に興味のある方が対象。児童
館で子どもと地域の顔合わせがで
き、大人の来館が増えた。
お兄ちゃんプログラム
(あげだ児童館)

● エイサーや空手、ブレイクダン
スなど、得意分野を活かしたプロ
グラムを組み、中高生が先生とな

る。ボランティア活動の様子は学
校へ報告。

Bグループ

「中高生の利用がある中での、プロ
グラムの工夫や関わり方について」

ファシリテーター

木戸 玲子氏

①悩みや課題

- 中高生と小学生との関わり方（力
加減、帰宅時間の違い）
- 中高生用のプログラムはあるが、
利用目的で積極的に活動する子
とりあえずかまってる欲しい子が
いる
- 中高生の来館が時々のため、継続し
ていくのが難しい



- 特に表立って問題行動は見られず、すごくいい子であるが、その子の人生を考えると、館内で何かスナップアップさせたい（高校に行かず、ニートのような子）
- 問題行動のある子へどうすればいいか（注意をするとその職員の車が傷つけられて、注意がしづらい状況）
- 19歳からの子への来館はどう対応するか？
- ボランティアの名札をつけて子ども達と関わってもらおう
- 来館する中学生への周り（学校、行政等）の目が立場の違いで見方が違う。それをいい方向へ向けたらいい
- ② 中学生が来館しているが、健全に遊ぶことができるようにするには？
- プログラムの具体的な目的、目標を持つ
- スムーズに運営できなかった場合の原因究明と今後の対策検討
- 計画は子ども達まかせにせず、児童厚生員もコーディネーターとして関わる
- 活動期間は長期間ならだらしするのではなく、短期集中で行う
- 達成感を得るためには発表の場を設ける
- 小さい活動から広げて、外での活動

動をすることで自信につなげ、地域にPRする

●関わる児童厚生員がプログラムの内容に興味があることで、継続ができる

●プログラムの企画内容：「おぼけやしき」「児童館まつり」「クリスマス会」「ダンスチーム」「読み聞かせ」など

表に出たがらない子は、プログラムの取り組み活動の中で、チラシや壁面の作成など個々の得意とする分野を活かして、活動へ促す。

●**どんだん地域へPRし、大人の目を増やすことが大切**

Cグループ

「中学生を児童館に呼び込む工夫について」

ファシリテーター

上木 秀美氏

① 悩みや課題

- 中学生を増やしていきたい（中学生の利用が少ない）
- ボランティアとしての活用の仕方
- 養護学校の子どもの関わり、女の子との接し方
- 中学生のケンカの仲裁
- 児童館の開館状況について
- 同年代の子とも達と遊べない中学生
- 家庭にどこまで入り込めるか

② 中学生を呼び込めるキーワード
「知名度」「地域」「環境」

(ア) 「知名度（PR法）」

●館だよりの配布や来館する子ども達への声かけ

●各年齢に応じたアプローチ、居場所、楽しい場所をアピールする

●地域へも中学生が遊べる場所であることをPRする

●中学生向けのチラシ作成

●利用者（子ども、保護者）に向けて、事業展開をして児童館を知ってもらおう

(イ) 「地域」

●赤ちゃんふれあい事業

●「京都市嵯峨野児童館」：学校の一室を借りて、赤ちゃんの親子に来てもらい、休み時間に触れあい体験をする

●「えひめこどもの城」：中学校で年間を通して、生命の大切さを勉強し、そのまともとして児童館で赤ちゃんに触れあう

●児童館を知ってもらおう

●学校側へ校内放送の依頼や各教室にポスター掲示の協力依頼

●出前児童館

●リサーチ

●中学生が何に興味があるか

●中学生が何に興味があるか



(ウ) 「環境」

●部屋作り：雑誌や漫画を置く、飲食や音楽はOK、大人にあこがれる中学生のために、モダンなカフェ風になっている。

●アンケート用紙を設置

●大学側との連携

●児童館は、中学生にとってどういう場所であるべきか

●居場所作り・・・定期的に来館する子どもは、必要としている

●アンケート用紙を設置

●大学側との連携

●児童館は、中学生にとってどういう場所であるべきか

●居場所作り・・・定期的に来館する子どもは、必要としている

●アンケート用紙を設置

●大学側との連携

●児童館は、中学生にとってどういう場所であるべきか

●居場所作り・・・定期的に来館する子どもは、必要としている

●アンケート用紙を設置



- 中高生向けのサークル作り
- 利用時間の検討
- 現在の利用者と中高生との相互理解

3 コーディネーターより・まとめ

これからも多くの問題を抱えた子どもたちの利用が増えるだろう。中高生と真剣に関わると必ず、中高生が抱えている悩みや問題に気づく。また、法に触れることに関しては、中途半端に受け入れず、警察機関との連携も必要である。これらの問題を抱え込みすぎて、児童厚生員自身がつぶされないためにも、一人で背負うのではなく、この機会ですべきネットワークを通して、児童厚生員同士の情報交換をして、現場で活

かして欲しい。それが全国大会の目的である。

4 分科会を終えて

幹事より

第5分科会に参加した児童厚生員の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。各児童館の状況報告の中で、同じ悩みや問題、参考にしたい事例紹介等を共有することで、明日からの活動に活かしていく「力」が積みまされた。また、コーディネーターをはじめ、ファシリテーターの皆様の活発なグループ討議の進行や問題に対しての参考意見も大変勉強になりました。沖繩のスタッフは支えられました。グループ討議を中心に進めていく中、話し足りない方々もいたと思います。参加してくださった全国の仲間、児童厚生員、関係者の皆様のおかげで、無事終えることができました。ありがとうございます。

参加者の声

- 共感できる仲間がいらっしやるということを知り、勇気が湧いてきてとてもよかったです。持続する体力を身につけて頑張りたい。
- 希望を書かせて頂くと、せっかく沖繩に来たので、沖繩の中高生の活動を生で見えたかったです。中高生の生声でもOKかな・・とも思います。
- 改めて児童厚生員の役割を考えら

れました。「子どもにどれだけ真剣に関われるか」ということを自分に問い直しながら、この使命感ある仕事を極めていこうと思えました。

- 中高生の対応は、難しさにあります。この分科会に出た児童厚生員は、きつと乗り越えられると思います。全国チームとして頑張っていきたいと思います!!



第5分科会 記念撮影

5 分科会運営スタッフ

【幹事】

東 悦子
(沖繩市福祉文化プラザ児童センター)

【発表者】

横田 美和

(沖繩市立あげだ児童館)

【司会】

山城 康代(うるま市石川児童館)
岸本 安子(沖繩市立あげだ児童館)

【記録者】

川満 昌美(那覇市立小禄児童館)
関根 詩歩(那覇市立小禄児童館)

【アイスブレイキング】

宮里 顕

(沖繩市福祉文化プラザ児童センター)

【タイムキーパー】

宮城 多喜(うるま市石川児童館)

玉那覇優子(うるま市石川児童館)

【受付】

上原さやか(那覇市立若狭児童館)
福原あずさ(沖繩市立あげだ児童館)

【コーディネーター】

敷村 一元
(愛媛県 社会福祉法人白鳩会
生石保育園長)

【ファシリテーター】

高橋 雅裕
(北海道札幌市 中の島児童会館)

上木 秀美
(愛媛県松山市 えひめこどもの城)

木戸 玲子
(滋賀県大津市 田上児童館)



No	都道府県	参加者氏名
1	北海道	高橋 雅裕
2	千葉県	本間 敏子
3	滋賀県	木戸 玲子
4	京都府	野口 智子
5	京都府	佐々木 美恵子
6	京都府	中村 紀裕
7	愛媛県	敷村 一元
8	愛媛県	上木 秀美
9	兵庫県	羽山 友子
10	石川県	寺西 美和子
11	沖縄県	宮城 有衣
12	沖縄県	伊佐 雄大
13	沖縄県	宮平 安隆
14	沖縄県	大城 利香

No	都道府県	参加者氏名
15	沖縄県	運天 宏枝
16	沖縄県	西平 真理
17	沖縄県	大城 みゆき
18	沖縄県	岸本 安子
19	沖縄県	横田 美和
20	沖縄県	福原 あずさ
21	沖縄県	東 悦子
22	沖縄県	宮里 顕
23	沖縄県	山城 康代
24	沖縄県	宮城 多喜
25	沖縄県	玉那覇 優子
26	沖縄県	上原 さやか
27	沖縄県	川満 昌美
28	沖縄県	関根 詩歩

“安全”の地域連携と リスクマネジメント

子どもの危険回避力を高めるには？安全を確保するためには？
事例やフィールドワークを通して2日間討議しました。フィールドワークでは、子どもの目線になって実際に那覇の街をグループに分かれて歩きました。

1 進行の概要

- 【1日目】
- I アイスブレーキング
 - II 事例報告
 - III グループディスカッション
 - IV グループまとめ
 - V グループ発表
 - VI 質疑応答・助言
 - VII 終了

【2日目】

- I 日程オリエンテーション
- II 事例報告及び安全マップ・資料紹介
- III フィールドワーク（会場近隣公園等）
- IV グループまとめ
- V グループ発表
- VI 質疑応答・助言
- VII 分科会まとめ・終了

2 内容

内容【1日目】

*事例報告①

東京都中野区文園児童館
東中野執務室 千葉 雅人氏
施設内安全対策実践編

「実践報告 児童館の安全は ワタシが守る」

東京都中野区

みなみ児童館の取り組み

施設内の安全対策について、職員一人一人が自分の館の安全を守るという意識付けをしようという趣旨で

館内の工夫したこと、すぐできる事
スライドを通して報告。

★できることからやってみよう
職員が頑張ればできること

- 1 出入り口を限定する「防犯」
人の出入り、動線をチェックし
限定する。貼り紙等で意識付け
した。
- 2 館内の見通しを確保するために
大胆に引き戸をはずす、窓をはず
すなどの工夫をすることによって
事故や衝突が減少した。
- 「防犯・事故防止」
- 3 階段の踊り場の衝突をさけるた
めに鏡を設置。上下の様子が見ら
れるようになった。「事故防止」
- 4 窓ガラスをスクールテンパレッ
クス（網入りガラス）に替えた。
「事故防止」
- 5 カバーのついていない蛍光灯を
防飛型に替えた。「事故防止」
- 6 ドアの指はさみ防止対策は引き
戸に戸渡り防止対策をした。
「事故防止」（トイレのドアで指切
断事故が起きたため）
- 7 乳幼児利用の部屋に感電防止の
ためにコンセントキャップを使用。
「事故防止」



できることから
やってみよう！

8 コーナーカバーの設置。
「事故防止」

9 什器の転倒防止のためL字金具
ですべて固定。ツツパリ棒、ふん
ばる君を子どもの居場所、動くと
ころすべてに計画的に設置してい
く。「事故防止」

★利用者が自身を守る
防犯・事故防止意識を
持つために「まもり」

利用者、子どもたち自身が気づく
「館内安全マップ」の作成

子どもたちが話しやすい環境をつ
くってあげるには日頃からアンケ
ートや意見表明活動をやっておく。子
どもたち自身が危険、危ないと思っ
たことを自然に話せる場づくり（環
境）が大事。

★地域とともに子どもを守る
守る取り組みとして

町会や児童館協力者に学童クラブ
の見守りを依頼

大人がその施設にすることが不審
者への最大の抑止力になる。常に大
人の姿があり「人に囲まれた施設作
り」と職員が外に自分の姿を見せる。
大人の寄り付く児童館にしていくこ
とが大切。今後、危険管理マニユア
ルを作成していくなかで、それぞれ
の館のマニユアルの作成が必要。

「安全対策」「事故対応」「防災」

「防犯」に加えて「個人情報」「各種
感染症対策」のマニユアル本も作成
して行く予定と報告した。

***質疑応答**

千葉先生へ質問

石川県 石川県立児童会館

島村 雅則さん

■不審者に対応する方法が当然必要ですけども、それと併せ持って『どうしてそういう人が育ったのか?』ということも一緒に考えていく必要があるのではないかと日頃から思っています。その辺につきましてはどう思いますか?

《千葉 雅人氏》

■今、日本は大人社会が劣化している。大人が規範を守ったりしていないし、大人がルールを守っていないのに、その大人が育てている子どもがルールを守る訳がないって思います。

それから、子どもを育てるって事に対して大人はどういう責任を持つて関わっているかという問題だと思のですが、そういう人が生まれてしまう原因というのがやっぱり、子が子を育ててしまうという中でいろんな弊害が起きてきたのだろうなと思います。表に出てきている現象については対処法でやるしかない。そういう見直す社会に今なりつつあるので、皆さんも全面的に押しだしていったら、もうこれからはそういう不幸な育ちをする方がいなくなるようにしようという答えしかないと思います。

3 グループワークの助言

児童館が情報の中に入っていないという話があったがそれは困ること。それはなぜか?

「児童館に子どもは来ているのだから組織を通して情報は必ず入ってこない」と困る」

では、どうすれば良いか?

市内・町内という組織を使ってもいいですから、やっぱり確実に輪の中に入れていく。

そしてこちらからも確実に発信できるようにしていくことが重要です。また、「不審者・不審者」と言っていると、プライバシー（人権問題）にひっかかってくるので、その辺は丁寧な情報の取り扱いが必要だと思います。

***グループディスカッション**

●5つのグループ（トラ・サル・シマウマ・カンガルー・キリン）に分



かれて、館内・館外で起こった事故等を挙げ、事故原因の経緯や対応について発表しました。

*** 館 内 (抜 粋)**

	事故例	そのときどうしたか?	今後の対策
1	・ケンカで竹の棒をなげ怪我をさせる	・理由を聞き話し合わせる	・不必要なものをかたづける
2	・ドアの取っ手に手をぶつけ、指を骨折	・湿布で対応 しかし、後日骨折が発覚	・ドアの取っ手にクッションのような物を取り付ける
3	・乳児が机から落下。頭を打つ	・母親を安心させ病院へ連れて行く	・研修会を行う
4	・卓球台の角に頭をぶつけるの子が多い	・卓球台付近での遊びを禁止 ・角にコーナーカバーをとりつける	・コーナーカバーを取り付ける理由を子どもたちにも知らせる ・事前の職員の対応マニュアル化
5	・精神に障害を持った人が来館	・偶然巡回に来たお回りさんに対応してもらう	・障害を持った方への対応力を高めておく。
6	・一輪車で転倒。頭蓋骨にヒビがはいる	・手当てをし、病院へ・保護者へ連絡	・補助カバー上に乗らないように話す ・ポスター作成
7	・ボールが蛍光灯に当たり落下（幸いけが人なし）	・子どもをその場から移動させる・片付け後、どうして起こったか考えさせる	・手作りの柔らかいボール使用
8	・テレビが土台からずれて落ちこどもにあたる	・手当てをし、家に送り、親に病院へ連れて行ってもらう	・テレビの管理は事務所で行う ・テレビを使用する場合は職員がつく
9	・実習生が麻疹に感染していて、子どもにうつす（感染症）	・感染が広がり、学校・館が休みになった	・学生受け入れの際、抗体・感染症の確認・連絡体制
10	・引き戸に持たれ、戸が外れ頭を打つ	・冷やして、もたれないように声かけ	・倒れないように押さえを取り付ける

**館内
の意見**

- ・遊びの中で起こる事故が多い
- ・危険予知が出来たであろう事故
- ・異年齢での遊びは職員も加わる
- ・遊び方に問題がある
- ・職員で安全点検を毎日している

* 館 外 (抜 粋)			
	事 故 例	そのときどうしたか?	今後の対策
1	・女の子が、1人で帰宅中、知らない男子中高生に声をかけられる(不審者)	・職員が、館外に確認に行く ・その子へ1人で帰らないように声をかける	・1人で帰らないように声かけをする
2	・知らない人にお菓子をあげるからと声をかけられる(不審者)	・学校関係者に連絡(P T A)	・地域の方へ情報を伝え、見回りをお願いしている
3	・閉館後、子どもが屋根に登り転落、両手首骨折・頭蓋骨にヒビ・鼻をケガ	・有刺鉄線、帰宅指導の強化 ・関係機関との連携をとる ・子どもたちも考えてもらう	・2度と起きないように、地域との連携を大切にする
4	・草むらで蜂にさされる	・病院へ・親に連絡	・危険な場所では遊ばないよう安全への意識づけをする
5	・滑り台の上から木を転がし、下にいた子の頭にぶつかり、怪我を負う(大きいケガ)	・すぐ病院へ・保護者へ連絡	・こどもが外で遊んでいる場合は、職員も外に出る ・危険なものを除く
6	・窓のコーナーで顔を切る	・病院へ・保護者に連絡	・外回りのコーナーのアルミ部分に粘土状の物を業者に塗ってもらう
7	・塀からの転落(大きいケガ)	・閉館後の事故だったため、後日対応	・鉄線をはり、登れないようにした ・注意書きをはる

**館外
の意見**

- ・大きな事故が目立つ
- ・事件、事故がきっかけで地域連携が密に
- ・いつも地域から情報をもらう
- ・目の行き届かない場所での事故
- ・自分の身は自分で守ることも大切
- ・周りとの連携が大切など

内容「2日目」*事例報告②

「防犯活動をととした地域づくりの仕掛け」

那覇市金城児童館


～パワーポイントを使って発表～

嶺井 恵里子

1

第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会
第6分科会 事例発表

防犯活動をととした
地域づくりの仕掛け



那覇市金城児童館での取り組み

2

どうして今安全マップか?
こどもと地域を犯罪から守るための
地域ぐるみの見守り

①弱い地域連携基盤
ア 新興住宅地区で、自治会に寄留民参加が難しい。
イ 自衛隊駐屯地等があり、転勤族が多い。

②地域アイデンティティ形成の必要性
ア “こどもの見守り”を目的とした地域交流の機会
イ 防犯の大切さを知り、危険回避能力を身につけ、地域に守られているという安心感

③児童館のリスクマネジメント
ア 安全対策(施設内、地域、不審者対策)の必要性

3

平成18年度の取り組み	平成19年度の取り組み
1. 地域安全マップの作成	1. 親子での安全マップ
2. 地域防犯講座の開催	2. 母親クラブによる協働でつくる地域の安全プログラム
	3. もも365年一葉まなち交りキッズ発表

平成18年度の課題

平成19年度の活動

※さらなる地域連携の必要性
※中心となる組織運営責任の明確化

4

平成19年度の活動展開

1. 親子で作る安全マップ

※資料参考

平成18年度の活動を基に、安全に対する意識を家庭環境の中で防犯の意識を高めてもらうという意見

↓

十分に伝えられていないのが現状

5

2. 母親クラブによる協働でつくる地域の安全プログラム

主催:児童健全育成推進財団
安全なまちづくりのさらなる強化のため申請

※事業計画については、資料参考

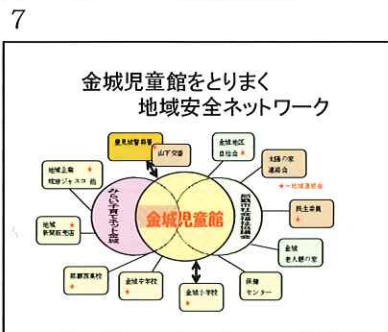
プログラム案

- 公園遊具の安全点検活動
- 安全の標語看板の設置
- 地域の情報掲示板の設置(太陽の家連絡会)
- 安全に関する住民座談会の開催
- 防犯・安全の啓発グッズの配布(未実施)

6

3. ちゅううちな一安全なまちづくりモデル地区

- 関係組織
豊見城警察署
那覇市社会福祉協議会
近隣小・中学校
地域自治会
民生委員

8

地域の変化と声

- ・地域みんなで防犯や安全についての認識を高めることはとてもよいことだ
- ・防犯と言ってもピンとこなかったが、活動を通じて他人事ではないと思った
- ・安心させて外出させられる地域であってほしい
- ・子どもにも防犯について知ってほしい
- ・地域の一人として地域の子どもたちを見守りたい

9

金城児童館の目指すところ

職員の地域資源活用力のアップとエンパワメント視点

↓

- ・子ども自身の危険回避能力を身につけるなどのこどものエンパワメントを高める
- ・住民が主体となって安全なまちづくりができるように結び付ける地域のエンパワメントを活用していく

※エンパワメント=自己解決能力を高める



平成19年度 取り組みより

公園点検

※例年、全国的に実施

- 地域の民生委員さんや市の公園管理室の方も一緒におこなう

太陽の家(こども110番)連絡会

金城地区太陽の家(45か所)のネットワークの仕掛け

情報掲示板の案

安全に関する標語の募集と看板設置

金城小高学年を対象に安全に関する標語を募集。約200点の応募の中から6点を選び、看板を作成し地域の公園に設置。

地域住民座談会

金城地区住民座談会

平成19年9月22日(土)開催

台風の影響で一週ずれたため、社員の広務カーをつかって地域に呼びかけ

約30名あまりの地域の方々に参加

第10回 ぼうさい探検隊マップコンクール

★★わがまち再発見賞を見事受賞★★

まちの危険箇所をマップで

ワークスナップ掲載

ワークスナップ掲載

事業を終えて
本事業を通じて良かった点

平成19年度 じどうかん 2007 夏号掲載



***内容2日目**

「那覇の街でフィールドワーク」

- 子どもの視点で街を歩いてみよう
と街中にあるトラップ(危険)をシミュレーションし、学生ボランティアの協力のもと体感しました。
- NPO法人自主防犯リーダー
金城 正勝氏による「フィールドワークにあたっての注意点」
- なぜフィールドワークが必要なのか?

「危険な場所、危ない犯罪がおきそうな場所」に入りやすく見えにくい」

それはどんな所なのかという事を、体験を通して学ぶ。そういう事をすることに比べて子どもの自己解決能力を高めていく一つの役割になると思います。今の時代いかにも不審者という人は一人もいない。「普通に

見える人が罪を犯す」「子ども達に手をかける」という場合が多い。ではどうすれば良いのか?

不審者がとどまることができない環境を作っていく。

これが、安全マップを作成する一つの目的であり、理論である。そしてこれを「犯罪機会論」という。犯罪は、その人によって起こるものではなくて、犯罪がおきやすい場所です。起こるといふことを考えていた、だから犯罪がおきやすい場所を探して「ここが危ない場所」「ここは近寄つたらいけない」という事を、大人のみなさんもそうだけど「子ども自身も意識を作つてその訓練をする場所」というのが安全マップのフィールドワークだと言える。

●金城 正勝氏による、「フィールドワークを終えての解説と助言」

①いかにもここは危なそうだなという所は子ども達が好奇心をそられる場所でもある。だから「危ないから近寄つたらいけない」ということを子どもたちにきちんと教える。

②子ども達と一緒に歩くことに意味があるという事が大切。そういうことをする事によって、子ども達が住んでいる地域が分かる。子ども達も実際どこをどう通っているかを私達が知る事が大切。そしてそこが危険な場所を通ってきているのであれば、変える必要がある。

まとめとして、安全に対する訓練学習は繰り返し言うていくことが大事。毎日毎日、気付いて学ぶことを繰り返して子ども達も大人も成長していく。毎日の繰り返しの中で、子ども達が安全に過ごす子ども達をどうやって安全に導いていくかを学ぶということが大切だと思います。

4 分科会を終えて

地域の社会事犯が相変わらず発生していることと、地域コミュニティ構築の必要度が更に高まっている現状から、前回の神戸大会に引き続き「安全」をテーマとして取り上げました。1日目は主に施設内の安全管理、2日目を地域防犯とテーマを分け、ワークショップ、フィールドワーク等で、参加意識を高めるプログラム化とし、また、沖縄の「守礼」（お客を招き、礼をつくす）を心がけました。また、会場内に、各館で取り組んだ「地域マップ」の作品の展示や防犯関係の企業の皆様にご協力いただき、絵本、グッズ等の展示コーナーも設けました。

分科会のスタッフはプレ大会からの2年間の取り組みとなり、各厚生員が協働作業を通して、連携の意義を学ぶことができたのではないかと思います。大会で培った知識、ネットワークを活かし、今後の児童館活動につなげたいものです。

金城児童館 館長 仲根 建作

5 分科会運営スタッフ

【発表者】

1日目 千葉 雅人

(東京都中野区文園児童館 東中野執務室)

2日目 嶺井 恵理子 (金城児童館)

【2日目助言者】

金城 正勝

(NPO法人 自主防犯リーダー)

・仲根 建作 ・具志堅 広子

・嶺井 恵理子 ・儀部 あずさ

(那覇市金城児童館)

・前田 保治 ・神谷 孝子

・山本 鈴佳 ・与儀 守貴

(那覇市安謝児童館)

・長若 道代 ・川満 綾乃

(那覇市古波蔵児童館)

第6分科会 記念撮影



6 参加者名簿

No	都道府県	参加者氏名	No	都道府県	参加者氏名	No	都道府県	参加者氏名
1	石川県	島村 雅則	14	沖縄県	金城 佳代	27	沖縄県	仲根 建作
2	東京都	千葉 雅人	15	沖縄県	呉屋 佑樹	28	沖縄県	具志堅 広子
3	滋賀県	藤田 秀子	16	沖縄県	伊波 桂	29	沖縄県	嶺井 恵理子
4	奈良県	古林 典子	17	沖縄県	對馬 尚子	30	沖縄県	儀部 あずさ
5	福井県	平井 信代	18	沖縄県	露木 祥子	31	沖縄県	前田 保治
6	東京都	吉永 真理	19	沖縄県	比嘉 裕美	32	沖縄県	与儀 守貴
7	沖縄県	比嘉 千代美	20	沖縄県	仲宗根 晃	33	沖縄県	神谷 孝子
8	沖縄県	知念 久美子	21	沖縄県	嘉陽田 瑠衣子	34	沖縄県	山本 鈴佳
9	沖縄県	当銘 智津子	22	沖縄県	松本 優子	35	沖縄県	長若 道代
10	沖縄県	糸数 剛	23	沖縄県	大城 廣子	36	沖縄県	川満 綾乃
11	沖縄県	當間 匠	24	石川県	酒井 正子	37	沖縄県	大城 美菜樹
12	沖縄県	花城 麻奈美	25	石川県	桜井 照美			
13	沖縄県	井上 涼子	26	沖縄県	金城 正勝			

「館長・主管課・研究者の集い」

放課後子どもプラン

放課後子どもプランがスタートしました。
子どもたちの放課後にどのような変化が起こっているのでしょうか？
全国での動きを報告しあいながら、これからの児童館・児童クラブのあり方を考えます。

①経緯
ア、平成18年度京都市学校放課後子ども育成事業検討委員会発足
○行政サイドより教育委員会、福祉事務局の教育関係者、児童館、児童クラブの関係者へ打診があった。
(国からのプラン発表前)

1 京都市における「放課後子どもプラン」

報告1 中川 一良氏より
(社団法人京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監)
児童館、児童クラブは今「なにをなすべきか」!!
—放課後子どもプランの実施をうけて—

★会場：沖縄レインボーホテル
「1日目」
基調提議「放課後子どもプラン元年—各地からの現状レポート」



ウ、平成18年12月「一元化児童館の整備に関する請願書」京都市議会にて採択
(社)京都市児童館学童連盟が市議会に請願
○子どもの放課後をどうしていくか子どもの生育、育成にとって議論することは大変重要である。

イ、平成18年5月23日
放課後子どもプラン発表
「放課後子ども教室」全小学校での実施にシフト
○放課後子どもプランの概要—放課後子ども教室と放課後児童クラブの基準だけでなく、相互に連携して各自自治体が無理のないよう小学校と放課後対策をしていく

○京都市内に170小学校があり9月1日現在107児童館が設置され100%学童放課後クラブが一元的に実施されている。16の学童保育所、学童クラブが放課後クラブを専用の小学校あき教室、校舎にプレハブを創って実施している。
○昭和50年来、京都市の子どもの放課後対策は児童館でおこなっている。一元化児童館の方針は京都市の基本方針として確定される。平成21年度までの児童館設置数値目標130。
○児童館、児童クラブ未設置地域対策のあり方をめぐっての議論が出发点である。
第1回平成18年5月24日



エ、平成19年5月 京都市放課後対策事業検討委員会発足
福祉・教育両部局、児童館・児童クラブ、教育現場(校長・PTA)で構成
オ、平成19年7月 放課後学び教室(京都版「放課後子ども教室」)発足
市内50小学校で試行実施、検証作業と今後のあり方を議論
○保護者の批判はどうか、子どもたちの反応はどうか、従来の児童館事業に対しどう影響を与えているかを総合的に判断し、平成20年以降京都市における放課後の子ども対策のあり方を議論している。

②議論のポイント

ア、放課後における子どもの居場所とは

放課後子ども教室、こどもプランは基本的に学校中心に動いているが…

○私たちの国、社会は地域の中で子どもたちが育ってきたし、地域の中で育ててきた。その流れをくんで児童館・児童クラブは活動してきた。地域の中で子どもたちをしつかり支え支援する観点を調整していかないといけない。

イ、放課後における子どもの活動とは

放課後でも子どもを勉強でしぼるのか…

○10%うつ病の傾向が小学校の4年生から中学生の間にみられるという…



子どもたちはどこで育つのか何を通じて育つのか、あそびを通じて健全育成の議論をしつかり考え直す必要がある。

ウ、放課後子ども教室と児童館・児童クラブ

活動内容・関係・問題は…

○一つ一つの事業の持つコンテンス専門性を一つ一つ立てていかなければならない。

○一つの事業が始まったときに他の事業がもう必要ないと安易なほうへ流れていくのは危険である

2 児童館・児童クラブのなすべきこと

議論を契機に自分達の活動を見直した。児童館・児童クラブの積極性を活かした形に再度、構築する必要がある…

①子どもの安全確保の取組

子どもを地域に！アクションプランを！

②次世代育成支援の活動

世代間交流・自然体験・社会体験

③国の少子化対策への呼応

子育て支援事業・中高生と赤ちゃん交流事業等

④児童虐待へのコミットメント

予防的取組・相談、対応窓口など



報告II

柳澤 邦夫氏より

(栃木県教育委員会事務局河内教育事務所 副主幹兼ふれあい学習課長)

子どもたちの放課後を豊かにしたい

1 栃木県の児童館・児童クラブの現状

■児童館施設の転用、廃止、閉館

○老人福祉施設等にしていく、拠点総合福祉センターの中に児童館を造り小さな児童館をなくしていく、合併自治体で動きがある。

■児童クラブの分割問題、指導員と保護者の関係

○大規模児童クラブ指導員と保護者間にトラブル、苦情がここ1、2年多い。

○指導員の力量問われる。

2 児童館の民間委託・県立大型児童館の機能と運営

■指定管理者制度と児童館

○館長募集に職歴問わない、キャリア有りと無しの児童厚生員の給料同じに疑問。

■大型児童館は(今、ネーミングライツ5年契約 年2000万以上)で1社(住宅会社)が手をあげている。

■大型児童館県内児童館のリーダーシップ(年一度の児童館まつり・児童館フェア)

○県内児童館をとりまとめお互いの資質を高めていく役割があるが縮小している。

3 放課後子どもプランと児童館・児童クラブ

■放課後子ども教室の広まりと問題点

○県内30小学校で実施。

○推進しているが学校はなかなかあき教室を貸してくれない。

○ボランティア、指導員、学習指導員を束ねるコーディネーターが見つからない。



■児童クラブと放課後子ども教室との関係

○児童館とは、児童クラブとは、放課後子ども教室とは何なのか、違いは何か、地域の大人たち、保護者たちが理解できていないのが問題。

○教育委員会の生涯スポーツで子どもたちにスポーツ、楽しい遊び、習い事ができる地域スポーツクラブを進めており、子どもはそれで放課後と夕方は間に合っている。
そこでの取り合いで放課後子ども教室や児童クラブとの問題がおきている。



4 児童厚生員・児童指導員の資質と館長のマネジメント

■児童厚生員に求められる資質は何か
○安易な方法で済ませようとするとものに、今こそプロ意識を向けないといけない。

■館長の児童館経営に求められるものは何か
○子どもをどうするのか、児童館、児童クラブの目的は何か、考えて経営する大切な時期である。

5 児童館・児童クラブの安心・安全

■安心安全が第一に求められる児童館・児童クラブ
○背景に子どもが犠牲になる事件が多発し登下校時大人の見守り

が鉄則になっており子どもたちが自由にあそぶ場や時間がなくなっている。

■遊具の安全、事故防止（公園の遊具撤去 3400台年）
○大人たちが第一に安全かどうか問う。

○施設安全管理の背景にある問題と、遊具の安全ハードの面、事故防止も問われる。

質問コーナー

問 児童館施設の転用、廃止、閉館にいたるまでに議論があったか

答 町の小学校区にある4児童館を1児童館にまとめる動きがあった。

事前には町の声聞くこともなかったが議会で決まったとの報告に町の人は納得する。

●2小学校の校長より放課後は我が校の子どもたちが児童館を利用しているからとストップをかけた。2館は今も利用し2館は閉じた。（いずれは閉館になる）

●役所採用職員がいる児童館サイドの声がたりなかった。

問 放課後子どもプランの本質を理解するために「居場所とは」をどうとらえるかが大切だが「居場所とは」どうとらえていますか

答 専門的な観点からつきつめて使ったのではなく、学校が終わってか

ら子どもたちはどこですぐすと抗議の意味をこめて使った

問 柳澤先生が児童厚生員、児童指導員に求められる資質は何か
答 豊かな人間性をもった方が求められている。

問 柳澤先生が館長の児童館経営に求められるものは何か

答 館長は児童館の運営責任者として経営マネジメントができることを求める。

フリートークセッションI

現場・行政・研究者が4グループに分かれ自由な情報・意見交換が行われる。

「2日目」

★会場：パレット市民劇場

メディアフラッシュ「放課後子どもプランについて」

NHKドキュメンタリーTVを見ました。

フリートークセッションII

1日目の情報を積み上げ、メディアアフラッシュの感想ももちろみ4グループで活発に話し合いが行われる。

まとめ

「放課後子どもプラン」について、それぞれ自治体での取組み方、方法、現在の動きが様々である。この2日間何かのまとめ、結論ではなく、基調提議より「放課後子どもプラン」のバックグラウンドとなる多くの材料を得、それをもとに参加者一人一人が熱心に話し合いそれぞれの考えを深めていくことができた。

分科会運営スタッフ

【幹事】

高良 麗子

(沖縄県)

【受付・事務局】

新垣 明美

(沖縄県)

【受付】

新垣 明美

(沖縄県)

瀬名波 幹雄

(沖縄県)

【記録】

宮里 慶子

(沖縄県)

田崎 オリエ

(沖縄県)

【司会進行】

田谷 久恵

(兵庫県)

大角 玲子

(兵庫県)

【全体サポート】

野中 賢治

(東京都)

参加者名簿

No	都道府県	参加者氏名
26	沖縄県	大宜見 文子
27	沖縄県	比嘉 千代子
28	沖縄県	新城 直子
29	沖縄県	嘉手納 貴子
30	沖縄県	金城 貞雄
31	沖縄県	赤嶺 典子
32	沖縄県	金城 鶴子
33	沖縄県	喜屋武 ミサ子
34	沖縄県	読谷山 卓也
35	沖縄県	宮国 勝江
36	沖縄県	仲原 正

No	都道府県	参加者氏名
13	広島県	西村 宣子
14	長崎県	富田 満夫
15	宮崎県	西野 博之
16	宮崎県	篠原 俊尚
17	沖縄県	新城 浩一
18	沖縄県	山城 いと子
19	沖縄県	赤嶺 初枝
20	沖縄県	宮川 徹
21	沖縄県	玉城 善子
22	沖縄県	松田 ミサ子
23	沖縄県	野村 和美
24	沖縄県	儀間 久子
25	沖縄県	當間 眞榮

No	都道府県	参加者氏名
1	北海道	倉住 敏子
2	岩手県	吉成 信夫
3	福島県	立柳 聡
4	栃木県	柳澤 邦夫 発題・事例報告
5	埼玉県	松田 鉄蔵
6	滋賀県	浦谷 ふみ子
7	京都府	中川 一良 発題・事例報告
8	京都府	飯吉 昌子
9	京都府	國重 晴彦
10	兵庫県	向井 真千子
11	兵庫県	井村 佐知子
12	兵庫県	古田 説子



ぬち たから
「命どう宝」 —いのちこそたから—

～ずっーとつなげたい

大切な命 未来を担う子どもたちへ～

未来を担う子ども達へ、命の大切さをどう伝えていけばいいのか？
今、児童館にできること、あなたができること……一緒に考えて
みませんか！！

1 進行の概要

《1日目》
実践発表

← 創作大型紙芝居実演

← 質疑応答

← 助言・講評

《2日目》

← パレット久茂地からバスで
西原東児童館へ移動

← 周辺散策

← 情報交換

← まとめ

2 内容

《1日目》

1、パワーポイントによる実践
発表

● 紙芝居製作までの経緯

● 戦後60年平和を考える

- 沖縄戦に関しての理解不足や
関心の薄さを厚生員が感じる
- 厚生員が沖縄戦について学習
(戦時記録から町内の戦没者
が約47%だったことを始めて
知る)

← 悲慘な歴史を子ども達に伝え・平和
と命の尊さを一緒に考える

← 大型紙芝居「さわふじの木の下で」
製作開始

- 事前学習、平和学習会（講演
会・沖縄県平和祈念資料館・
対馬丸記念館など）
- 厚生員が脚本と下絵を行い、
各児童館の児童や保護者で貼
り絵をする。
- 紙芝居を知ってもらうため小
学校を中心に読み聞かせ会を
行う

← 紙芝居に、はじめ問題や思いやりの
内容を加える

- 事前学習として人権に関する
講演会や赤ちゃんに触れ合い
交流会

← 命どう宝 —いのちこそたから—
命を大切にし思いやりの芽を育む

2、紙芝居実演

● 町内の児童館を代表して西原東児
童館の児童5名が紙芝居の実演を行
う



3、質疑応答

質疑

子どもたちが紙芝居を実演すると
決まった際の応募方法の仕方と、戦
争の話聞いた後の子ども達への
フォローは、どのようにしたのか教
えて下さい

応答

ポスターで読み手を募集したが、
なかなか集まらなかった。しかし、
厚生員側の声かけにより、たくさん
集まってきた。

フォロー面の対処として、子ども
達の中には、恐いから聞きたくない
と言う感想を述べていた子どもいま

したが、講演の後には「みんなは、お父さん・お母さんに守られていて平和な毎日を過ごしているんだよ。」としつかり児童館で対処し、安心させて帰宅させるように心かけた。

質疑

今後地域の人材を活用し活動内容工夫していきたい、ということですが、

今回の取り組みの中で、地域人材活用の面から、ここがキーワードになっていると思っている部分があれば教えてください。

応答

人材の活用においては、今回、各小学校にある「読み聞かせサークル」と連携し、サークルの時間を頂いて紙芝居の読み聞かせをしました。

その中で、お母さん方も一緒に話を聞いてくれたり、協力するなど、活動に広がりがありました。また、これをきっかけにして、児童館での活動のピーアールにもなるのではないかと思います。

感想

平和を考えるとところから、赤ちゃんとの触れ合いを通して繋がっていたり、地域の人たちの声を子どもたちに届けたりして、平和を考えることに広げていくことも素晴らしい事だと思いました。

感想

各児童館を転勤する中で感じる事

ですが、同じ県内でありながらも、子ども達が平和に対する気持ちに温度差を感じます。しかし、その原因は伝える大人たちの姿勢で生じていくのでは思うことがあります。

現在勤めている児童館は、被爆地に近いことから、年に1回、各児童館・小学校・地域で行われるような平和記念会でも、地域の方から当時の話を聞くことで、子どもたちが命の尊さ・平和の大切さを身近に感じることができています。また慰霊祭では子ども達が地域の人たちと一緒に参加し、新たに平和を考えていく日として取り組んでいます。住んでいる場所や地域によつては、子どもたちの平和に対する受け止め方も変わりますが、温度差があったとしてもそれを語り継いで行く事は大切である事を感じています。

この紙芝居を見て、今後は私達から言って聞かせるのではなく、子どもたちの言葉で伝え、一緒に作り取り組んでみたいですね。

3 まとめ 講師からの助言

沖縄は、本土からかなりの距離がある県で、気候的には唯一の亜熱帯県であります。そして、歴史的にも昔から中国を始め東南アジアとの交易があり文化も芸能も色々変わったところがあります。

また、今日のテーマになった戦争という悲惨な経験もしており、今でも苦しみ完全に晴れてはおりません。



この「命どう宝」は、みなさんもお聞きになったことがあるとは思いますが、悲惨な戦争の背景から、沖縄のキーワードとして、命こそ宝だという意味で方言では、「ぬちどうたから」と言います。62年前の悲惨な戦争で、広島も原爆という被害をうけましたが、沖縄だからこそ命を大事にしようということ、発信すべき言葉だという風に思います。

■西原町3児童館の取り組み 講評

沖縄での悲惨な戦争から命の尊さ、平和や大切さ ありがたさを子ども達に伝えるために、地域の歴史や文化財を題材に それを紙芝居製作という子ども達に一番身近な教材に着目したのは、良かったと思います。

当時の西原町は、約1万人の人口でしたが、半分近くの人が、亡くなり一家全滅の家族も多いのです。ねらいを読むと、悲惨な歴史を子どもたちに伝え、平和の尊さを一緒に考える事を設定して公民館、図書館で町史資料の収集をしたりして、いろいろな調査研究をしております先生が書いた絵本「つるちゃん」を活用したり、その主人公つるちゃんから戦時中の話を聞いたり、対馬丸記念館や平和祈念資料館への社会見学等を行って 構想をまとめ上げた成果はよかったです。

そして、命の大切さから始まって、いじめ問題や、感謝する、思いやる事など「今、何が大切なのか」を伝えていくところに意味があると思います。

今、「集団自決」に関する教科書記述問題があり沖縄では、大きな騒ぎが起こっています。

これまで、主に高校の教科書では、住民が殺しあった事実には、軍の命令・関与が、あつたとしていました。文部省はこの部分を削つてしまったのです。沖縄の人として、真実を伝えていかなければ この事実、消えてなくなってしまう。

沖縄だからこそ平和でありたい、戦争は二度と再びあつてはいけないと、糸満市にある「平和の礎」には、約20万人の死者の名前が彫られ 毎日のようにお年寄りが自分の家族の字をさすりながら涙を流している光景がみられます。

しかし、いつの間にかそんな気持ちも風化し、何事もなかったかのような気持ちにならないよう、小さい頃から仲良くする・思いやりを持つて助け合う、という気持ちを植えつけることが大切です。世界中の人々があたたかい心・思いやりの心・感謝の心を持ち続ける事で、いじめの問題に繋がりに、そこから戦争をなくすことが出来るのではないかと考えています。

《2日目》

①パレット久茂地前へバスにて西原東児童館へ移動

●三線の音色にのせ、方言講座をしたり、この日のために練習した厚生員が民謡を披露した。また、路上からみえる沖繩らしい風景の説明や、沖繩戦の激戦地の説明などを行う。

②周辺散策

- 樹齢470年の「さわふじの木」は、7月中旬の夜から明け方に咲く花だが、今回は時期が外れているにも関わらず、花を少しだけ見る事が出来た。
- 赤瓦屋根の家や、屋根の上のシーサーに興味深々だった。
- 近くの公園には鳥居があり、柱には艦砲射撃された跡が残っていたので、その説明を聞いた参加者は戦争の重さを感じていた。



- 館内では、紙芝居製作にあたり、活動のパネル展示や、参考資料、西原町戦時記録などを展示をした。また、県民大会の内容が掲載された新聞も展示したことで県外の方も関心をもっていった。
- ④モニユメント披露
 - 1日目に皆さんに協力して頂いた折鶴の完成モニユメントを披露。四葉のクローバーを形どったモニユメントは各々*黄色↓平和*ピンク↓思いやり *緑↓命どう宝 *オレンジ↓友情の思いが込められており、黄色・ピンク・緑は町内の児童や保護者が心を込めて折りました。今回は、大会のテーマカラーでもある、全国の厚生員と友情の証として「オレンジ」の鶴を折ってもらった。
- ⑤情報交換会
 - 現在、学童クラブでは、障がい児6人を含めた57人が在籍しており、学童や一般来館の子ども達が一緒に過ごしており、その成果、互いに溶け合っていることはすごく良い事だと感じています。
 - 健康児からは、「何であの子はあなの？」と聞かれたりした時には、「みんな違ってみんないい、個性表現の仕方なんだよ」と尊重していきたいです。

情報交換

私達の児童館は母子寮と保育所が併設された、母子生活支援センターがあり近年その施設を利用してはいる子ども達の中には、DVの被害者がたくさん入ってきたりと、子ども達の心のケアがすごく問題になっていきます。お父さんの暴力を間違ったりにしている場面を見てきた子ども達は、なかなか心を開いてくれないかったり、本当は甘えたいのに自分から言い出せないでいます。その心を少しでも開いてもらえるように長い眼で見ながら今、一生懸命に取り組んでいるところです。

子ども達の命を守りたい、幸せであって欲しいと願っているのですが、子ども達に



とっては、お父さんが暴力をふるっている姿を見るといふ事はとても悲しい残念なことです。

情報交換

以前、大阪府は公立の児童館が10館あったのですが、市の財政難から、昨年6月に廃止になりました。現在は、ボランティアを集めて、建物を持たない児童館を作り、公園内の広場で遊びの活動をしたり、児童館が事務局になり子育てネットワークを行っています。大阪府は273の小



学校があり、現在は放課後の時間、各学校の空教室を利用し「子ども生き生き活動」を行っています。児童館は、人と人とを繋ぐ役割、メーター的な部分を地域で強く繋ぐ、という事を進めていかないと乗り切っていくことは難しいと強く感じています。

昨日の大型紙芝居を見て感じたことですが、紙芝居の小型版を作り、全国の児童館に配って感想をもらったり、ブログ等で発信できるような工夫をしてみたらどうかと思います。また、集団自決を巡る教科書問題に関しても、あれだけの人が集結した県内で、大きく取り挙げていても、

県外では無関心だったり、意識のズレがあると感じます。それも含めて、ここ沖縄から発信することが出来れば、この分科会を取り組んだ成果があるのではないかと思います。

4 分科会を終えて

〜第8分科会責任者より〜

8分科会は命の大切さという深いテーマと、沖縄ならではの内容だけでなく、伝えたいことがいっぱいあり、会議に入るとなかなか話がまとまらなかつたりと、何度も話し合いを重ねようやくまとめることが出来たのは大会ギリギリになってのことでした。

「命どう宝」の思いが参加者の心にどれだけ伝わったかはわかりませんが、私達スタッフは沖縄人（ウチナーンチュ）として、児童厚生員として全力投球できたと思っています。今後は、この紙芝居を中心として全国に発信していくための工夫や地域にどれだけ浸透させていけるかが課題になってくるので、気持ち冷めやらないうちに次へのアクションを考えたいと思います。最後にこの貴重な体験をさせていただき大会関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

5 分科会運営スタッフ

【幹事】

中園 典子 (那覇市識名児童館)

【司会】

鈴木 さちよ (那覇市識名児童館)

奥浜 ゆかり (那覇市久場川児童館)

【発表】

西原町3児童館

新川 千都世 (西原町西原児童館)

与那嶺 千枝美 (西原町西原児童館)

平良 美佐江 (西原町西原児童館)

佐久田 明奈 (西原町西原東児童館)

東江 すが子 (西原町坂田児童館)

知念 季哉 (西原町坂田児童館)

中村 史枝 (西原町坂田児童館)

【記録】

神谷 陽子 (那覇市識名児童館)

伊波 藤子 (那覇市久場川児童館)

【受付】

真境名 幸子 (那覇久場川児童館)

富原 綾乃 (那覇市識名児童館)

【助言】

垣花 武信 (西原町教育委員会教育長)

第8分科会 記念撮影



No	都道府県	参加者氏名
1	青森県	藤田 眞理
2	青森県	小山内 恵子
3	青森県	佐藤 早苗
4	青森県	福原 節美
5	東京都	鈴木 すみ代
6	東京都	石井 妙子
7	東京都	服部 淳子
8	東京都	坂内 八重子
9	東京都	兵頭 正之
10	東京都	石井 理予
11	東京都	鎌田 章子
12	千葉県	渡邊 芳夫
13	石川県	野口 俊美
14	三重県	堀本 浩史
15	大阪府	出水 敦美
16	兵庫県	高谷 史路
17	兵庫県	宗森 忍
18	兵庫県	池本 貴子
19	京都府	伊川 かおる
20	京都府	西尾 久美

No	都道府県	参加者氏名
21	京都府	丸岡 敦子
22	京都府	松本 紀子
23	京都府	波多野 里美
24	滋賀県	村田 佳代
25	滋賀県	西川 洋子
26	奈良県	伊豫 正展
27	奈良県	東浦 宏美
28	広島県	山野 節子
29	広島県	寺山 ルミ子
30	愛媛県	高辻 理恵
31	愛媛県	打越 美花
32	高知県	泉 美千代
33	佐賀県	横尾 淳子
34	長崎県	富田 眞子
35	鹿児島県	向井 好恵
36	沖縄県	上間 佐千子
37	沖縄県	花城 里枝
38	沖縄県	比嘉 千代子
39	沖縄県	渡 美奈子
40	沖縄県	仲村 幸子

No	都道府県	参加者氏名
41	沖縄県	玉那覇 嘉代子
42	沖縄県	高安 亜紀
43	沖縄県	當間 泉
44	沖縄県	入仲本 智代
45	沖縄県	中村 史枝
46	沖縄県	新川 千都世
47	沖縄県	与那嶺 千枝美
48	沖縄県	平良 美佐江
49	沖縄県	佐久田 明奈
50	沖縄県	東江 すが子
51	沖縄県	知念 季哉
52	沖縄県	中園 典子
53	沖縄県	鈴木 さちよ
54	沖縄県	神谷 陽子
55	沖縄県	富原 綾乃
56	沖縄県	真鏡名 幸子
57	沖縄県	奥浜 ゆかり
58	沖縄県	伊波 藤子

6 参加者名簿



プレイイベント ★あそびに コンビニ★



第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会の

あそびにコンビニはじまるよ〜!! プレイイベントとして★あそびに コンビニ★が行われました。



オープニング♪



ベーゴマ!!!



製作コーナー



フォトフレーム作り

☆あそびに コンビニ☆ 参加ブースリスト

参加ブース団体名	内 容
東京都 あそボラ☆スキッツ	即興お芝居『来場者と作る即興演劇』
東京都 文園児童館	工作・伝承遊び (なりきりキャップ・どんぐり人形)
札幌市児童会館	折り紙工作 (3枚ゴマ・雪だるま等)
京都市児童館	バルーンアート
神戸市児童館	児童館工作キットの配布・作り方の指導
えひめ子どもの城『やっちゃんけん』	色々などんぐり遊び
石川県 中央児童会館	工作 (フィルムケースで作る笛)
青森県 高岩児童館	麻ひもで作る ビーズストラップ・ミサンガ
広島県 舟入児童館	どんぐりで遊ぼう!
財団法人 こども未来財団	子育てに関するモニター上映
那覇市 大名児童館	ゲームコーナー『キャップつみゲーム』
那覇市 古波蔵児童館(母親クラブ共催)	簡単クラフト 『シーサークリップ・むしむし君』
那覇市 久茂地児童館(母親クラブ共催)	魚釣りゲーム ネイチャークラフト
那覇市 小禄児童館	ピエロパフォーマンス
南部地区児童館連絡会	アダンのおもちゃ作り 四竹作り
北中城村 島袋児童館	魚釣りゲーム
沖縄市社会福祉プラザセンター	手作りストラップと“しおり作り”
みらい子育てネット 沖縄県地域活動連絡協議会	スライムづくり 活動内容のパネル展示
浦添市内児童センター	おしゃれコーナー 『ネイルアート・フェイスペイント』
浦添市内児童センター	おきなわ工作コーナー 『パーランクー作り』
浦添市内児童センター	昔あそびコーナー
浦添市内児童センター	パーランクー・三線体験コーナー
浦添市内児童センター	おきなわ工作コーナー 『美らフォトフレーム作り』



たくさん覚えたヨ!



いくつ積み上げられたかなあ?



あんたがたどこさっ!



ミニミニ★トロ

★初めて見たあ!



どれにしようかな~

お姫様に変身☆★



フェイスペイント



ダンボールで
パーランクー作り



自分だけのパーランクー
作ったヨ!



フォトフレーム作り



おしゃれコーナー



グルクン釣れるかなあ?...



自然の葉っぱでオモチャ作り

<☆あそびに コンビニ☆運営スタッフ>

◎若草児童センター◎

松田 ミサ子
具志堅 元
花城里 枝
仲真 夕貴

◎内間児童センター◎

儀間 久子
大城 典子
安田 龍生
伊是名 愛

◎西原児童センター◎

新城 直子
伊波 桂
露木 祥子
對馬 尚子

◎経塚児童センター◎

糸数 剛
佐久川 和美
仲村 紋野
新垣 尚子

◎宮城ヶ原児童センター◎

比嘉 千代子
渡 美奈子
前里 美香子
角山 隆子

◎まちなと児童センター◎

大宜見 文子
新田 まゆみ
高安 亜紀
宮里 匠

◎浦城っ子児童センター◎

安里 春美
宮城 寛之
吉田 奈緒
伊計 里美

◎森の子児童センター◎

宮城 広美
玉那覇 嘉代子
當間 匠
大城 憲一郎

◎うらそえくすく児童センター◎

野村 和美
池田 千鶴
宮城 光子
玉寄 紗貴



沖縄県児童館連絡協議会 会長 新城 浩一

ございました。第1分科会の「目指せ!! 五つ星」、第2分科会の「児童館と地域の協働を図る情報発信」、第3分科会の「子育て支援ネットワークをどう築くのか」、第4分科会の「いきいきとした放課後を支える児童クラブとは?」、第5分科会での「みんなで語り合おう!!」、第6分科会の「安全」の地域連携とリスクマネジメントを考える」、第7分科会の「館長・主

管課・研究者の集い」、第8分科会の「命どう宝(いのちこそたから)ずくっと つなげたい大切な命」と、各分科会テーマを掲げ、熱心に研究協議が行われました。

昨日、講演会でありました「地域発 感動体験夢舞台」ということで、平田大一さんが「人づくりの種をま

く」というテーマで、日頃から地域で実践している体験事例を語っていただきました。実践事例は、私も沖縄大会のテーマであります「くまじゅん 育ていら 未来の宝く(みんなで 育てよう 未来の宝)」に沿って、時宜を捉えた内容としてふさわしく、聴衆の胸を揺さぶる語り部として演じていただきました。

「地域発 感動体験夢舞台」の場面で発表された実践内容を、この沖縄大会でしっかりと受け取っていただいで、地域の児童館、児童クラブ、あるいはそれぞれにかかわっている行政の方々、研究者の方々が大会を通じて得られた知識、情報等を持ち帰り、是非、次回の大会までにはしっかりと根をおろし、沖縄大会で得られた心の体験というものをそれぞれの地域で取組み実現をめざしていただきたいと思います。

ただいまから、第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会の閉会式を始めさせていただきます。よろしくお願いたします。

皆さん こんにちは! 二日間の日程、大変お疲れ様でございました。私ども沖縄大会ということで、実行委員会を立ち上げて、この二日間のために全エネルギーを注ぎ込んできました。

昨日の閉会式から分科会、8分科会



沖縄大会企画担当 大山真紀



皆さんこんにちは。沖縄大会はとうでしたか。

(拍手)

ありがとうございます。今回の沖縄大会を開催するにあたり、いろんなことがありました。まず、石川大会での沖縄コールから始まり、そこでぜひ沖縄で大会をやりたいという気持ちになり、それからみんなへ大会を知ってもらわなくてはと思い、東京大会へはたくさん

仲間を誘い参加しました。そして神戸大会へもさらにたくさん仲間を誘い、一緒に沖縄大会を成功させようと気持ちを一つに盛り上げてきました。

沖縄に帰り実行委員会を立ち上げ、実行委員会を重ねていく中でいろいろな壁にぶつかり、それを乗り越え、乗り越えたらまた新しい壁が出て、というふうに、どんどんどんどんいろんなことがありましたが、みんなの力、そして仲間たちと乗り越えていき、この沖縄大会を成功することができました。成功したかというの、ある意味自画自賛というか、自己満足という形になってしまいがちですが、一人の人間がやりたいと思ったときに、ちよつと誘ったら仲間が増え、また一人、また一人と増えていき、会場の中に大会のシンボルカラーであるオレンジがいっぱいになり、国際通りにオレンジがいっぱいとなっ

たときに、これが大会成功なんだなと実感しました。

この仲間みんなで支え合い、作り上げた沖縄大会、みんなへのありがとうという気持ちを込めて最後まで、やっぱりみんなと一緒に踊りたいと思います。

(踊り)

さきほど、ありがとうございますという気持ちを実行委員会だけに向けましたが、皆さんの笑顔を見ると、参加して下さった皆さんと一緒に成功させた沖縄大会ということに改めて実感しました。本大会に参加していただき、皆さんに盛りあげていただいたこと、本当にありがとうございました。

では最後に、沖縄県を代表しまして、沖縄大会実行委員長 平良秀子より、お礼の言葉をお願いします。



沖縄大会実行委員長 平良秀子



どうでしたか、沖縄大会。

(拍手)

ありがとうございます。ゴーヤーチャンプルー食べましたか。ラフテーも食べましたか。沖縄そばはどうでしたか。

私達は、組織づくりから始めて、得意分野を發揮し、この大会に臨みました。大会までの3日間、私達のスタッフは洪水のような忙しい日が続きました。

でも、小さなストレスは人を成長させます。私達はたくさん成長しました。分科会を發表してきた児童館はさらに大きく成長したと思います。岩手県も大きく成長してほしいなと思って、バトンタッチをしています。それに、この大会は大変ではありません。楽しいのです。喜びをバトンタッチしたいのです。

もう一つ報告したいなと思うことがあります。心を残しながらも参加できなかった仲間がいます。いろんな都合で参加できなかった方々、短期雇用で、去年プレ大会で頑張ったのに、今年は別の職場に行つて参加できなかった人、この職場の短期雇用をどうにかならないかとか、「専門性」というのも私達はクリアしないといけない課題が多くあることと思います。別な機会に議論します。

次に涙なしには読めなかつた一つ

の新聞記事を皆さんに紹介したいと思います。

沖縄の方はほとんどの方が見たと思いますけれど、「悲しみ遺族誇り。怖さ熟知、助けたい一心で荒波に」の見出しです。私たちの仲間で、亡くなった方がいるんです。これは北谷町役場の豊里さんで、この記事はたくさんの方が覚えていらっしゃると思います。昨日の交流会で楽しいPRビデオを見たと思います。その製作からずっとかかわってきて、皆さんに「沖縄に来て」というブログにずっと彼はかかわっていました。ホームページも助けてくださり、そして、実は交流会にも彼はビデオ担当で参加することになっていて、今日の速報の写真を見ましたか。素敵でしたね。北谷町役場の情報政策課の木本さんも頑張つて下さって、彼が「豊里がベースを作つたから、二人三脚でやった」と言っていました。

その豊里さんの四十九日の法事が昨日あったことを皆さんに報告します。昨日から大会に参加して、確かに「彼は参加している」と、その風を感じた人がたくさんいると思います。なぜなら、雨のはずの天気が晴れてくれて、皆さんの行動がスムーズにいき、会場移動もできて、それ

から遊びにコンビニもたくさんの方が来てくれて、「ああ、豊里さんが参加しているんだ」という思いをした方がいっぱいいたということ報告したくて、この時間を取ってもらいました。

私達はこの大会でたくさん育ちました。それから、一人ひとりの思いが大会を成功させたと思います。そして、私達にこの機会を与えて下さった財団の皆様へ感謝し、終わりの言葉にします。

本当にありがとうございます。



岩手県立児童館 いわて子どもの森館長 吉成信夫



皆さん、どうもお疲れ様でした。昨日のエイサーに始まって、平田さんの講演で私はほとんどぼろぼろ泣き状態で、その感動で昨日の分科会ではほとんど話ができませんでしたというくらいでありました。この二日間を通して、私は児童館の館長さんや行政の方々の分科会に出ました。みんなが本音で話しきることができたという感じがしました。

いま児童館が置かれている位置、

私達のこれからの役割というものが何なのかということ、本当に今ちゃんと考えて次へ向かわないと、仲間内だけの交流大会だけではないという流れをちゃんと引き継いでいかなければいけないというふうにも強く思いました。

2年後にまた皆さんとお会いするときに、どういうこの2年間の私達の動きができたのか。児童館だけではなくて、地域の中にあるいろいろな施設、子育てに関連した人達、それから行政も含めて、どういう関係を私達は根っこに作ることもできたのかということ、ぜひ話し合えるようになりたいと思います。

子どもに関わる私達は根っこを張りながらこれからやっていく。それは学校とはちよつと違いますよね。私は学校とはまったく違う健全育成の軸というものを私達もつともつと、実践を通して語って、社会に対してもつなげていくということ、2年後に、岩手でやりたいなと思つていきます。

昨日ちよつとふざけてというわけではないですけども、宮沢賢治さんのことを申し上げました。

宮沢賢治さんということ、次のテーマに掲げようと思つていてですけどね。誰の許可もないんですけど、私は「やるぞ」とこう思つています。賢治さんは、文学者であり、詩人であり、童話作家だというところが文学史の中でされていますけれども、私は残された作品だけが大切ではない。私が好きなのは賢治さんの生き方そのものなんです。彼はずっと行動し続けた人です。自分に正直に。子ども達を育てようと思つた人です。子どもの中の無限の未来、今大会のテーマになったこの宝があるということをよく分かつている人でした。それが成長する途中で、つぶされていくということもよく分かつていた。私は、賢治さんが見つめた「自然

の象徴」を子どもというふうに捉えたいと思います。子どもは自然そのものです。私達は、子どもからエネルギーをもらいながら、児童館職員をやっているわけです。こういうものを大事にした次の大会へ、沖繩の皆さんが支えてくれたものを何としても次回に引き継ぎたいと思います。さつき実行委員長から小声で言われました。「吉成さん、楽しくね楽しくな」って。これもぜひ受け継ぎたいなと思つていきます。また、2年後にお会いしましょう。ありがとうございました。



スタッフ一同の 活動スナップ集







交流会 in 沖縄

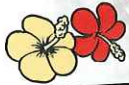
総勢270人の仲間が国際通り“那覇てんぷす館”に大集結!!

うちな~カラー炸裂の熱い交流会で歌たい♪も~たい♪



交流会 プログラム

1. オープニング “わった~しんかの三線隊”
2. 歓迎の挨拶・来賓挨拶・乾杯
3. アイスブレイキング “最初はシーサー”
4. アトラクションタイム “チャレンジャー&ワラビンジャー”
“みんなでワイチャー” “おばあの方言&かちゃーしー講座”
5. エンディング……次回開催地は？



みなさま、高らかに乾杯!



乾杯



歓迎



うちな~メドレー♪



三線隊で幕明け!!

うまくひけますように..



さあ歌って踊って♪



ゴーヤーちゃんぽる~



せいの、最初はシーサー!!

ゲッたねー

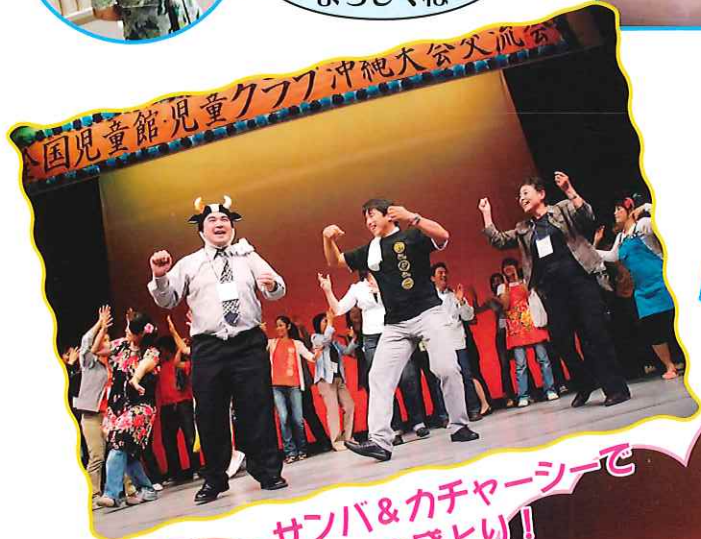


ちんすこうギフト!

出動よ



テレポーター
よろしくね



サンバ&カチャーシーで
大盛り！



おばあ
の暴走よ〜



マキーネ登場！

次回は
岩手へきてね〜！

みんなで
記念撮影で〜す！



岩手県のみなさん、次回？



でりしゃすうよ〜



リレーエッセイ

おでんせ・いわてへ!

岩手県立児童館 いわての子ども森 高梁 功

南国の国沖縄から一変。極寒の国いわてから一言ご挨拶を申し上げます。

沖縄では大変お世話になりました。そして大会の大成功おめでとうございます。お疲れさまでした。

あの温かい歓迎、講演の迫力と感動、躍動的な沖縄のスタッフのパワーに圧倒され、次期開催のホスト役を務める我々も、大いに参考になり、かつ意欲、決意を奮い立たせる大会でした。

岩手大会に向けて、これから組織づくり、大会のテーマ・内容等ひとつひとつ作り上げていかなければなりません。沖縄大会をはじめ過去7回での大会で培った実績を基に、今子どもたちが置かれている環境、立場を

踏まえ、児童館、地域など子育て子育てに携っている方全ての思い、我々が担っていかねばならない役割を全国に発信するような大会にしなければという決意を新たにされた次第です。そして、地に根を張るように

沖縄と岩手の気温の差は約15度。気温の差はありますが、大会に対する思いに温度差はありません。いわてらしさ、温かさ、そして内に秘めたパワーとおもてなしの心を持って、吉成部会長(館長)を筆頭にスタッフ一同、皆さんをあたたかくお迎えしたいと思ひます。あかるく楽しくもつとうに。

「おでんせ、いわてへ。」

第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会

参加者の声

アンケートより

★沖縄の皆さんのスーパーパーパワーに感激しました。いろいろと楽しい思い出がありありがとうございます。また来たいと思います。

★講演会はずごく良かった。心にも残るし、絶対やって良かったとおもうはず!沖縄のみなさんお疲れ様でした。ありがとうございます。

★分科会の内容を事前に送ってほしかった。

★とても沖縄らしさを感じられる内容で良かったです。密なスケジュールで大丈夫かな?とも思いましたが、かえって、とても充実した2日間だったように思います。沖縄の児童館、子どもたちがよく頑張りました。

★各地方の方との交流が分科会でした。京都でも頑張ります。

★分科会は2日に分けて1日のAM。PMのほうが良い。もしくは、1日目は講演のみが良い。

★沖縄の文化も良かった。エイサー交流会の催し物など。

★開会式の会場はもう少し広いところでも良かったのでは?

★交流会は舞台の出し物すばらしかった。食事もおいしかった。量もすごかったですね。満足!

★第5分科会でしたが助言者、ファシリテーターのおかげで良い討議ができた勉強になりました。

★交流会、大盛り上がり楽しかった。全国から来た参加した方とも交流でき良かった。

★ここまで来るのに、頑張られたスタッフの皆さん、お疲れ様でした。皆さんの努力のおかげだと感じています。

★分科会の時間がもう少しほしかったです。もっといろんな情報交換をしたかったです。

★開会式、講演もとてもよかったです。原点にかえる事をあらためて思いました。結果はすぐには出ませんが、根っこ育てを頑張らないと世間の大きな風に耐えることが出来ません。よく、わかりました。

★初日(分科会・開会式)翌日(休日)にあそびにコンビニ&閉会式交流会の日程はどうでしょうか。

★現場で生かせる内容で、楽しみながら参加することができました。あそびにコンビニでコーナリを持ちました。子どもたちや大人の楽しそう笑顔もたくさん見られ嬉しかったです。

★あそびにコンビニの時間、あと1時間ほどほしかったです。

★「沖縄へすぐ行ける」という環境ではなくキツカケを与えてくれて良かったです。大会に参加できて楽しい時間が過ぎました。記念講演は大変良かったです。ありがとうございます。

★会場は同じ場所か近くが良い、分科会の討議がもう少し煮詰める時間があれば良かった。

★記念講演は児童館外部の方から児童館の大切な視点や役割を示されてドキッとして感動しました。

★平田大一人さんの講演をポロポロ涙して聞いていました。『命』の分科会です。命を考へながら涙をこらえた2日間でした。沖縄の先生方一人ひとりの熱い

思いと暖かい気持ちを感じました。本当にありがとうございます。沖縄最高!

★分科会が消化不良の感じでした。がつり語って何かを見出すならもう少し時間を取ったほうが良いかもなりました。多少終了時間が遅くそのほうが良いかなと思います。

★交流会は厚生員でこなしていると思えないほど楽しませてもらいました。

★沖縄の皆様はとも暖かく、一人で参加しましたがすぐに話しの中に入れて他県の方とも話しができて良かったです!!各県市によって経営主体も変化してきています。これからの若い方に頑張っていることを多めにアピールして下さい。是非、沖縄の児童館の施設を見学させていただきたかったです。

★ただ一言 最高でした。

★沖縄の皆さんの熱い思いに感動しました!手作りのお土産もありありがとうございます。

★第1分科会参加者交流会とても楽しく、リラックスした気分に参加、すぐに児童館で活動してみたい。

★交流会は最高でした。開会式も感動しました!県内外のネットワークも広がり今後の仕事で連携を持つことが出来そう良かったです。

★沖縄の方のパワーを実感できとても嬉しかったです。沖縄の児童館のシステムや処遇など話しができる設定が遭っても良かったかも。

★お疲れ様でした。充実した2日でした、ありがとうございます。すべてにおいて素晴らしい感動でした。この気持ちを持続しつつ2年後ぜひ岩手で!!

★皆さんのメッセージをありがとうございます。

全国児童厚生員研究協議会(JWH)の

絵馬に願掛けコーナー！

～みんなの願い・目標～

— 祈願成就 —

- ・子どもの心のワクワク!!
大切にしたいな!
- ・児童館は子どもたちのより所!
- ・児童館に夢とロマンを!!
子どもたちに幸あれ!!

— 想いを仲間に 想いを社会へ —

- ・子どもが変われば大人も変わる……
がんばります
- ・本気で じどうかん まもっていこう!!
子どもたちの根っこのために
- ・次世代へ児童館の夢を! こどもたちの
夢を! がんばります
- ・誰でも遊べる児童館 遊びの匠が大勢い
ます。地域交流で仲良く!!

— 想いを発信!!

〇〇な厚生員になりた～い～

- ・子どもと本気であそべる大人に
なりたいつ!!
- ・未来への大きな希望を!! 夢を子ども
に語り、また大人も共に語り実践で
きますように!
- ・全国の皆さんの熱い思いが花となり
咲きつづけることを祈ります。
がんばるぞ!!

— We Wish… —

- ・地域育て 親育て 子育てー! オー
- ・子どもたちと一緒に成長したいな☆
いつでも笑顔で
- ・子どもたちにロマン～♪
- ・元気と笑顔! “命どう宝”



会員募集!!

J (児童厚生員の) W (輪を) H (広げよう)

「全国児童厚生員研究協議会」

児童厚生員等が自主的に専門性や意識を高め、その役割を広く社会に発信するための研究協議の場『全国児童厚生員大会』の主催団体です。厚生労働省や自治体、児童健全育成推進財団等と連携しながら、児童館関係者のボランティアで運営しています。

【全児研のミッション】

- ①全国大会の開催による自主的研究協議
- ②児童厚生員の専門性と社会認知の向上
- ③児童厚生員等の全国ネットワーク促進
そのために、会員個々が各地で“人”力を尽くすこと。

【会員の種別】

- ①正会員
※児童館・放課後児童クラブの職員
- ②賛助会員
※その他、この会を支援する者等

【会費】

<全国大会から全国大会までの期間>

1,000円

※会員グッズのほか、全国大会の開催経費や資料作成、文書送料などに使われます。

【入会特典】

- ①会員オリジナルグッズを差し上げます。
 - ②会員証を発行します。
 - ③次回全国大会のご案内を直送します。
 - ④指定のメールアドレスに JWH ニュースを配信します。
 - ⑤この仕事にける自らの意欲が確認できます。
- ※ただし、賛助会員の方には①と⑤の特典のみとなります。

※既会員の方も「更新」として申込書の再提出が必要です。

ぜひ『全児研』に
ご参画くださいますよう
ご案内申し上げます。

沖縄より全国へ発信!

ハッピー沖縄（広報）の報告



沖縄大会へ向け、ブログ・ホームページを開設した理由

全国の皆様に、沖縄の情報を伝えることで一人でも多くの方が沖縄大会へ関心を持ち、参加してくれることを期待しながら、県内の児童館職員とコミュニケーションを図り、大会を盛り上げていくことを目的にブログ・HPを開設しました。



ブログ報告

ブログアドレス・・・<http://zenkokuinokinawa.cocolog-nifty.com/blog/>

ブログ投稿期間・・・平成18年7月～平成20年3月

記事数・・・165件（平成20年2月現在）

記事の内容・・・沖縄大会への取り組み・県内の児童館紹介・観光名所・食べ物特集
実行委員会の様子・プレ大会・沖縄大会のテーマ投票と決定・沖縄大会の報告・その他

アクセス解析・・・累計アクセス数 29,893回
一日あたりの平均アクセス数 51.81回

ブログへのコメント chum・mayatomo・rainbow・パ付林-みわ さんをはじめとするたくさんの方のみなさん

好評だった記事・・・沖縄そばシリーズ・大会報告・児童館紹介



ホームページ報告

ホームページアドレス <http://www.chatan.jp/jidokan/happy/1/476.html>

内容・・・大会の概要・大会日程・あそびにコンビニ・記念講演・分科会
交流会・申し込み方法・お問い合わせ・大会写真集など・・・



その他の広報・・・

プレ大会・沖縄大会PRビデオ撮影

沖縄大会速報（3部）

『じどうかん冬号』の大会報告

児童館・児童クラブ・母親クラブのための情報誌

じどうかん



2007 Number 47

財団法人 児童健全育成推進財団

巻頭言

「健全育成は福祉の原点」 田中 誠 (厚生労働省育成環境課 課長)

特集

放課後児童クラブガイドラインについて



現場から ◆ 児童館

第8回 全国児童館・児童クラブ 沖縄大会レポート

実行委員会 広報担当

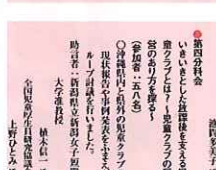
日 時：平成19年11月3日(祝土)～4日(日)
会 場：那覇市パレット市民会館ほか
開会式 那覇市パレット市民会館
大会テーマ：まじみん、育ていら 未来の宝
(みんなの力で育てよう未来の宝)
参加者数：500名
(あそびにコンビニ参加者2,000名)

あそびにコンビニ
沖縄パレット市民会館のホールには、あそびにコンビニのブースが並び、子供たちが楽しそうに遊んでいました。あそびにコンビニのブースには、子供たちが楽しめる様々なゲームや、お菓子作り体験などがありました。子供たちは、あそびにコンビニのブースで、楽しい時間を過ごすことができました。

開会式
開会式は、那覇市パレット市民会館のホールで行われました。開会式には、児童健全育成推進財団の代表者や、関係機関の代表者が参加しました。開会式では、児童健全育成推進財団の代表者が、児童健全育成の重要性について、お話をされました。開会式は、とても盛り上がりました。

記念講演
記念講演は、那覇市パレット市民会館のホールで行われました。記念講演には、児童健全育成推進財団の代表者が、児童健全育成の重要性について、お話をされました。記念講演は、とても盛り上がりました。

分科会
分科会は、那覇市パレット市民会館のホールで行われました。分科会には、児童健全育成推進財団の代表者や、関係機関の代表者が参加しました。分科会では、児童健全育成の重要性について、お話をされました。分科会は、とても盛り上がりました。

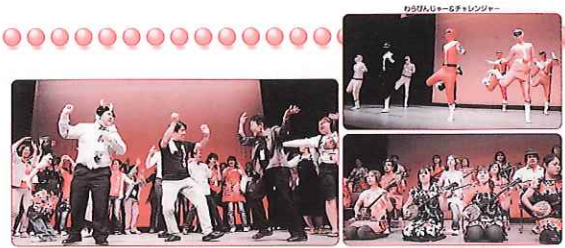


に於けること共々、全国の子どもたちが、安心して遊ぶことができるよう努力を怠りません。また、児童健全育成推進財団の代表者や、関係機関の代表者が、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。

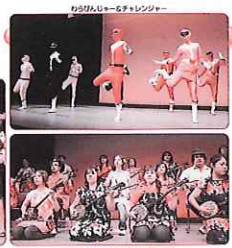
児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。

児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。

児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。児童健全育成推進財団の代表者は、児童健全育成の重要性について、お話をされました。



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



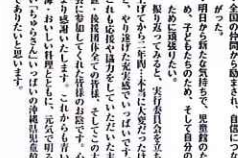
安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



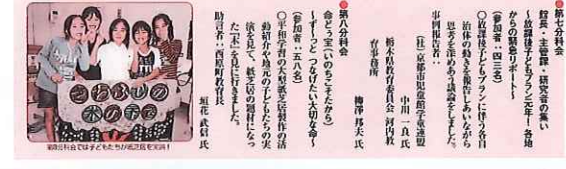
安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス



安全の確保を期してのダンス

11 じどうめん 2007 冬号

11 じどうめん 2007 冬号

2007年(平成19年)11月10日 土曜日
沖縄タイムス

第3種郵便物認可

子育て支援など報告

全国児童館・児童ク大会

「まじゅん育ていらぬ 開会式で同協議会の新
んなで育てよう」 未来の 城浩一会長は「今の子と
宝」をテーマに、県で初 もたちは生活の中で異な
となる「第八回全国児童 年齢の子と交わること
館・児童クラブ沖縄大 が少ない。決まりがあ
会」(主催・県児童館連 り、人と触れ合う中で自
絡協議会ほか)が三、四 分のことを知ることがで
の西日、那覇市久茂地の きる」と児童館の意義を
パレット市民劇場を主会 強調。「出生率も高く
場に開かれた。県内外か 子にも対する地域の見
ら約四百人の児童館職員 守りがまだ残っている沖
や関係者が参加し、厚生 縄の良さをアピールした
員の育成や子育て支援に い」と意気込んでいた。
についての研究報告、協 大会は那覇市内で「子
などで交流した。 どもの危険回避を高める



開会式では全国から約400人の児童館・クラブ職員が集まり、大会の成功を誓った。那覇市久茂地・パレット市民劇場

には「いきいきした放課後を支えること」など、それぞれテーマ別に八つの分科会を行った。



安全の確保を期してのダンス

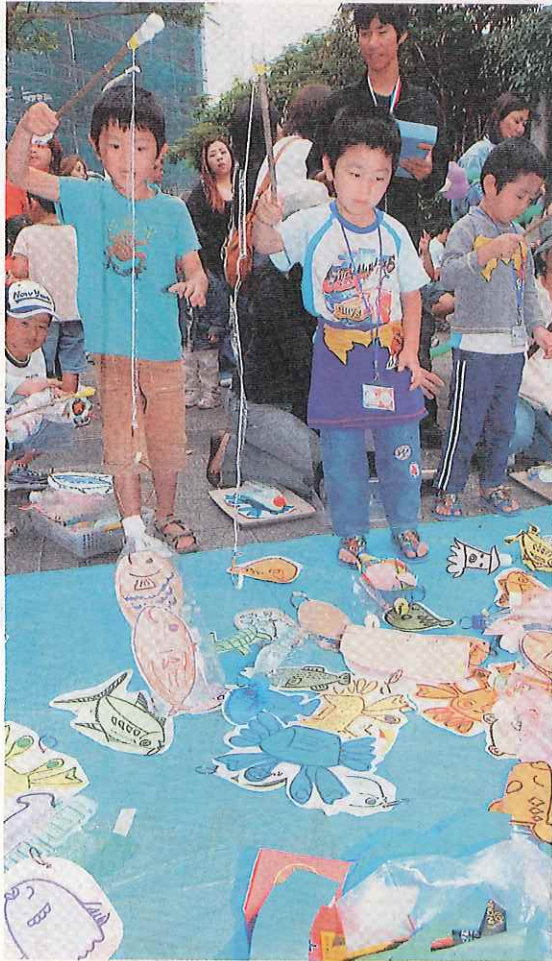
はとび
○：県民広場の関連行事。県内外の児童館や児童クラブで流行にさまさまな遊んでいる遊びや伝統芸能などを紹介するなども通じて児童館生員「あそびに」がとびももが交流した。開催された。「第八回全国児童館・児童クラブ沖縄もたちは、風船を動物な縄大会(全国児童館生員研究協議会が主催)の実を使ったおもちゃづくりなどを楽しんでいた。○：その後、全国から参加した約400人の児童館生員らがパレット市民劇場での大会で児童館や児童クラブの課題などを意見交換した。

2007年(平成19年)11月4日 日曜日
琉球新報

「外遊び」熱中

テレビゲームに漫画…同じ遊びばかりでマンネリという若者の悩みを解決するよ！ メンコやゴム段などの懐かしい遊びから、三線や太鼓など沖縄の楽器にチャレンジできる「あそびにコンビニ」(主催・県児童館連絡協議会)が、このほど県庁前の県民広場で開かれました。身近な道具を使ってワクワクドキドキ。体をいっぱい動かして外遊びを満喫しました。

マンネリ解消



「あそびにコンビニ」大人気



県民広場に「臨時開店」
 男子→記録系
 女子→芸術系

「どう？ かわいい？」ほおにペイントされて、大満足！那覇市・県民広場

魚釣りに熱中する子どもたち「あと少しで捕れるぞー、行けー」

◆ 一方、シーンと静まり返った

この日は、東京からやってきた役者の山中勝二さんと深友利さんによる劇もありました。夫婦の日常を描いた劇に幅広い年齢層のギャラリが集まり、遊びを満喫しました。

遊びのレパートリー増えたかな？ 友だちとチャレンジしてみては？

「魚釣りに熱中しているのは男の子たち。ペットボトルや段ボールに、児童館で描いた魚の絵を張り付けます。それを青のビニールシートでつくった大海原に放ちます。長めの棒にひもを巻きつけ、先にU字の針金をテープでつけたら、釣りの完成。いっぱい捕れない「捕ったどー」と歓声が上がりました。

◆ 女の子が大行列のおしゃれコーナーでは、顔に星やハート形をペイントしてもらったり、キラキラシールを張っています。つめにはマニキュアも、気分はお姫さま。ペイントしてもらった大田ゆかさん(鎌倉小3年)は、「お化粧品とかオシャレとか考えたことなかったけど、興味が出た。かわいいうれしかった」と表情がパツと明るくなりました。

◆ 沖縄の伝統芸能「琉球舞踊」で使われる「四竹」作りのコーナーにも人気。材料は、お正月の門松に使われる竹を再利用。竹にキリで穴をあけ、手芸店で売っているリリアンを通して、四竹の出来上がり。

◆ 上原百恵さん(高良小1年)は、「楽しいけど、ひもを通したり、しばるところが難しかった」と言いますが、大きく自分の名前を書いた「マイ四竹」に満足そうでした。



踊りあり、歌ありの劇にたくさんギャラリー

◆ 池原陵太くん(若狭小2年)は、「他のフースで遊んでも、やっぱりココが気になって。チャンネルの記録を更新したいからね」と静かに話します。飲み終わったペットボトルのふたを集めて手懸し遊べます。

◆ つているコーナーもあります。ペットボトルのふたを何個積み上げられるかを競う「ギャップ積みゲーム」です。一度はまると、みんな病みつきに。チャンネルの記録31個を塗り替えようと黙々と取り組みます。



合名会社 山城石油

本社／沖縄県糸満市西崎町4丁目16番地の14

☎ 098(992)3306

- サンセール潮平 糸満市字潮平772-1
- サンセール宇栄原 那覇市小禄931-3
- サンセール前田 浦添市前田1623-1
- サンセール和仁屋 北中城村和仁屋189-3

- サンセール屋富祖 浦添市屋富祖1丁目1番2号
- サンセール大山 宜野湾市大山3丁目5番5号
- サンセール大謝名 宜野湾市字宇地泊東原187
- サンセール照屋 糸満市照屋1192-1

ろうきん

教育ローン

- 仕送り ●授業料 ●入学金
- 受験費用 ●他行の教育資金の借換
- 留学費用 ●入居先の敷金・家賃など

ご利用条件

基準金利 (保証料込)	変動金利・・・年2.2%・年2.7% 固定金利・・・年2.9%・年3.4% (2007年10月1日現在の金利)
ご融資額	最高1,000万円まで(証書貸付)
お使いみち	幼稚園から大学までの 教育にかかる費用全般
ご返済期間	変動金利・・・15年以内 固定金利・・・10年以内
ご返済方法	毎月払い、毎月・ボーナス併用払い
担保・保証人	担保・保証人は原則不要 保証機関の保証(0.7%・1.2%) ※保証料率はろうきんへの加入形態により異なります。
必要書類	在学証明書・合格通知書等のお使いみちが 確認できる書類、その他必要書類

効率的な利用法

分割融資もOK

最初に全額が必要ないという方は、融資金を分割して受け取ることができます。融資サイクルは1ヶ月毎、2ヶ月毎、3ヶ月毎、6ヶ月毎、1年毎で選べます。

元金据置返済

最長5年間利息のみを返済する据置方式も選択できます。

【例】大学入学費用を借入れし、元金据置返済を利用

お申込

高校生 1年 2年 3年 4年 5年 社会人

毎月払い、また毎月とボーナスの併用払いもOK!

ご返済

毎月、利息のみ返済

利息+元金の通常返済

お子様の輝く未来を
しっかりサポート

南部戦跡めぐりの
食事とショッピングに

Rest House 優美堂

沖縄県糸満市伊原372-2
TEL (098) 997-3443
FAX (098) 997-3039

英会話教室

講師：マーク・アレシュニク

☎ 902-0077

沖縄県那覇市長田2-4-17
ライオンズガーデン長田1002号
TEL/FAX(098)836-0776



多くの協賛をいただき実り多き
沖縄大会になりました。
心から感謝を申し上げます。

ぐしちゃんいも生産組合 FamilyMart 久茂地美栄橋店 一球 沖縄総合フーズ
英会話教室（講師：マーク・アレシュニク） (株) レキオス倶楽部沖信保証サービス
（学校法人 KBC 学園） インターナショナルリゾートカレッジ セレブレンタカー 山城石油
沖縄森永乳業 優美堂 (株) 守礼堂 沖縄ゼロックス株式会社 (有) カリー観光
糸満観光農園 あげ田写真館 労働金庫 沖縄バス観光部 公文教育研究会 上原工芸
（有） ジャッキーステーキ 沖縄学校用品 (株) フラワーショップ ROSE の香 メイト沖縄
DOINNGU スポーツ BASE MIX 比嘉 正憲（弁護士事務所） 島袋 正夫（島袋外科、整形）
ぼーぼー屋かまぼこ 北谷長老酒造 HOTERU New Century 三蔵産業有限会社
ファリーヌ 西平内装 カサプランカ 聯聯（れんれん） 上間 昇 仲栄真 敦
古堅 宗 大山 朝彦 (有) 翁長商事 宮城 秀平 カラオケハウスとまと 玉那覇 清
伊野波 盛武 北谷町軍用地地主会 崎原土建 (株) 上地 栄 村松 弘子
居酒屋うろこ 北原土木 (株) 沖縄ポッカコーポレーション (有) 沖縄パイオニアフーズ
オリオンビール (株) 手作り菓子工房アトリエ・キーナ JTB 沖縄 文進印刷株式会社
キリンビール沖縄統括支社

（順不同 敬称略）

あ と が き

第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会の開催及び報告誌の作成に際しましては、多くの関係者のみなさまのご協力とご理解をいただき感謝申し上げます。

大会を開催するに当たっては前年に「全国大会を成功させよう！」とプレ大会を行いました。それまでののんびりムードが、プレ大会をきっかけに会員の意識も高まりを見せ、「皆でやることに意義がある。出来ることは率先して引き受けよう」を合い言葉に、準備を進め、本大会を迎えました。

当日の空模様は天気予報では「雨」、はらはらしながら空を眺めつつの2日間でしたが閉会式まで空も私たちに味方し「まじゅん^{すた}育ていら 未来の宝」をテーマに全国からの参加者のみなさまと一緒に学び、交流を図ることができました。

今、児童館を取り巻く環境が変化を見せている中、この大会を通して「児童館の果たす役割」について認識を新たにし、お互いの資質向上が図られたことと思います。

企画から何度も南の果てのこの地に足を運び、私たちと共に各会場間を実際に歩き、全体をイメージして運営をサポートして下さった財団の依田さまをはじめ多くの方の支えで大会が開催されましたことを心より感謝申し上げます。

2日間にわたった大会を冊子にまとめました。

今後の児童館活動に役立てていただければ幸いです。

スタッフ一同

第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会 実行委員会

スタッフ

全国児童厚生員研究協議会

会 長 千葉 雅人

(財)児童健全育成推進財団

常務理事・事務局長 鈴木 一光

沖縄スタッフ

沖縄県児童館連絡協議会 会長 新城 浩一

大会実行委員長 平良 秀子

大会事務局

平良 秀子・具志須磨子・金城由美子・赤嶺 典子・大山 真紀
比嘉 啓子・当銘智津子・玉城 善子・長若 道代・嘉手納貴子
伊江 幸子・宮城 亜矢・瀬長 未美・宮里たくみ

大会実行委員会

田崎オリエ・金城 栄子・屋比久純子・新垣ちとせ・奥浜ゆかり
赤嶺リツ子・川満 昌美・神谷 陽子・千葉早智子・神谷 孝子
元野紀公枝・横田 美和・比嘉 智子・安里 信美・徳田早希子
東 悦子・眞喜志真由美・山城 康代・伊波智恵子・狩俣 弘子
比嘉千代子・渡 美奈子・儀間 久子・比嘉美佐江

第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会 報告誌

平成20年3月 発行

編集・発行

第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会実行委員会

問い合わせ先 (編集委員)

豊見城市真嘉部コミュニティセンター

〒901-0205 豊見城市字根差部375-2

電話 098-840-6828

FAX 098-856-7278



第8回 全国児童館・児童クラブ沖縄大会
実行委員会